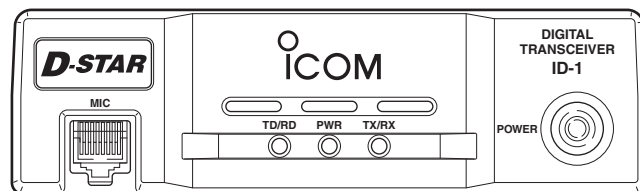
ICOM

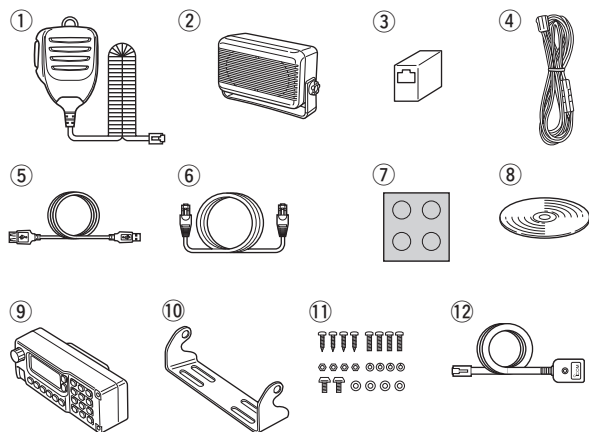
取扱説明書

DIGITAL TRANSCEIVER

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

　このたびは、アマチュア無線デジタル・FMトランシーバーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
　本機は、デジタル通信モードに加え、デジタルデータ通信モード、FM通信モードを備えたトランシーバーです。
コンピューターによる操作、またはRC-24(リモートコントローラー)を使うと通常のトランシーバー感覚での運用が可能になります。
　ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品

① マイクロホン ……………………………………… 1
② 外部スピーカー(SP-22) ……………………………… 1
③ イーサネット中継コネクター ………………………… 1
④ DC電源ケーブル(OPC-345) ………………………… 1
⑤ USB延長ケーブル(OPC-1127)………………………… 1
⑥ イーサネットケーブル(OPC-1069) …………………… 1
⑦ レグクッション ………………………………………… 1組
⑧ アプリケーションCD ………………………………… 1
⑨ RC-24(リモートコントローラー) …………………… 1
⑩ RC-24用マウントブラケット ………………………… 1
⑪ RC-24用マウントブラケット取り付けネジ一式 ……… 1
⑫ マイク延長ケーブル(OPC-647)………………………… 1
取扱説明書……………………………………………… 1
保証書…………………………………………………… 1
愛用者カード…………………………………………… 1

※ お買い上げのタイプによっては、RC-24(リモートコントローラー)、RC-24用マウントブラケット、RC-24用マウントブラケット取り付けネジ一式、マイク延長ケーブル(OPC-647)を付属していない場合があります。

動作環境について

- 対応機種　:USBポート搭載のPC/AT互換機
- 対応OS　　:Windows Vista™
  Windows® XP Professional
  Windows® XP Home Edition
  Windows® 2000 Professional
  Windows® Millennium Edition
  Windows® 98 Second Edition
  Windows® 98

※本書では、各対応OSに対する記載について下記のように総称し、表記しています。
Windows Vista、Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98/98 SE

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc.、ICOM、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
ID-1のソフトウェアおよびドキュメントは、アイコム株式会社が著作権を保有します。
アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。
Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

目　次

はじめに

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■無線機本体について

⚠危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に電源を切ってください。**
  交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
  運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **電子機器の近く（特に医療機器のある病院内）では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- **煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
  すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- **DC電源ケーブルを接続するときは、プラス⊕とマイナス⊖の極性をまちがえないように十分注意してください。**
  火災、故障の原因になります。
- **DC電源ケーブルやプラグが傷ついたり、プラグの差し込みがゆるいときは使用しないでください。**
  ショートや発熱による発火の原因になります。
- **DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。**
  ショートした場合に発火、火災などの原因になります。
- **指定以外のDC安定化電源は使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **車を運転中は、大きな音量で使用しないでください。**
  踏切の警報や他の車のクラクション、その他の警報が聞きとれず、交通事故の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **運転中は、本機の操作をしないでください。**
  交通事故の原因になります。
- **DC電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ひっぱったり、ねじったり、加熱しないでください。**
  ショートして発火の原因になります。
- **雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、DC電源ケーブルには、絶対にさわらないでください。**
  感電事故の原因になります。
- **感電、火災の危険があるほどの湿気、水気、埃の多い場所、風通しの悪い場所での設置、使用をしないでください。**

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **長時間使用すると、放熱器の温度が高くなります。**
  身体を触れないでください。火傷の原因になることがあります。
- **子供や周囲の人が放熱器に触れないようにご注意ください。**
  火傷の原因になることがあります。
- **製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。**
  落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- **電源ケーブルや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。**
  感電やショートして発火の原因になることがあります。
- **機器用プラグに金属片やゴミを付着させないでください。**
  ショートして発火の原因になることがあります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
  変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗料がはがれる原因になることがあります。
  普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- **マイクロホンを接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。**
  故障の原因になることがあります。

その他取り扱い上のご注意

- 電源を接続する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、電源電圧を確認してください。
- 空冷ファンの風通しを妨げるような場所に設置しないでください。
- テレビ、ラジオの近くには設置しないでください。
- 落下などの強い衝撃を与えないでください。
- 長時間使用しない場合は、安全のため、電源を切っておいてください。
- 本装置は、厳重な品質管理のもとに、生産･出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早く、お買い求めいただいた販売店、または弊社営業所へお申し付けください。
- 本製品の仕様は、日本国内向けとなっていますので、海外では使用できません。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考　無線局運用規則　第8章　アマチュア局の運用
第258条　アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。　以下省略

電波を発射する前に

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検し、障害に応じて弊社サービス窓口やお買い上げの販売店などに相談し、適切な処置をしてください。
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。
日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA) 、および(社)日本アマチュア無線連盟 (JARL) では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

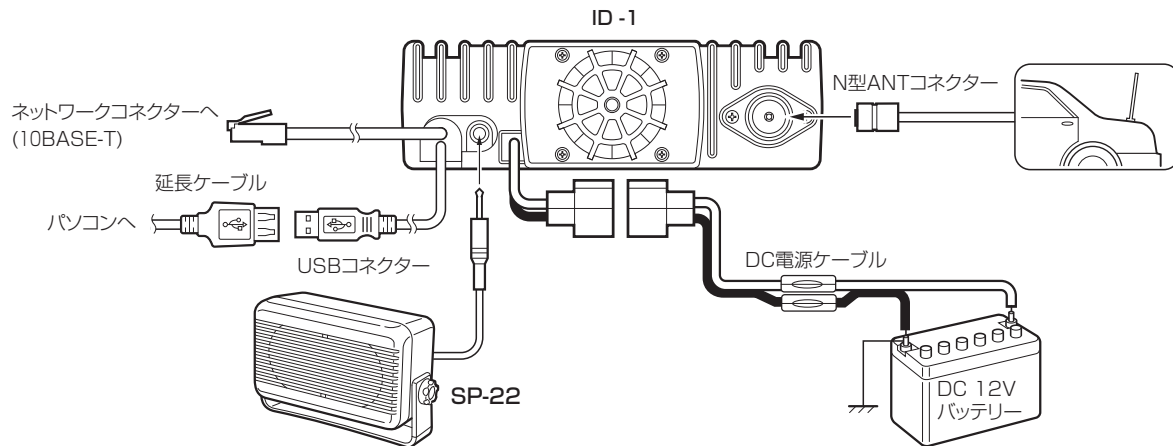
日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA)
〒170---0002　東京都豊島区巣鴨1-10-5
第2川端ビル
TEL 03-3944-8611

(社)日本アマチュア無線連盟 (JARL)
〒170---8073　東京都豊島区巣鴨1-14-5
TEL 03-5395-3111

放熱について

トランシーバーは長時間送信すると、放熱部の温度がかなり高くなります。
室内で運用する場合は、特に子供や周囲の人が放熱部に触れないようにご注意ください。
また、トランシーバーはできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所を選んで設置してください。

1 設置と接続

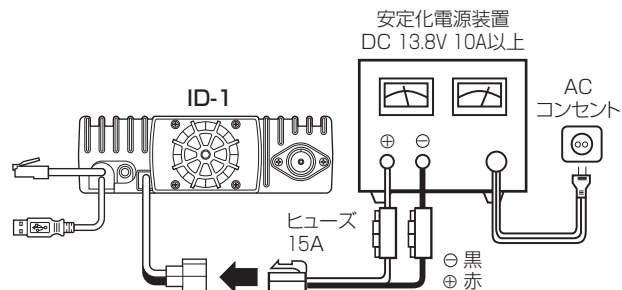
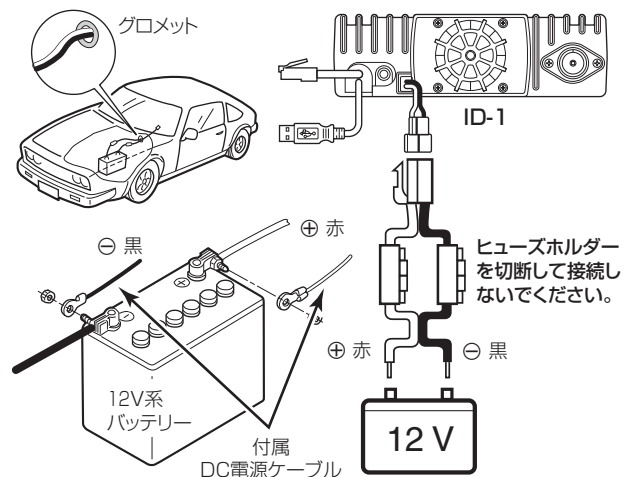
■ 後面パネルの接続

⚠ DC電源ケーブル接続時のご注意

- 配線時は極性(赤色がプラス、黒色がマイナス)を間違えないでください。
- 配線時、DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
- DC電源ケーブルをむりやりひっぱったり、曲げたりしないでください。また、DC電源ケーブルの上に物を乗せたり、ふみつけたりしない所に配線してください。
- DC電源ケーブルは、付属または弊社指定のDC電源ケーブルをご使用ください。
- DC電源ケーブルの配線は、本機を接続する前に行ってください。
- 24V系バッテリーの車は、そのままでは接続できません。DC-DCコンバーター(24Vを12Vに変換する)が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。
- シガレットライターから電源を取っても電流容量が足りません。
  また、容量が足りても、ノイズや誤動作が発生する原因になります。

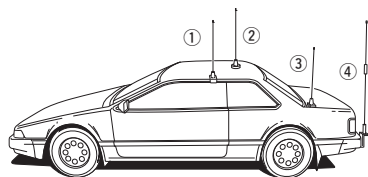
■ 電源の接続

電源は車のバッテリー(12V系)に、直接付属のDC電源ケーブルで接続してください。

① かためのの針金をエンジンルームからグロメットを貫通させて車内に引き込みます。
② 針金の先端をペンチなどで曲げ、DC電源ケーブルをからませ、テープを巻いてエンジンルームへ引き込みます。
③ DC電源ケーブルは赤色が “⊕” プラス側、黒色が “⊖” マイナス側になっています。
間違えないようにバッテリー端子に取り付けます。

◇ 安定化電源装置への接続(固定運用)

◇ バッテリーへの接続(モービル運用)

● **バッテリーとの接続**
市販品の圧着端子をお買い求めください。

■アンテナの接続

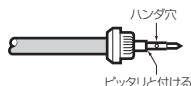
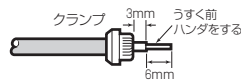
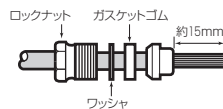
●アンテナの取り付け場所

①ルーフサイド型　③トランクリッド型
②ルーフトップ型　④バンパー型

トランシーバーの性能は、使用するアンテナの良否によって大きく左右されます。
目的に合ったアンテナを、正しい状態で使用することがアンテナの効率をあげることになります。

①アンテナは、後面パネルのANTコネクターに接続してください。
②同軸ケーブルは、できるだけ短くなるように配線してください。
③同軸ケーブルの引き込み口から、雨水が入らないようにご注意ください。

◇同軸ケーブルについて

アンテナの給電点インピーダンスと同軸ケーブルの特性は、50Ωのものをご使用ください。
同軸ケーブルには各種ありますが、できるだけ損失の少ないケーブルを、できるだけ短くしてご使用ください。

●N型同軸コネクターの取り付けかた

外被を除き、ロックナット、ワッシャ、ガスケットゴムを通し、外部網組線をていねいに解く。
●ガスケットとクランプの形は各種のものがありワッシャを使わないものもあります。

クランプを通して解いた網組を一本並べに広げ、余った網組を切落とし、内部絶縁物、中心導線を寸法どおりに切断し、中心導線にうすく前ハンダをしてから中心コンタクトをハンダ付けする。

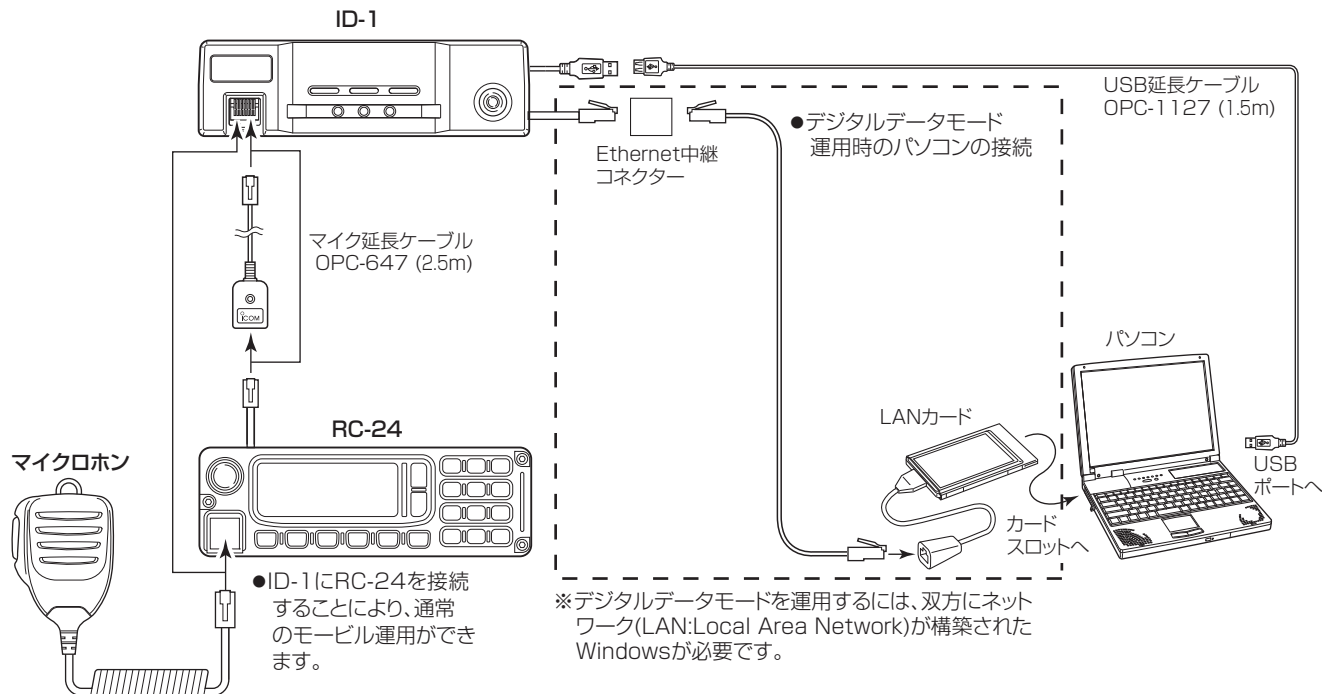
コネクターボディに入れ、ロックナットをしっかりと締め付ける。

●前ハンダ
ハンダ付けがしやすくなるように、うすくハンダ付けしておきます。

※ナイフ、カッター等を使用するときは、網組線、内部絶縁物等にキズをつけないように注意してください。

◇固定運用時のアンテナについて

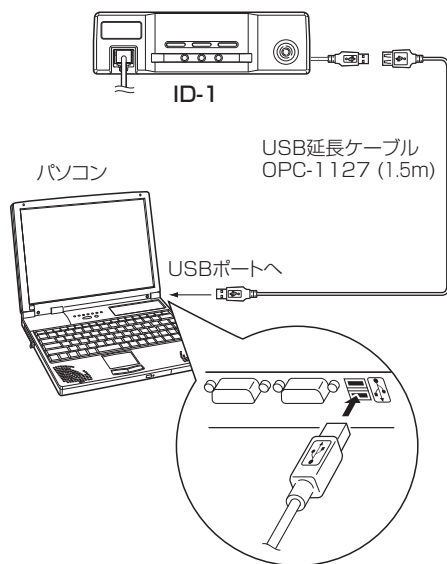
市販のアンテナには、無指向性のアンテナと指向性のアンテナがありますので、用途や設置スペースに合わせてご使用ください。
①無指向性アンテナ（グランドプレーンなど）
ローカル局やモービル局との交信に適しています。
②指向性アンテナ（八木アンテナなど）
遠距離局や特定局との交信に適しています。

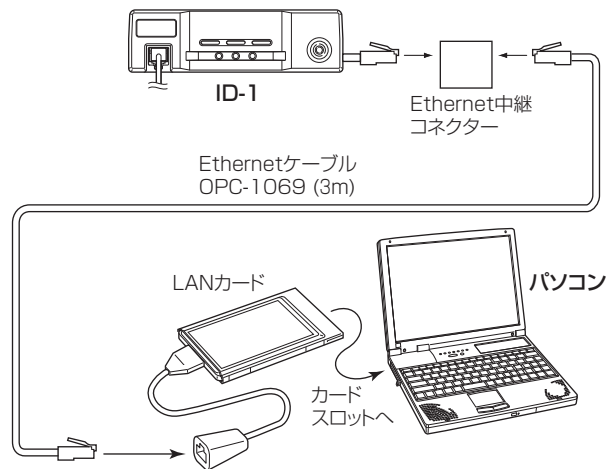
■ID-1の接続方法

●マイクロホンは、ID-1またはRC-24のどちらかに接続できます。

■ パソコンへの接続

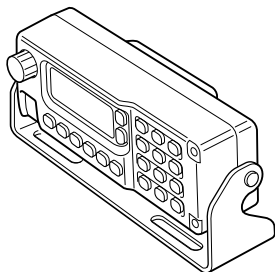
ID-1とパソコンの接続を行います。

◇ ID-1とパソコンの接続

- パソコンとはUSB(Universal Serial Bus)ケーブルで接続します。
- パソコンのUSBポートに、ID-1の後面パネルから出ているUSBケーブルを接続します。

◇ デジタルデータモード運用時の接続

- パソコンとはEthernet(イーサネット)ケーブルで接続します。
- Ethernetケーブルをネットワーク(LAN)コネクター(10BASE-T)へ接続する場合は、付属のイーサネット中継コネクターとケーブルを使用し、ストレート接続します。

※ご使用のパソコンにネットワーク(LAN)コネクター(10BASE-T)が無いときは、ご使用のパソコンに適合したカードスロット用のLANカード(10BASE-T対応)、またはPCIバス用LANアダプター(10BASE-T対応)をご利用ください。

■ RC-24の取り付けかた

◎RC-24に付属のブラケットを利用し、お好みの場所に取り付けてください。

◎接続ケーブルが短い場合は、RC-24に付属のマイク延長ケーブルをご使用ください。

◇ 車載時のご注意

◎安全運転に支障のない場所に設置してください。

◎直射日光の当たる場所、ヒーター/クーラーの吹き出し口など温度変化の激しい場所へ設置しないでください。

◆特に、コントローラー部はできるだけ直射日光の当たらない場所を選択してください。

◎本装置の上に物を乗せたり、本装置をふみつけたりしない場所へ設置してください。

◇ 同時運用時のご注意

RC-24とパソコンにインストールされたID-1コントロールソフトウェアを同時に使用して運用する場合、以下のことにご注意ください。

- ID-1またはID-1コントロールソフトウェア、RC-24から電源を**“ON/OFF”**できます。
- VFO/メモリーチャンネルのデータは、ID-1のメモリーに書き込まれています。
  RC-24は、そのメモリー内容を表示します。
- RC-24で、メモリー内容の編集が可能です。
- ID-1コントロールソフトウェアは起動時、ID-1のメモリーの内容を読み込んで表示します。
- ID-1コントロールソフトウェアからも、ID-1のメモリーの内容の編集ができます。
  RC-24が接続されている場合、その編集結果は、RC-24の表示に反映され、常に同じ内容を表示します。
- RC-24でメモリー/コールチャンネルなどの設定を行ったときは、ID-1コントロールソフトウェアにて、本体からのメモリー読み直しを行ってください。

■ USBドライバーのインストール

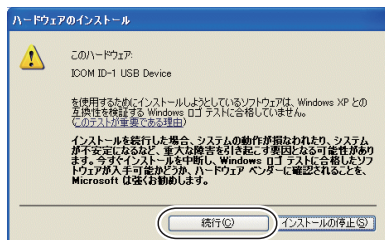
ID-1とパソコンはUSBで接続しています。
このため、パソコンにUSBドライバーをインストールする必要があります。

◇ Windows XPの場合

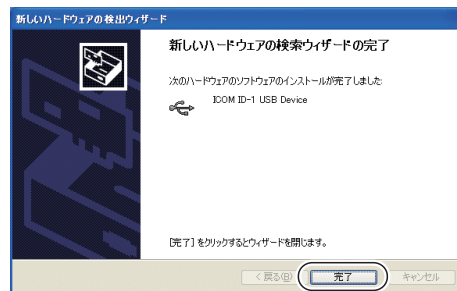
①パソコンの電源を入れます。
②ID-1の**[POWER]**、ID-1コントロールソフトウェアの**[POWER]**またはRC-24の**[PWR]**を押し、電源を入れます。
"PWR LED"が点灯するのを確認してください。
③起動しているアプリケーションをすべて終了します。
④ID-1に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
⑤パソコンのUSBポートに、ID-1からのUSBケーブルを接続します。
USBケーブルが短いときは、付属の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。
⑥USBドライバーのインストールが始まります。
⑦ICOM ID-1 USB Deviceを自動認識し、下記の新しい「新しいハードウェアが見つかりました」画面が表示されます。

⑧「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。
ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)を選択し、[次へ(N) ＞]をクリックします。

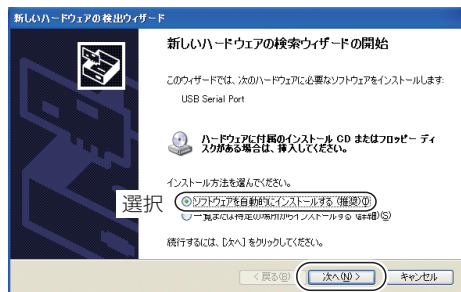
⑨「ソフトウェアをインストールしています。お待ちください...」画面が表示されます。

⑩「このハードウェア　ICOM ID-1 USB Device」画面が表示されます。
[続行(C)]をクリックします。

クリック

⑪「ソフトウェアをインストールしています。お待ちください...」画面が表示されます。
ICOM ID-1 USB Deviceのインストールを開始します。

⑫「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されます。
[完了]をクリックします。

クリック

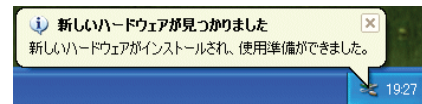
⑬「 新しいハードウェアが見つかりました 」画面が表示されます。
USB Serial Port Driverのインストールを行います。

⑭「 新しいハードウェアの検索ウィザードの開始 」画面が表示されます。
ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)を選択し、[次へ(N)>]をクリックします。

⑮「 ソフトウェアをインストールしています。お待ちください... 」画面が表示されます。

⑯「 このハードウェア　ICOM ID-1 USB Serial Port 」画面が表示されます。
[続行(C)]をクリックします。

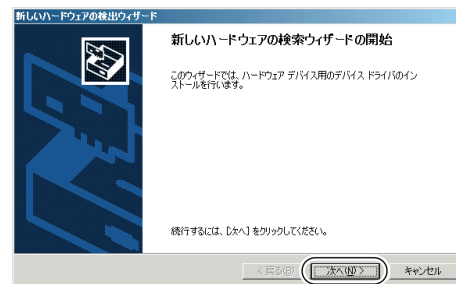
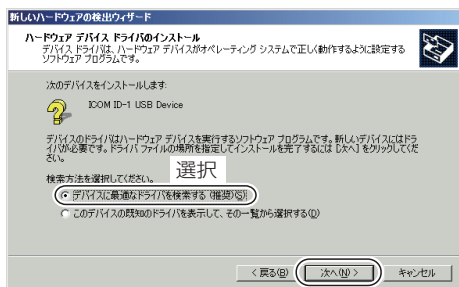
⑰「ソフトウェアをインストールしています。お待ちください...」画面が表示され、ICOM ID-1 USB Serial Portのインストールを開始します。

⑱「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されます。
[完了]をクリックします。

⑲「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」画面が表示されます。

⑳アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

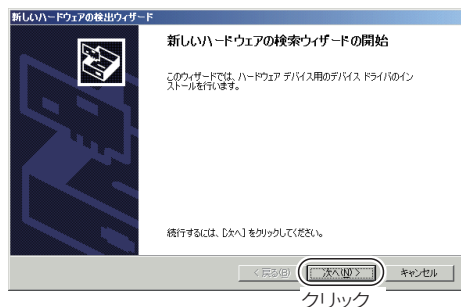
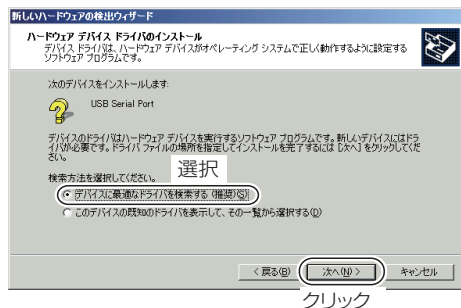
◇ Windows 2000の場合

①パソコンの電源を入れます。
②ID-1の**[POWER]**、ID-1コントロールソフトウェアの**[POWER]**またはRC-24の**[PWR]**を押し、電源を入れます。
"PWR LED"が点灯するのを確認してください。
③現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
④ID-1に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
⑤パソコンのUSBポートに、ID-1からのUSBケーブルを接続します。
USBケーブルが短いときは、付属の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。
⑥USBドライバーのインストールが始まります。
⑦ICOM ID-1 USB Deviceを自動認識し、下記の「新しいハードウェアーが見つかりました」画面が表示されます。

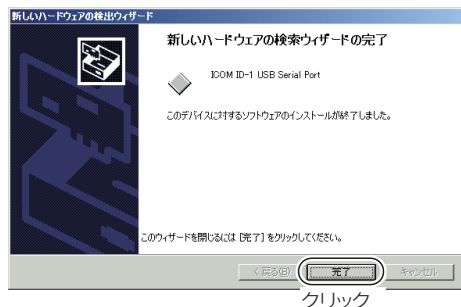
⑧「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されます。
[次へ(N) >]をクリックします。

⑨「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面が表示されます。
デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)を選択し、[次へ(N) >]をクリックします。

⑩「ドライバ ファイルの特定」画面が表示されます。
CD-ROM ドライブ(C)を選択し、[次へ(N) >]をクリックします。

⑪「ドライバ ファイルの検索」画面が表示されます。
[次へ(N) >]をクリックします。

⑫「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されます。
[完了]をクリックします。

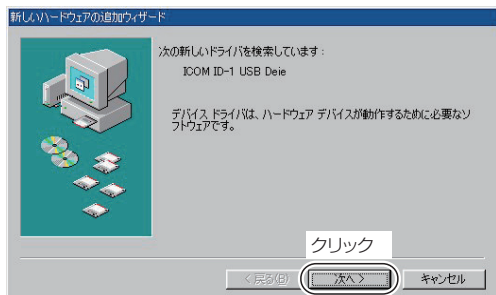
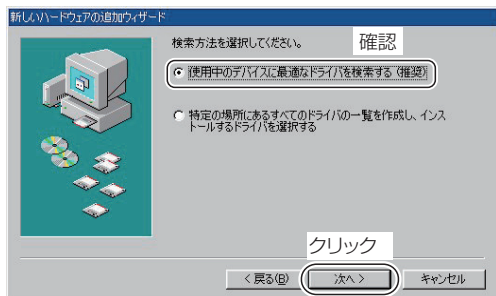
⑬「 新しいハードウェアの検索ウィザードの開始 」画面が表示されます。
[次へ(N) 〉]をクリックします。
USB Serial Port Driverのインストールを行います。

⑭「 ハードウェア デバイス ドライバのインストール 」画面が表示されます。
デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)を選択し、[次へ(N) 〉]をクリックします。

⑮「 ドライバ ファイルの特定 」画面が表示されます。
CD-ROM ドライブ(C)を選択し、[次へ(N) 〉]をクリックします。

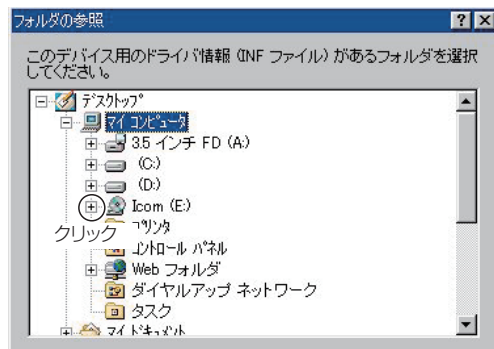
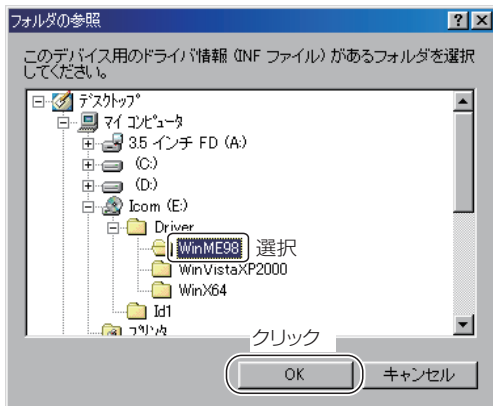
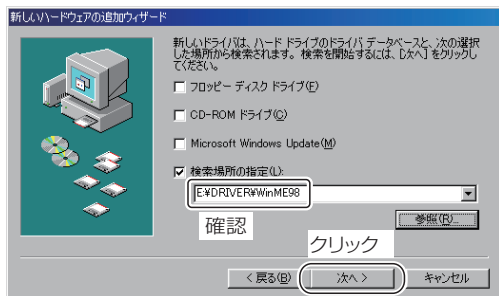
⑯「 ドライバ ファイルの検索 」画面が表示されます。
[次へ(N) 〉]をクリックします。

⑰「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」が表示されます。
[完了]をクリックします。

⑱アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

◇ Windows 98/98 SE/Windows Meの場合

①パソコンの電源を入れます。
②ID-1の**[POWER]**、ID-1コントロールソフトウェアの**[POWER]**またはRC-24の**[PWR]**を押し、電源を入れます。
“PWR LED”が点灯するのを確認してください。
③現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
④ID-1に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブ[E:](以後CDドライブをEとする)に挿入します。
※なお、CDドライブ名[E:]はご使用のパソコンにより異なります。
⑤パソコンのUSBポートに、ID-1からのUSBケーブルを接続します。
USBケーブルが短いときは、付属の延長ケーブル(OPC-1127)を使用してください。

⑥USBドライバーのインストールが始まります。
⑦ICOM ID-1 USB Deviceを自動認識し、下記の新しい「ハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。
⑧[次へ 〉]をクリックします。

⑨「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」が選択されていることを確認し、[次へ 〉]をクリックします。
※Windows Meのかたは、手順⑩の操作に移ります。

⑩「検索場所の指定(L)」が選択("✔"チェックマーク点灯)されていることを確認し、[参照(R)...]をクリックします。
残りの選択項目は、すべて"✔"チェックマークを外します。

⑪「フォルダの参照」画面が表示されます。
CD-ROMフォルダの⊞をクリックします。

⑫アプリケーションCDの内容が表示されます。
Driverを選択し、[OK]をクリックします。

⑬「 検 索 場 所 の 指 定(L) 」の テ キ ス ト ボ ッ ク ス が**“E:\DRIVER\WinME98”**であることを確認し、[次へ 〉]をクリックします。
(CDドライブ名**“E:”**はご使用のパソコンにより異なります。)

⑭「 次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 」が表示されます。
[次へ 〉]をクリックします。

⑮「 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。 」が表示されます。
[完了]をクリックします。

⑯アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

■ ID-1コントロールソフトウェアのインストール

◇ Windows XP/Windows 2000の場合

ID-1コントロールソフトウェアをインストールします。
※ なお、画面はWindows XPで表記しています。

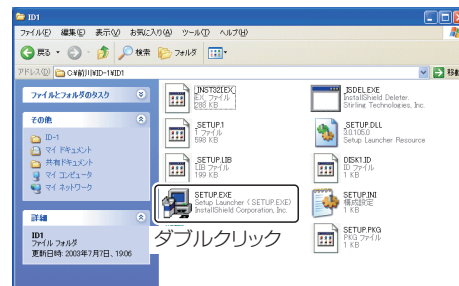
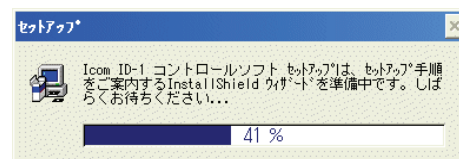
① パソコンの電源を入れ、管理者権限でログオンします。
※ パソコンで起動しているすべてのアプリケーションを終了させます。

② ID-1に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。

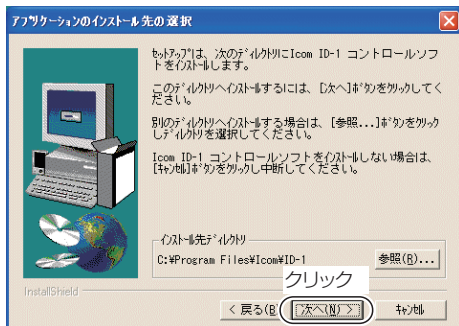
③ マイコンピュータをダブルクリックし、ウインドウを開きます。
または、マイコンピュータを右クリックし、エクスプローラ(E)を開きます。

④ CDドライブ[Icom (E)]をダブルクリックします。
※ アプリケーションCDの内容が表示されます。

⑤ ID-1をダブルクリックし、フォルダを開きます。

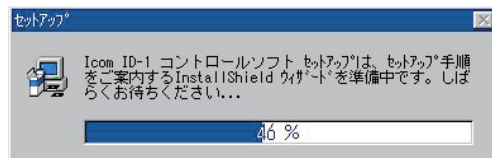
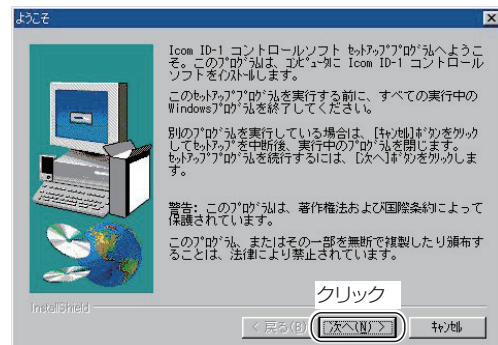
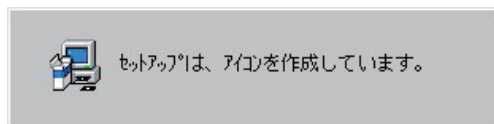
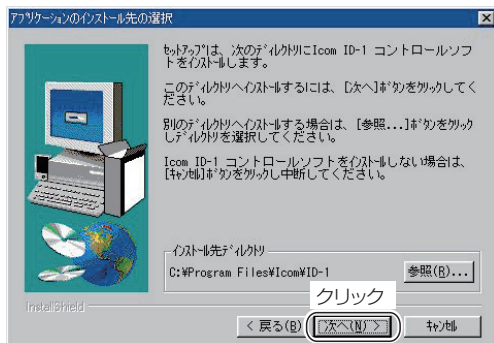
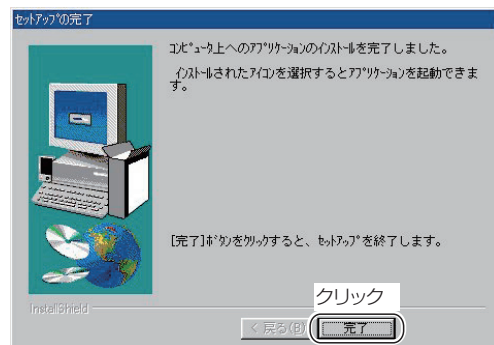
⑥ [Setup.exe]をダブルクリックすると、コントロールソフトウェアのインストールが開始されます。

⑦ セットアップウィザード画面が表示されます。

⑧「コンピュータにIcom ID-1 コントロールソフトをインストールします。」画面が表示されます。
[次へ(N) 〉]をクリックします。

⑨「次のディレクトリにIcom ID-1 コントロールソフトをインストールします。」画面が表示されます。
[次へ(N) 〉]をクリックします。

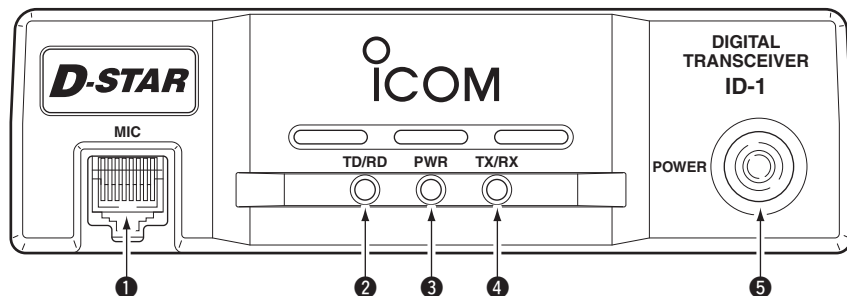
⑩「コンピュータ上へのアプリケーションのインストールを完了しました。」画面が表示されます。
[完了]をクリックします。

⑪アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

◇ Windows 98/98 SE/Windows Meの場合

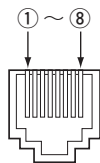
①パソコンで起動しているすべてのアプリケーションを終了させます。
②ID-1に付属しているCD(アプリケーションCD)をパソコンのCDドライブに挿入します。
③マイコンピュータをダブルクリックし、ウインドウを開きます。
または、マイコンピュータを右クリックし、エクスプローラ(E)を開きます。
④CDドライブ[Icom (E)]をダブルクリックします。
※アプリケーションCDの内容が表示されます。

⑤ID-1をダブルクリックし、フォルダを開きます。
⑥「セットアップウィザード」画面が表示されます。

⑦「このプログラムは、コンピュータにID-1コントロールソフトウェアのインストールをします。」画面が表示されます。
[次へ(N) 〉]をクリックします。

⑧「次のディレクトリにID-1 コントロールソフトをインストールします。」画面が表示されます。
[次へ(N) 〉]をクリックします。
ID-1のショートカット作成が画面に追加されます。

⑨「コンピュータ上へのアプリケーションのインストールを完了しました。」が表示されます。
[完了]をクリックします。

⑩アプリケーションCDをCDドライブから取り出します。

3 各部の名称と機能

■ 前面パネル

❶ マイクコネクター
付属のマイクロホンを接続するコネクターです。(☞P7)
RC-24使用時は、RC-24からのコントロールケーブルを接続します。(☞P7)

● マイクコネクター結線図

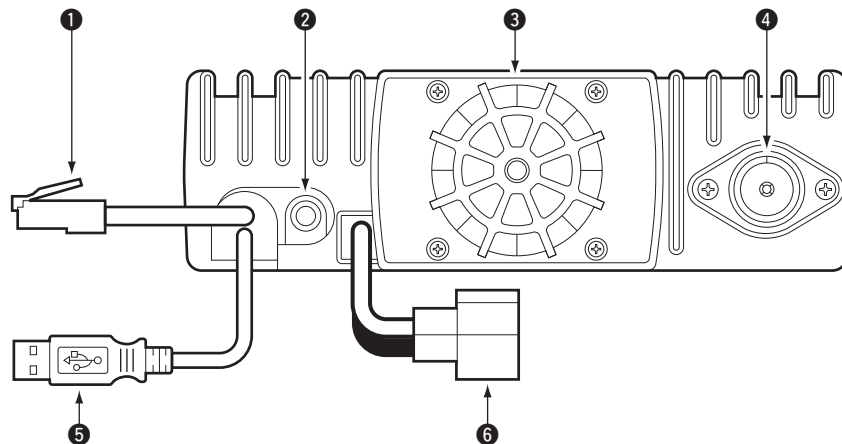
(正面から見た図)

① +8V　(+8V/最大100mAの出力)
② MIC U/D　(マイク　アップ/ダウン信号入力)
③ DATA OUT　(RC-24用データ出力)
④ PTT
⑤ GND　(マイクのアース)
⑥ MIC　(マイクの信号入力)
⑦ GND　(PTTのアース)
⑧ DATA IN　(RC-24用データ入力)

❷ TD(デジタルデータ送信)/ RD(デジタルデータ受信)表示LED
デジタルデータモードで、パソコンへのデータを送信または受信している状態を表示します。
➥データをパソコンに送信しているとき赤色で表示します。
➥データをパソコンから受信しているとき緑色で表示します。

❸ PWR(電源)表示LED
電源が**"ON"**の状態を緑色で表示します。

❹ TX(送信)/RX(受信)表示LED
➥送信中を赤色で表示します。
➥受信状態でスケルチが開いていることを緑色で表示します。

❺ POWER(電源)スイッチ
押すごとに電源を**"ON/OFF"**します。

■ 後面パネル

❶ Ethernet(イーサネット)ケーブル
ネットワーク(LAN)コネクター(10BASE-T)と接続します。(☞P4、8)

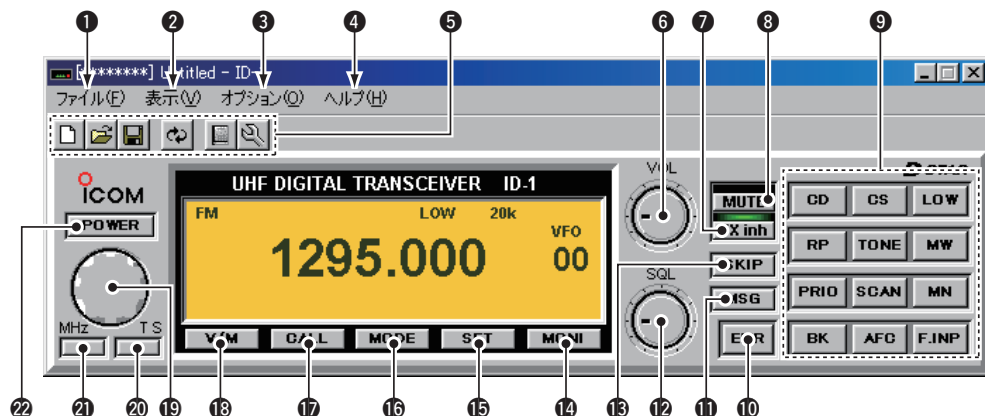
❷ SP(外部スピーカー端子)
外部スピーカーを接続します。(☞P4)
インピーダンスは標準で8Ωです。

❸ 空冷ファン
放熱用のファンです。
送信時自動的に動作させるオートと、電源"**ON**"と同時に動作する連続動作の切り替えは、セットモード(☞P103)で選択します。

❹ ANTコネクター
アンテナを接続するコネクターです。(☞P4、6)
インピーダンス50Ωのアンテナを、N型コネクターで接続します。

❺ USB(Universal Seria Bus)ケーブル
パソコンのUSBポートと接続します。(☞P4、8)

❻ 電源コネクター
DC 13.8Vの電源を接続するコネクターです。(☞P4、5)
付属のDC電源ケーブル利用して、車載時はカーバッテリーに、屋内運用時はDC 13.8Vの外部電源装置に接続します。

■ ID-1コントロールソフトウェア画面

❶ **ファイル(F)メニュー**
下記のファイルメニューが選択できます。

- **無線機の初期化(N)：**
ID-1を初期化(工場出荷時の状態)します。
- **開く(O)：**
保存されたM-CHのデータ(ファイル名は＊.icf)を読み込みます。
- **上書き保存(S)：**
編集したM-CHのデータを上書き保存します。
- **名前を付けて保存(A)：**
編集したM-CHのデータを名前を付けて保存します。
ファイルの拡張子は“**.icf**”が自動的に付けられます。
- **本体からメモリー読み直し(R)：**
本体からメモリーチャンネル編集画面の内容を読み直しします。
- **メモリーを印刷(P)：**
メモリーチャンネルリストを印刷します。
プリンターの設定メニューを開きますので、用紙サイズなどを選択して印刷を実行してください。
- **終了(X)：**
ID-1コントロールソフトウェアを終了します。

❷表示(V)メニュー
下記の表示メニューが選択できます。

- **〈メモリーチャンネル編集(M)〉:**
  M-CHの周波数、TONEの設定、運用モードなどを設定する、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
  (☞P30、71、73、76、82、89、92)
  パソコンのファンクションキー**[F6]**を押すと、メモリーチャンネル編集画面が**"ON/OFF"**します。
- **〈セットモード編集(C)〉:**
  セットモード画面(☞P95)を表示します。
  [SET]キーと同じ機能です。
  パソコンのファンクションキー**[F7]**を押すと、セットモード画面が**"ON/OFF"**します。
- **〈表の文字の大きさ(S)〉:**
  〈メモリーチャンネル編集(M)〉およびセットモードの文字の大きさを設定します。
  選択できるサイズは、60%(小)、80%、100%(標準)、120%、150%(大)です。
- **〈ツールバー表示(T)〉**
  ツールバーの表示·非表示を選択します。
- **〈MyCallSign〉**
  自局のコールサイン表示を選択します。
  コールサインを設定していないときは"No Call Sign"を表示します。
  なお、初期設定時は"＊＊＊＊＊＊＊＊"が表示されます。

❸オプション(O)メニュー
下記のオプションメニューが選択できます。

- **〈COMポート(P)〉:**
  COMポートの設定を行います。
  ID-1コントロールソフトウェアが本体と通信できないときは、COMポート番号の設定が間違っている場合があります。

※ COMポートの確認
パソコンの[システムのプロパティ][ディバイスマネージャー][ポート(COM/LPT)]に**"ICOM ID-1 USB Serial Port (COM＊)"**が表示していることを確認してください。
[ポート]に"ICOM ID-1 USB Serial Port (COM＊)"が表示されていない場合はUSBドライバーが正常にインストールされていない可能性があります。
USBドライバーを再インストールしてください。
(☞P10〜19)

※ "通信用COMポート設定"が表示されている場合
COMポート番号を入力し、〈設定〉をクリックします。

- **〈起動時にPower ON〉:**
  ID-1コントロールソフトウェア起動時、ID-1の電源を同時に**"ON"**にするかどうかを設定します。

❹ヘルプ(H)メニュー
〈目次〉〈バージョン情報〉をクリックすることで、ID-1コントロールソフトウェアのバージョン、および機能と操作説明が表示されます。

■ID-1コントロールソフトウェア画面(つづき)

❺ **ツールバー**
ショートカットボタンをクリックすることで簡単に操作ができます。

:無線機の初期化ボタン
:ファイルを開くボタン
:上書き保存ボタン
:本体からメモリーの読み直しボタン
:メモリーチャンネル編集ボタン
:セットモードボタン

❻ **[VOL](音量)ツマミ**
音量を調整するツマミです。(☞P40)
マウスの左クリックで音量が小さくなり、右クリックで大きくなります。

❼ **[TX inh](送信禁止)ボタン**
DD(デジタルデータ)モード時、送信禁止の**"ON/OFF"**を切り替えます。(☞P55)

❽ **[MUTE](ミュート)ボタン**
音声ミュート(音声出力の停止)の**"ON/OFF"**を切り替えるボタンです。

❾ **ファンクションボタン**
[CD] :クリックするごとに、受信履歴画面の表示が**"ON/OFF"**します。(☞P58)
[CS] :クリックするごとに、コールサイン選択画面の表示が**"ON/OFF"**します。(☞P46)
[LOW] :クリックするごとに、送信出力が切り替わります。(☞P50)
LOWパワー選択時は、ディスプレイに**"LOW"**を表示します。
[RP] :クリックするごとに、レピータモード(RP−、RP+、RPS)とシンプレックスモードが切り替わります。(☞P64、68)
[TONE] :FMモード時、クリックするごとにTONE(トーンエンコーダー)、PBEEP(ポケットビープ)、TSQL(トーンスケルチ)と解除が切り替わります。(☞P106)
[DSQL] :DV(デジタル音声)/DD(デジタルデータ)モード時、クリックするごとにDBEEP(コールサインスケルチのポケットビープ)、DSQL(デジタルコールサインスケルチ)、CBEEP(コードスケルチのポケットビープ)、CSQL(デジタルコードスケルチ)と解除が切り替わります。(☞P106)
[MW] :クリックするごとに、メモリーライト画面の表示が**"ON/OFF"**します。
(☞P75、78、80、88)
[PRIO] :クリックするごとに、プライオリティスキャンが**"ON/OFF"**します。(☞P93)
[SCAN] :クリックすると、スキャン選択画面が表示されます。(☞P87、90、91)
スキャンしたい項目をクリックします。
[MN] :メモリーモード時、クリックするごとにメモリーネーム表示と周波数表示が切り替わります。(☞P84)

[BK]　：デジタル(音声･データ)モード運用時、割り込み通信を**“ON/OFF”**します。(☞P111)
[AFC]　：クリックするごとに、AFC(自動周波数制御)機能が**“ON/OFF”**します。(☞P113)
[F.INP]　：クリックするごとに、周波数入力用のテンキー画面の表示が**“ON/OFF”**します。(☞P42、61、71、88)

⑩ [EMR] (EMRモード)ボタン
EMRモードを選択します。(☞P110)

⑪ [MSG] (メッセージ)ボタン
クリックするごとに、メッセージ機能画面を**“ON/OFF”**します。(☞P116)

⑫ [SQL] (スケルチ)ツマミ
スケルチレベルを調整するツマミです。(☞P40)
マウスの左クリックでスケルチレベルがダウンし、右クリックでスケルチレベルがアップします。
FMモード運用時は雑音“ザー”が消え、“BUSY”表示が消灯する位置にセットします。

⑬ [SKIP] (スキップ)ボタン
M-CHにスキップを指定します。(☞P92)
メモリーモード時、クリックするごとにM-CHにスキップ指定が**“ON/OFF”**します。

⑭ [MONI] (モニター)ボタン
スケルチを一時的に開きます。(☞P63、68、114)
クリックするごとに、モニター機能が**“ON/OFF”**します。
デュプレックス運用時は、送信周波数を受信します。

⑮ [SET] (セットモード)ボタン
セットモードを選択します。(☞P95)
クリックするごとに、セットモード画面の表示が**“ON/OFF”**します。

⑯ [MODE] (電波型式)ボタン
運用モードを切り替えます。(☞P45)
クリックするごとに、FM、DV(デジタル音声)、DD(デジタルデータ)と運用モードが切り替わります。

⑰ [CALL] (コールチャンネル)ボタン
コールチャンネルを呼び出します。(☞P73)
クリックするごとに、C1/C2/C3とコールチャンネルが切り替わります。

⑱ [V/M] (VFOモード/メモリーモード)ボタン
VFOモード/メモリーモードを切り替えます。(☞P41)
クリックするごとに、VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

⑲ [DIAL] (ダイヤル)ツマミ
運用周波数、M-CHを設定する**[DIAL]**ツマミです。(☞P42、70)
マウスの左クリックでダウンし、右クリックでアップできます。

⑳ [TS] (チューニングステップ)ボタン
チューニングステップを変更するボタンです。(☞P44)
変更できるステップは、5/6.25/10/12.5/20/25/50/100kHzです。

■ ID-1コントロールソフトウェア画面(つづき)

㉑ [MHz](1MHzステップ)ボタン
1MHzステップを選択するボタンです。(☞P42)
クリックするごとに、1MHzステップ機能が**“ON/OFF”**します。

㉒ [POWER](電源)ボタン
ID-1の電源を**“ON/OFF”**するボタンです。(☞P39)
- ID-1コントロールソフトウェアを終了させることはできません。
- ID-1コントロールソフトウェアを終了するときは、右上隅の ☒(クローズ)ボタンをクリックするか、ファイルメニューの「終了(X)」をクリックします。

■ メモリーチャンネル編集画面

M-CHの内容は、表計算式のメモリーチャンネル編集画面から編集できます。

❶CH
ディスプレイに表示されるM-CH番号です。

❷選択
M-CHが選択できます。
マウスのカーソルを選択するチャンネルのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
このCHに移動メニューが表示されます。
カーソルを「○：このCHに移動」の上に移動して、左クリックすると、コントロールソフト上のM-CHが選択したM-CHになります。

❸周波数
運用周波数が入力できます。
マウスのカーソルを周波数を設定するチャンネルのセル上に移動させ、クリックします。
セルの表示が反転表示になります。
パソコンのキーボードから直接周波数を入力します。

《例》● 1296.580MHzを入力する場合；
[1] [2] [9] [6] [.] [5] [8] [ENT]と入力します。
● 1296.1375MHzを入力する場合；
[1] [2] [9] [6] [.] [1] [3] [7]
※[7]を入力した時点で、周波数を確定します。

❹モード
運用モードが選択できます。
マウスのカーソルをモードを変更したいチャンネルのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
モード選択メニューが表示されます。
左クリックで「FM/DV(デジタル音声)/DD(デジタルデータ)」を選択します。

❺レピータ

● RP
レピータの設定ができます。
マウスのカーソルをデュプレックスを設定したいチャンネルのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
デュプレックスモード選択メニューが表示されます。
左クリックで「Simplex(シンプレックス)/RP−(マイナスシフト)/RP＋(プラスシフト)/RPS(データレピータ)」を選択します。

● **オフセット周波数**
マウスのカーソルを移動したいチャンネルのセル上に移動させ、クリックします。
セルの表示が反転表示になります。
パソコンのキーボードから直接オフセット周波数を入力します。

《例》16.5MHzを設定する場合
[1] [6] [.] [5] [ENT]と入力します。

■ メモリーチャンネル編集画面(つづき)

❻ TONE/TSQL

● **TONE選択**

マウスのカーソルをトーンを設定したいチャンネルのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
トーンメニューが表示されます。
左クリックで「OFF/TONE:レピータ用トーンエンコーダー/TSQL:トーンスケルチ」を選択します。

● **レピータトーン・TSQLトーン**

レピータトーン・TSQLトーンは個別に設定できます。
マウスのカーソルをレピータトーンまたはTSQLトーンのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
トーン周波数選択メニューが表示されます。
左クリックで希望のトーン周波数を選択します。

❼ **デジタル**

● **DSQL**

マウスのカーソルをデジタルコールスケルチを設定したいチャンネルのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
デジタルスケルチ選択メニューが表示されます。
左クリックで「OFF/デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ」を選択します。

● **コード**

マウスのカーソルをコードを設定したいチャンネルのセル上に移動させ、クリックします。
セルの表示が反転表示になり、パソコンのキーボードから文字入力が可能になります。
2ケタ(00〜99)のデジタルコードを入力します。

❽ **コールサイン**

● **相手局・送り元中継局・送り先中継局**

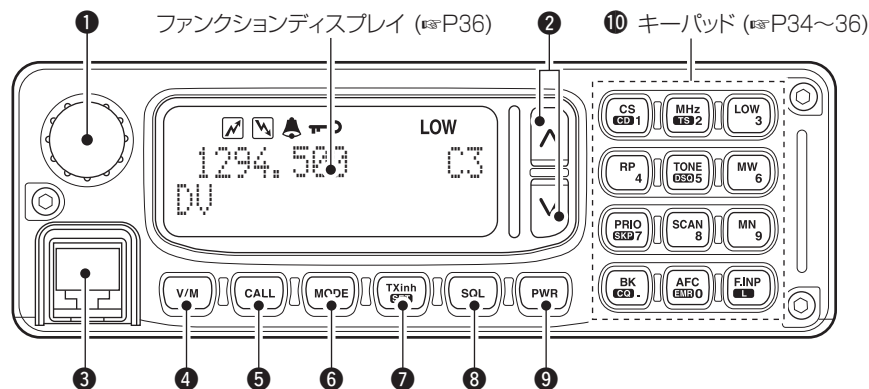
マウスのカーソルをデジタルコールサインを設定したいチャンネルのセル上に移動させ、クリックします。
セルの表示が反転表示になり、パソコンのキーボードから文字入力が可能になります。
キーボードから相手局・送り元中継局・送り先中継局のコールサインを入力します。

❾ SKIP

マウスのカーソルをスキップを設定したいM-CHのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
スキップチャンネルを指定するスキップ選択メニューが表示されます。
左クリックで**"SKIP"**(スキップ)を選択します。
"SKIP"を指定すると、そのチャンネルはメモリースキャン時に飛び越して(スキップ)スキャンします。
・**"SKIP"**を解除するときは**"OFF"**をクリックします。

❿ **メモリーネーム**

M-CHにメモリーネームをつけることができます。
マウスのカーソルをメモリーネームを設定したいチャンネルのセル上に移動させ、クリックします。
セルの表示が反転表示になり、メモリーネームの入力が可能になります。
パソコンのキーボードから10文字以内でメモリーネームを入力します。
※"＼"のキャラクターは、日本語OSで入力時に"¥"で表示されることがありますが、RC-24のPCコントロール画面では"＼"で表示されます。

■ RC-24(リモートコントローラー)

❶ **[DIAL](ダイヤル)ツマミ**
運用周波数、M-CHを設定する**[DIAL]**ツマミです。
(☞P43、72)
[DIAL]を時計方向に回すとアップし､逆に回すとダウンします。

❷ **アップ･ダウンキー[∧]/[∨]**
音量を調整するキーです。(☞P40)
[∧]を押すと大きくなり、[∨]を押すと小さくなります。
･ファンクションディスプレイに**“VOL”**と**“レベル”**が表示されます。(約1秒後に通常表示に戻ります。)
･**“00”**から**“32”**までを33段階で調整します。
･[SQL]を押すと､スケルチ調整キーとして動作します。(☞P41)
･[∧]を押すとスケルチレベルがアップし、[∨]を押すとスケルチレベルがダウンします。
･ファンクションディスプレイに**“SQL”**と**“レベル”**が表示されます。(約1秒後に通常表示に戻ります。)
･**“00”**から**“32”**までを33段階で調整します。
･FMモード運用時は雑音**“ザー”**が消え､受信インジケータ“ ”が消灯するレベルにセットします。
･再度、**[SQL]**を押すとVOL調整に戻ります。
･音量調整またはスケルチ調整のとき、[∧]または[∨]を押し続けると､連続して変化します。

■RC-24(リモートコントローラー) (つづき)

❸マイクコネクター

付属のマイクロホンを接続するコネクターです。(☞P7)

・RC-24に付属のマイク延長ケーブルも使用できます。

❹[V/M](VFO モード / メモリーモード) キー

VFOモード/メモリーモードを切り替えます。(☞P41)
キーを押すごとに、VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

❺[CALL](コールチャンネル)キー

CALLチャンネルを選択します。(☞P74)
キーを押すごとに、C1/C2/C3とコールチャンネルが切り替わります。

❻MODE(電波型式) キー

運用モードを切り替えます。(☞P45)
キーを押すごとに、FM→DV(デジタル音声)→DD(デジタルデータ)と運用モードが切り替わります。

❼[TXinh SET](送信禁止 / セットモード) キー

➥キーを短く押すごとに、デジタルデータモード時、送信禁止の"ON/OFF"を切り替えます。(☞P56)
➥キーを長く(約0.5秒)押すと、セットモードになります。
➥DVモード時にキーを短く押すと、メッセージ画面表示になります。(☞P117)

❽[SQL](スケルチ) キー

スケルチの調整モードにします。(☞P41)
[∧]または[∨]キーを押し、スケルチレベルを調整します。
設定値はファンクションディスプレイに表示されます。
(約1秒後に通常表示に戻ります。)
"00"から"32"までを33段階で調整します。

❾[PWR](電源) キー

ID-1の電源を"ON/OFF"するボタンです。(☞P39)
キーを押すと電源が"ON"となり、もう一度長く(約1秒)押すと電源が"OFF"になります。

❿キーパッド

CS CD 1

[CS CD 1]
➥キーを短く押すと、コールサイン選択画面が表示されます。(☞P47〜49、65、107、112)
➥キー長く(約0.5秒)押すと、受信履歴画面が表示されます。(☞P59)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネルの設定時の置数[1]となります。

MHz TS 2

[MHz TS 2]
➥キーを短く押すと、1MHzステップの可変操作となり、表示している周波数の100KHz以下の表示が消えます。(VFOモードのみ)(☞P43)
※再度、短く押すと、もとの可変操作に戻ります。
➥キーを長く(約0.5秒)押すと、チューニングステップが選択できます。(☞P44)
選択できるチューニングステップは、5→6.25→10→12.5→20→25→50→100kHzです。
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[2]となります。

LOW 3

[LOW 3]
➥キーを押すごとに、送信出力が切り替わります。(☞P50)
LOWパワー選択時は、ディスプレイに**“LOW”**が表示されます。
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[3]となります。

RP 4

[RP 4]
➥キーを押すごとに、レピータモード(RP−、RP+、RPS)とシンプレックスモードが切り替わります。(☞P65、69)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[4]となります。

TONE DSQ 5

[TONE DSQ 5]
➥FMモード時、キーを押すごとに、TONE(トーンエンコーダー)、🔔TSQL(ポケットビープ)、TSQL(トーンスケルチ)が切り替わります。(☞P108)
➥DVモード時、キーを押すごとに、🔔DSQL(デジタルコールサインスケルチのポケットビープ)、DSQL(デジタルコールサインスケルチ)、🔔CSQL(デジタルコードスケルチのポケットビープ)、CSQL(デジタルコードスケルチ)と解除が切り替わります。(☞P108)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[5]となります。

MW 6

[MW 6]
➥キーを短く押すと、M-CH表示が点滅し[DIAL]でM-CHを選択できます。(☞P78、80、81、89)
➥キーを長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押すと、M-CHへの書き込み操作となります。(☞P78、80、81、89)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[6]となります。

PRIO SKP 7

[PRIO SKP 7]
➥キーを短く押すごとに、プライオリティスキャンのスタート/ストップが切り替わります。(☞P94)
➥キーを長く(約0.5秒)押すごとに、M-CHへのスキップ指定が**“ON/OFF”**します。(メモリーモード時)(☞P92)
➥[F.INP]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[7]となります。

SCAN 8

[SCAN 8]
➥キーを短く押すごとに、スキャンのスタート/ストップが切り替わります。(☞P87、90、91)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[8]となります。

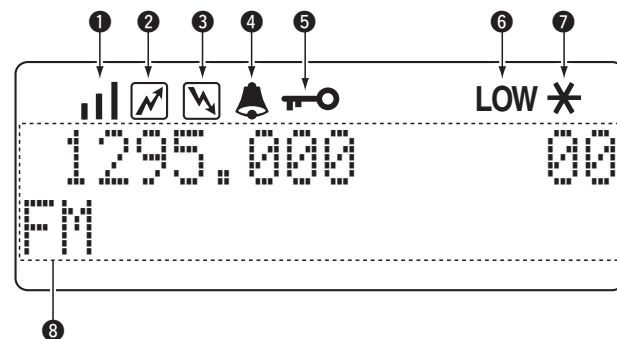
■ RC-24(リモートコントローラー) (つづき)

[MN 9]
➥キーを押すごとに、メモリーネーム表示と周波数表示が切り替わります。(メモリーモード時)
(☞P83、84)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[9]となります。

[BK CQ .]
➥キーを短く押すごとに、デジタル(音声･データ)通信時の割り込み通信機能が“ON/OFF”します。
(☞P111)
➥キーを長く(約0.5秒)押すと、呼び出し先のコールサインがCQに書き替わります。(☞P51、56、66)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[.]となります。

[AFC EMR 0]
➥キーを短く押すごとに、AFC(自動周波数制御)機能が“ON/OFF”します。(☞P113)
➥キーを長く(約2秒)押すごとに、EMRモード機能が“ON/OFF”します。(☞P110)
➥[F.INP L]キーに続いて押すと、周波数/メモリーチャンネル設定時の置数[0]となります。

[F.INP L]
➥キーに続いて押すと、キーボードより周波数(M-CH)を直接入力できます。
(☞P43、62、72、74、89)
➥キーを長く押し続けると、ロック機能が“ON/OFF”します。(☞P44)

■ ファンクションディスプレイ

❶ レベル表示インジケーター
受信時は、受信信号のレベルを表示します。
送信時は、送信出力のレベルを表示します。

❷ 送信インジケーター
送信状態であることを表示します。

❸ 受信インジケーター
受信状態で、スケルチが開いているときに点灯します。
モニター機能動作時も点灯します。

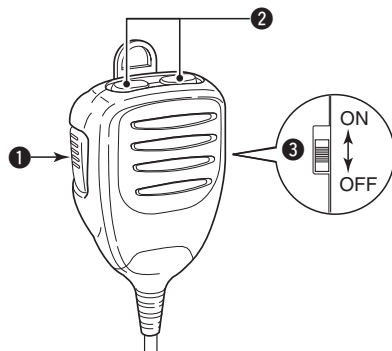
❹ ポケットビープインジケーター
各種ポケットビープ機能が動作中であることを表示します。

❺ [DIAL] ロックインジケーター
ロック状態であることを表示します。
[PWR]、[∧]/[∨]、[SQL]、[LOW]と[F.INP L]キー以外の操作はできません。

❻ LOW パワーインジケーター
送信出力が**“LOW”**パワーのときに点灯します。

❼ メッセージ受信インジケーター
DVモード運用時に、メッセージを受信すると点滅します。

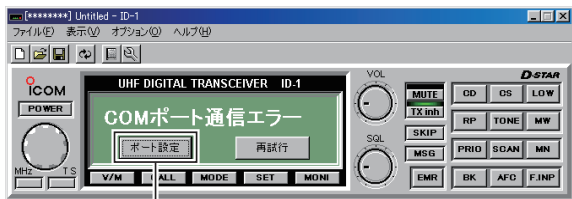
❽ ドットマトリックスインジケーター
16ケタ･2行で、運用周波数、M-CH、運用モード、メモリーネームなどを表示します。

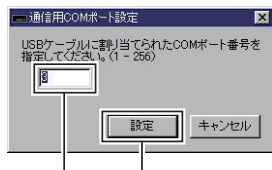
■マイクロホンについて

❶ PTTスイッチ
- 送信と受信を切り替えます。(☞P50)
- スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話してください。
- スイッチを離すと受信に戻ります。

❷ UP(アップ)スイッチ/DN(ダウン)スイッチ
- VFOモード時は、周波数のアップ/ダウンができます。(☞P42)
- メモリーモード時は、メモリーチャンネル(M-CH)のアップ/ダウンができます。(☞P72)
- 押し続けると、連続動作となります。

❸ UP(アップ)/DN(ダウン)制御スイッチ
- [UP]/[DN]スイッチの有効/無効を切り替えるスイッチです。
- **“**ON**”**側に切り替えると、[UP]/[DN]スイッチの動作を有効にします。
- **“**OFF**”**側に切り替えると、[UP]/[DN]スイッチの動作が無効となります。

■ ID-1コントロールソフトウェアを起動する

①Windowsのパソコンを起動します。
②マウスを〈スタート〉→〈プログラム〉→〈ID-1〉の順に操作し、ID-1コントロールソフトウェアを起動します。
※[COMポート通信エラー]画面が表示される場合は、COMポート番号の設定が間違っています。
③**[ポート設定]**をクリックします。

クリック

④通信用COMポート設定画面が表示されます。
キーボードからCOMポート番号を入力し、**[設定]**をクリックします。

COMポート番号を入力し、**[設定]**をクリックする

● **COMポートの確認(Windows XP/2000の場合)**

①マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ](右クリック)→「プロパティ(R)」の順にクリックします。
「システムのプロパティ」を表示します。
※Windows XPの場合、マイコンピュータはスタートメニューにあります。
②[ハードウェア]タブ→〈デバイスマネージャ(D)〉の順にクリックします。「デバイスマネージャ」を表示します。
③「ポート(COMとLPT)」の⊞をクリックします。
④「ポート(COMとLPT)」に"ICOM ID-1 USB Serial Port (COM∗)"があることを確認してください。
⑤「ポート(COMとLPT)」に"ICOM ID-1 USB Serial Port (COM∗)"がない場合はドライバーが正常にインストールされていない可能性があります。
USBドライバーを再インストールしてください。(☞P10)
※ COMポート表示(COM∗)の"∗"はCOMポート番号です。

● **COMポートの確認(Windows 98/98 SE/Meの場合)**

①マウスを〈スタート〉→「設定(S)」→「コントロールパネル(C)」の順にクリックします。「コントロールパネル」を表示します。
②[システム]アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」を表示します。
③[デバイスマネージャ]タブをクリックします。
④「ポート(COM/LPT)」の⊞をクリックします。
「ポート(COM/LPT)」に"ICOM ID-1 USB Serial Port (COM∗)"があることを確認してください。
⑤「ポート(COM/LPT)」に"ICOM ID-1 USB Serial Port (COM∗)"がない場合はドライバーが正常にインストールされていない可能性があります。
USBドライバーを再インストールしてください。(☞P10)
※ COMポート表示(COM∗)の"∗"はCOMポート番号です。

■ 電源を入れる

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

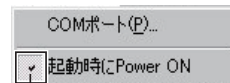
[POWER]をクリックし、電源を入れます。
再度、[POWER]をクリックすると電源が切れます。

クリック

・電源を切るときは、必ずID-1の**[POWER]**、またはID-1コントロールソフトウェアの**[POWER]**で行ってください。
・ID-1コントロールソフトウェアを終了するときは、右上隅の ✖ (クローズ)ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「終了(X)」をクリックします。
・ID-1コントロールソフトウェアを終了させるだけでは、ID-1の電源は**“OFF”**になりません。

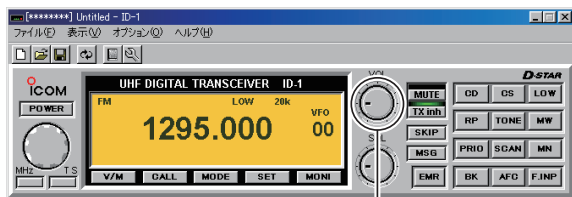
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

[PWR]を押し、電源を入れます。
再度、[PWR]を長く押すと電源が切れます。

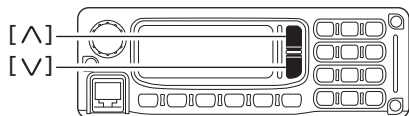
《ご参考》
ID-1コントロールソフトウェアを起動すると同時に、ID-1の電源を**“ON”**させることができます。
① オプションメニューをクリックすると、「COMポート(P)...」メニューが表示されます。
② メニューから、「起動時にPower ON」をクリックします。
クリックするごとに**“ON/OFF”**を繰り返します。

起動時にPower ON 選択時時は、(✔)チェックマークが点灯する

■音量の調整

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

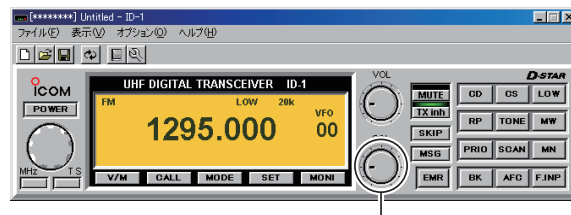
① [MODE]をクリックし、FMモードを選択します。
② スケルチを開きます。("BUSY"表示点灯)
[SQL]を左クリックし、スケルチを開きます。
または[MONI]をクリックし、スケルチを開きます。
③ [VOL]にマウスポインターを合わせ、音量を調整します。
・マウスの右クリックで大きくなり、左クリックで小さくなります。クリックを続けると、連続して変化します。

左クリック:小さくなる/右クリック:大きくなる

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

[∧]/[∨]を押し、音量を調整します。
・このとき、"VOL"と"**音量レベル**"を表示します。
・"00"から"32"までを33段階で調整します。
・[∧]/[∨]を押し続けると、連続動作になります。

■スケルチの調整

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

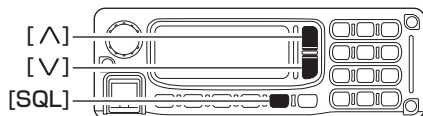
① [SQL]にマウスポインターを合わせ、スケルチレベルを調整します。
・マウスの左クリックでスケルチレベルをダウン、右クリックでスケルチレベルをアップします。
② FMモード運用時、信号を受信していない状態で雑音**"ザー"**が消え、"BUSY"表示が消灯する位置にセットします。

※ [SQL]を12時方向より右に回すと、Sメーターが振れ(Sメータースケルチ動作)、受信信号のSメーターレベルに応じ、指定レベル以下の弱い電波の受信を制限します。
・FM　:ノイズスケルチ
・DV　:Sメータースケルチ
・DD　:Sメータースケルチ
(DDモードで運用する場合は、別途10BASE-Tで接続されたWindowsパソコンとアプリケーションソフトが必要です。(☞P54))

左クリック:スケルチレベルがダウンする
右クリック:スケルチレベルがアップする

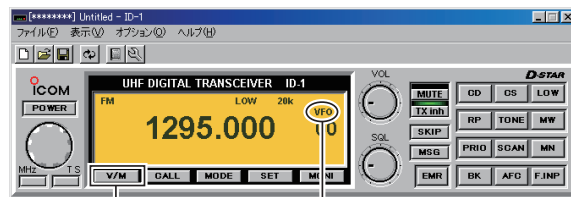
※ デジタルモードでは雑音**"ザー"**が出ないため、FMモードでスケルチを調整します。

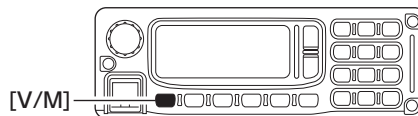
◇RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [SQL]を押すと、スケルチレベルの設定状態になります。
- このとき、**"SQL"**と**"スケルチレベル"**を表示します。
- [∧]を押すとスケルチレベルがアップ、[∨]を押すとスケルチレベルがダウンします。

② FMモード運用時、信号を受信していない状態で**"ザー"**という雑音が消え、TX/RX表示LED(緑色)が消灯するレベルにセットします。(☞P33)
- "00"から"32"までを33段階で調整します。
- [∧]/[∨]を押し続けると、連続動作になります。

■ VFOモードとメモリーモードの設定

◇ID-1コントロールソフトウェアによる操作

[V/M]をクリックするごとに、VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

◇RC-24(リモートコントローラー)による操作

[V/M]を押すごとに、VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

《ご参考》
- **VFOモード**　:[DIAL]で周波数を可変して、運用するモードです。
- **メモリーモード**　:あらかじめメモリーチャンネルに記憶した周波数を呼び出して、運用するモードです。

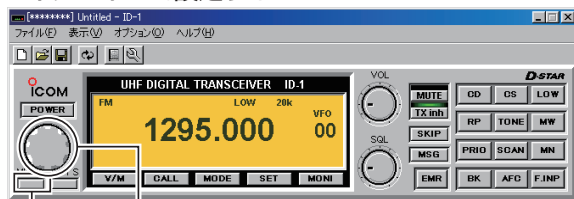
■ 周波数の設定

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [V/M]をクリックし、VFOモードにします。
② [DIAL]にマウスポインターを合わせ、周波数を設定します。
　•右クリックで周波数をアップします。
　•左クリックで周波数をダウンします。
　•クリックを続けると、周波数が連続して変化します。

● 周波数を大きく動かすときは

① [MHz]をクリックし、1MHzステップの可変操作にします。
② 周波数表示の1MHzケタの上に“▼”表示が点灯します。
③ [DIAL]をクリックすると、1MHzステップで可変します。
④ 再度、[MHz]をクリックすると“▼”表示が消灯します。

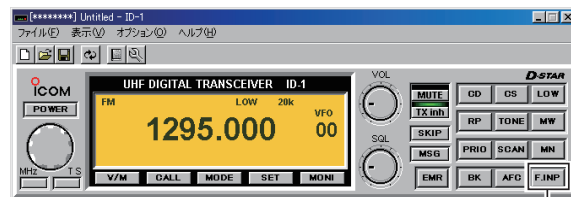
● マイクロホンで設定する

クリック　　右クリック:周波数がアップする
　　　　　　左クリック:周波数がダウンする

マイクロホンの[UP]/[DN]スイッチでも設定できます。
[UP]スイッチを押すと周波数がアップし、[DN]スイッチを押すと、周波数がダウンします。
スイッチを押し続けると、連続動作になります。

● テンキーから直接設定する

[F.INP]をクリックし、テンキーを表示させせます。
マウスで設定したい周波数を直接入力できます。

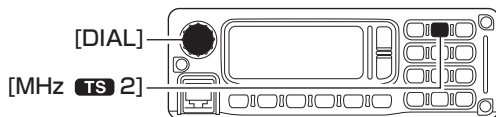
《例》　1292.340MHzを設定する場合
　　　　[1] [2] [9] [2] [.] [3] [4] [ENT]とクリックします。
　　　　100kHz以下の周波数を変更する場合
　　　　[.] [2] [7] [5] [ENT]

•途中で入力を取り消す場合は、[CE]をクリックします。
•1kHzケタまで入力した場合は、[ENT]の操作を省略できます。

〔ご参考〕
パソコンのキーボードから周波数を設定することもできます。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、VFOモードにします。
② [DIAL]を回し､周波数を設定します。
　・[DIAL]を時計方向に回すと､周波数がアップします。
　・[DIAL]を反時計方向に回すと､周波数がダウンします。

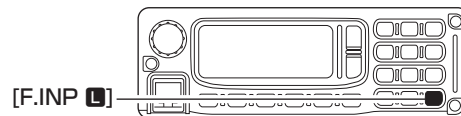
● 周波数を大きく動かすときは

① [MHz TS 2]を短く押し、1MHzステップの可変操作にします。
② 周波数表示の100kHz以下のケタ表示が消えます。
③ [DIAL]を回すと、1MHzステップで可変します。
④ 再度、[MHz TS 2]を短く押すと､すべてのケタが表示されます。

● チューニングステップについて

チューニングステップは“20kHz”を初期設定しています。
チューニングステップを変更するときは(☞P44)を参照してください。

● キーパッドから直接設定する

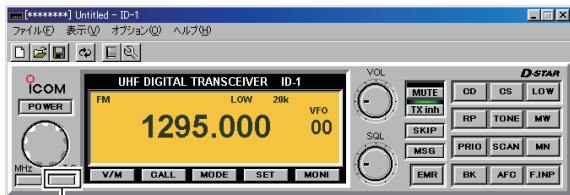
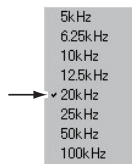
[F.INP L]を押し､周波数入力待ち状態にします。
《例》1296.840MHz設定する場合

の順に押します。
・途中で入力を取り消す場合は、[F.INP L]を押すと､入力が解除され､前の表示に戻ります。

■チューニングステップの設定

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [TS]をクリックすると、「チューニングステップ」メニューが表示されます。

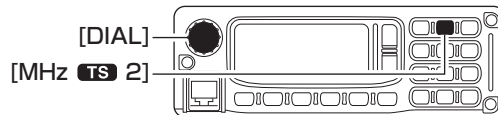
② マウスのカーソルを希望のチューニングステップの上に動かし、左クリックします。

・選択できるチューニングステップは、5→6.25→10→12.5→20(初期設定値)→25→50→100kHzです。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [MHz TS 2]を長く(約0.5秒)押します。

・"TS"とチューニングステップが表示されます。

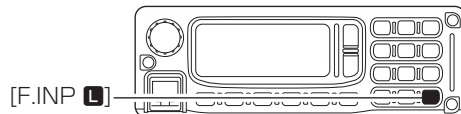
② [DIAL]を回し、5→6.25→10→12.5→20(初期設定値)→25→50→100kHzの中から選択します。

・チューニングステップ表示は、なにも操作しない状態が約3秒間続くと、自動的に元の表示に戻ります。

■ ロック機能の選択

◇ RC-24(リモートコントローラー)のみ

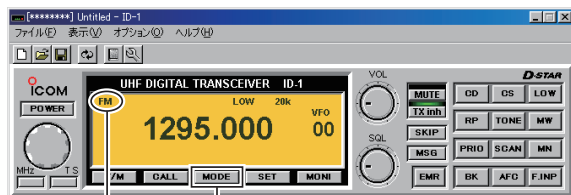
[F.INP L]を長く(約0.5秒)押すごとに、ロック機能が"ON/OFF"します。

・ロック機能動作時は、ディスプレイに"⊸"表示が点灯します。

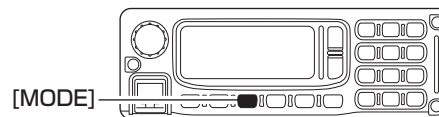
※ID-1コントロールソフトウェアから操作するときは、セットモードで操作します。(☞P95、98)

■ 運用モードの設定

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

[MODE]をクリックするごとに、運用モードが切り替わります。
ディスプレイに、選択したモードを表示します。

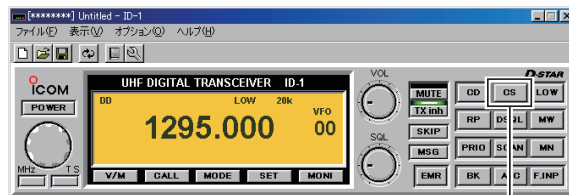
- **FM** ：FMモード
- **DV** ：デジタル音声モード
- **DD** ：デジタルデータモード
  (別途10BASE-Tで接続されたWindowsパソコンとアプリケーションソフトが必要です。(☞P54)

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

[MODE]を押すごとに、運用モードが切り替わります。
ファンクションディスプレイに、選択したモードを表示します。

- FM ：FMモード
- DV ：デジタル音声モード
- DD ：デジタルデータモード
  (別途10BASE-Tで接続されたWindowsパソコンとアプリケーションソフトが必要です。(☞P54)

■ 相手局と自局のコールサインの設定

DV(デジタル音声)/DD(デジタルデータ)モードを運用するには、相手局と自局のコールサインを入力する必要があります。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [CS]をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。
② 相手局欄に相手局のコールサインを入力します。
③ 相手局のテキストボックスをクリックします。
  ・セルの表示が反転表示になります。
④ パソコンのキーボードから、直接相手局のコールサインを入力します。
⑤ [OK]をクリックします。
  ・不特定局を呼び出すときは、相手局欄の右上にある[CQ]をクリックし、[OK]をクリックします。
  ・相手局欄に“CQCQCQ”が表示されます。
  ・一度使用したコールサインを呼び出すには、テキストボックスの右にある[▼]をクリックし、表示されるリストから選択します。(相手局とレピータのコールサインを、合計20局まで記憶します)
⑥ 自局欄に自局のコールサインを入力します。
⑦ テキストボックスの右にある[▲]/[▼]をクリックし、登録番号を選択します。
⑧ 自局のテキストボックスをクリックします。
  ・すでに登録しているコールサインを変更するときは、テキストボックスをダブルクリックします。
  ・セルの表示が反転表示になります。
⑨ パソコンのキーボードから、直接自局のコールサインを入力します。
  ・コールサインの右にあるテキストボックスには、移動運用時のエリア指定、または複数ある無線機の個体番号/記号を付加して通信を区別する場合など、任意の記号、符号など簡易なメモを追加できます。
⑩ [OK]をクリックします。
  ・すでに登録しているコールサインを呼び出すには、テキストボックスの右にある[▲]/[▼]をクリックし、登録番号を選択します。(0~4まで設定可能)
⑪ コールサイン選択画面を終了するときは、右上隅の ☒ (クローズ)ボタンをクリックします。

●コールサイン設定画面

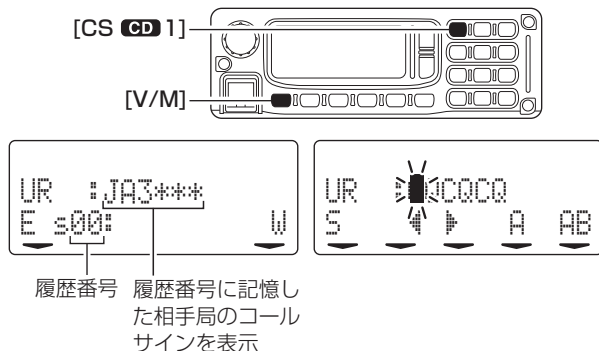
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

● 相手局のコールサインを設定する

① [CS CD 1]を短く押し、コールサイン選択画面を表示します。
- 短く押すごとに、周波数表示→UR(相手局)→RPT1(レピータ1)→RPT2(レピータ2)→MY(自局)→周波数表示と切り替わります。

② UR(相手局)のコールサイン設定項目を選択します。

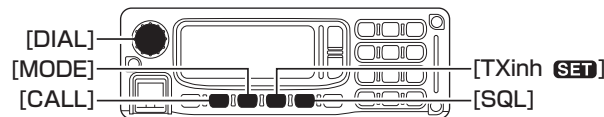
③ [DIAL]を回し、履歴番号を選択します。
- 00～19の中から選択します。
- 呼び出したい局のコールサインが履歴に残っていないときは、次(④)に進みます。
- CQで呼び出すときは、[BK CQ .]を長く押します。モード(DV/DD)の横に"CQ"が表示されます。

④ [V/M](E)を押すと、1ケタ目が点滅します。

⑤ [MODE](▶)を押すと枠カーソルが右に移動し、[CALL](◀)を押すと枠カーソルが左に移動します。

⑥ [SQL]を押し、入力する文字(下記参照)を選択します。
- AB：英文字；A ～Z(大文字のみ)
- 12：数字　；0～9
- _/：記号　；_ (スペース)、/

⑦ [DIAL]を回し、文字を選択します。

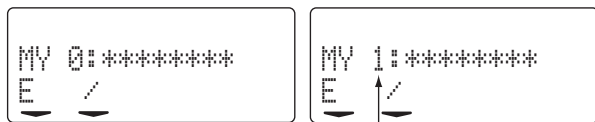
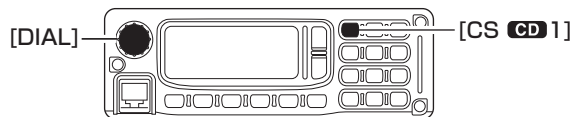
⑧ [TXinh SET]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。

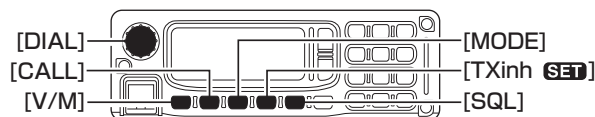
⑨ 前記④ ～⑧を繰り返し、相手局のコールサインを入力します。

⑩ [V/M](S)を短く押します。
- 履歴番号の"s00"に設定します。

⑪ 前記④ ～⑩を繰り返し、次の相手局のコールサインを設定します。
- 設定したコールサインは、UR(相手局)、RPT1(レピータ1)、RPT2(レピータ2)に共通で、合計20局まで履歴として記憶できます。

● **自局のコールサインを設定する**

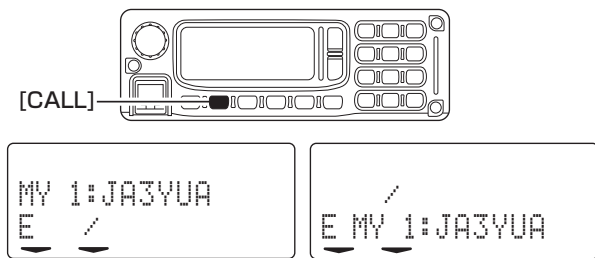
① [CS CD 1]を短く押し、コールサイン選択画面を表示します。
- 短く押すごとに、周波数表示→UR(相手局)→RPT1(レピータ1)→RPT2(レピータ2)→MY(自局)→周波数表示と切り替わります。

②MY(自局)のコールサイン設定項目を選択します。
③ [DIAL]を回し、登録番号を選択します。
④ [V/M] (E)を押すと、1ケタ目が点滅します。

⑤ [MODE] (▶)を押すと枠カーソルが右に移動し、[CALL] (◀)を押すと枠カーソルが左に移動します。
⑥ [SQL]を押し、入力する文字(下記参照)を選択します。
- AB：英文字 ；A ～Z(大文字のみ)
- 12：数字　；0～9
- _/：記号　；_ (スペース)、/

⑦ [DIAL]を回し、文字を選択します。
⑧ [TXinh SET]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。

⑨ 前記⑤ ～⑧を繰り返し、自局のコールサインを入力します。

⑩ [V/M] (S)を押すと、自局のコールサインを書き込み、番号登録選択画面に戻ります。
- コールサインのみで画面を終了するときは、[CS CD 1]を短く押すと、周波数表示に戻ります。
- 移動運用時のエリア指定などを入力するときは、そのまま次に(⑪)進みます。

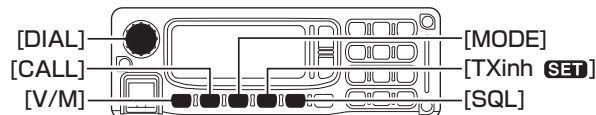
※ [V/M] (S)を押すと、自局のコールサインを書き込み、移動運用時のエリア指定、または複数ある無線機の個体番号/記号を付加して通信を区別する場合など、任意の記号、符号など簡易なメモが追加できる画面を表示します。

⑪ [CALL] (/)を押します。

⑫ [V/M] (E)を押すと、1ケタ目が点滅します。

⑬ [MODE] (▶)を押すと枠カーソルが右に移動し、[CALL] (◀)を押すと枠カーソルが左に移動します。

⑭ [SQL]を押し、入力する文字(下記参照)を選択します。
- AB：英文字；A ～Z(大文字のみ)
- 12：数字　；0～9
- _/：記号　；_ (スペース)、/

⑮ [DIAL]を回し、文字を選択します。

⑯ [TXinh SET]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。

⑰ 前記⑬ ～⑯を繰り返し、4ケタまでの文字を入力します。

⑱ [V/M] (S)を押すと、設定した文字を書き込みます。

⑲ [CS CD 1]を短く押すと、周波数表示に戻ります。

設定項目

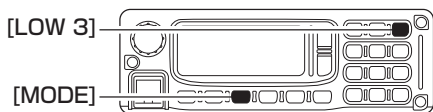
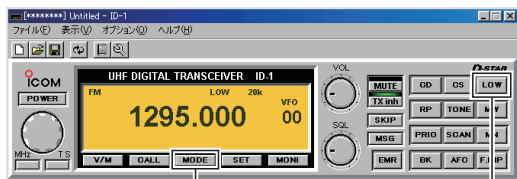
- UR　：相手局のコールサインを設定します。
- RPT1　：送り元中継局のコールサインを設定します。(☞P65、66)
- RPT2　：送り先中継局のコールサインを設定します。(☞P65、66)
- MY　：自局のコールサインを設定します。

【ご参考】
相手局、送り元中継局、および送り先中継局のコールサインは、受信履歴から転送して設定することもできます。
詳しくは、58、59ページをご覧ください。

■ FMモードの運用

① VFOモードで運用周波数を設定します。
- ID-1コントロールソフトウェア(☞P41、42)
- RC-24(リモートコントローラー)(☞P41、43)

② **[MODE]**をクリックし、FMモードを選択します。
- RC-24は、**[MODE]**を押します。

③ 送信出力を設定します。
- **[LOW]**をクリックするごとに、送信出力が切り替わります。
- RC-24は、キーパッドの**[LOW 3]**を押します。
  LOWパワー選択時は、ディスプレイに**“LOW”**が表示されます。

④ 送信するときは、マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。
(TX/RX表示LEDが赤色に点灯)
- マイクロホンと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話します。

⑤ **[PTT]**スイッチを離すと、受信状態に戻ります。

■DV(デジタル音声)モードの運用

① VFOモードで運用周波数を設定します。
- ID-1コントロールソフトウェア(☞P41、42)
- RC-24(リモートコントローラー)(☞P41、43)

② **[MODE]**をクリックし、DVモードを選択します。
- RC-24は、**[MODE]**を押します。

③ 送信出力を設定します。
- **[LOW]**をクリックするごとに、送信出力が切り替わります。
- RC-24は、キーパッドの**[LOW 3]**を押します。
  LOWパワー選択時は、ディスプレイに**“LOW”**が表示されます。

④ 次項の**「CQを出して交信する場合」**または**「相手局を指定して交信する場合」**を参照し、自局と相手局のコールサインを設定します。

⑤ 送信するときは、マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。
(TX/RX表示LEDが赤色に点灯)
- マイクロホンと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話します。
- RC-24の場合、送信中は自局のコールサインがディスプレイに表示されます。
  (自局のコールサインを設定している場合)

⑥ **[PTT]**スイッチを離すと、受信状態に戻ります。

※ ID-1コントロールソフトウェアの場合、デジタルモードの信号を受信したときは、受信履歴にその内容を書き込みます。(☞P58、59)

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる設定

● CQを出して交信する場合

① [CS]をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。
② 不特定局を呼び出すときは、相手局欄の右上にある[CQ]をクリックします。
　・相手局欄に"CQCQCQ"が表示されます。
③ [OK]をクリックします。

[CQ]をクリック後、[OK]をクリックする

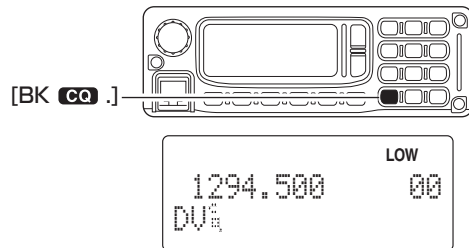
●相手局を指定して交信する場合

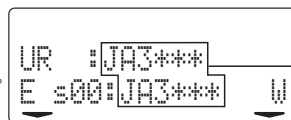
① [CS]をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。
② テキストボックス右にある[▼]をクリックし、表示されるリストから相手局を選択します。
　・相手局の登録については(☞P46)を参照してください。
③ [OK]をクリックします。

相手局のコールサインを入力し、[OK]をクリックする

◇ RC-24(リモートコントローラー)による設定

● CQを出して交信する場合

[BK CQ .]を長く(約0.5秒)押します。
・モード表示の横に"CQ"表示を点灯します。

● 相手局を指定して交信する場合

① [CS CD 1]を短く押し、UR(相手局)のコールサイン選択画面を表示します。
　・短く押すごとに、周波数表示→UR(相手局)→RPT1(レピータ1)→RPT2(レピータ2)→MY(自局)→周波数表示と切り替わります。
② [DIAL]を回し、相手局を選択します。
　・相手局の登録については(☞P47〜49)を参照してください。
③ [SQL]キーを長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押します。

■DV(デジタル音声)モード運用時の簡易データ通信について

DVモード運用時、音声通信と簡易データ通信を同時に行うことができます。
簡易データ通信を行うには、通信ソフト(市販品など)が必要です。

①VFOモードで運用周波数を設定します。
- ID-1コントロールソフトウェア(☞P41、42)
- RC-24(リモートコントローラー)(☞P41、43)

②[MODE]をクリックし、DVモードに設定します。
- RC-24は、[MODE]を押します。

③送信出力を設定します。
- [LOW]をクリックするごとに、送信出力が切り替わります。
- RC-24は、キーパッドの[LOW 3]を押します。

※LOWパワー選択時は、ディスプレイに"LOW"が表示されます。

④ID-1コントロールソフトウェアを終了するときは、右上隅の ✖(クローズ)ボタンをクリックするか、ファイルメニューの「終了(X)」をクリックします。

◇通信ソフトの設定

①通信ソフトを立ち上げます。
- ID-1コントロールソフトウェアと通信ソフトは同時に使用できないため、通信ソフト使用中はID-1コントロールソフトウェアによる操作はできません。
- RC-24(リモートコントローラー)による操作は可能です。

②COMポート設定画面を表示したときは、ID-1で使用しているCOMポート番号を設定します。

③[OK]をクリックします。
- 次回からは、COMポート設定画面は表示されません。
- ID-1が使用しているCOMポート番号は、パソコンの環境により、COMポート番号が5以上になる場合があります。
- 通信ソフトによっては、COMポート番号が5以上を設定できないことがあります。
- このときは、COMポート番号が5以上を設定できる通信ソフトをご使用ください。

④下記を参照して通信速度などを設定します。
- **Port**　：ID-1で使用しているCOMポート番号を選択
- **Baud rate**　：19200bps
- **Data**　：8bit
- **Parity**　：none
- **Stop**　：1bit
- **Flow control**　：Xon/Xoff

⑤設定値を確認し、[OK]をクリックします。

⑥ 使用する通信ソフトにしたがって、操作を行ってください。
⑦ マイクロホンの[PTT]スイッチを押すと、音声と同時にデータを送信します。
※ データ送信には、マイクロホンの[PTT]スイッチを押して送信するモードと、文字を入力するごとに送信する自動送信モードがあります。
セットモードのDVデータ送信項目(☞P97、101)で設定できます。
・PTT　:マイクロホンの[PTT]スイッチを押すと、USBから入力したデータが送信する
・AUTO　:USBからデータを入力すると自動送信する
※ 自動送信時は送信開始前に約500msのキャリアセンスを行います。
※ 音声とデータを同時に送受信しているときは、ID-1のTD/RD LEDを橙色に点灯し、通信状態を表示します。

《ご参考》
使用できる文字は、ASCII(アスキー)コードの文字となっています。
ID-1の標準機能として、DV(デジタル音声)モード運用時に、20文字(半角英数字、記号)までのメッセージ通信機能も装備しています。(☞P116)

【ご注意】
- ID-1コントロールソフトウェアと通信ソフトは同時に使用できません。
- 通信ソフトとパソコンまたはOS(オペレーティング・システム)の組み合わせによっては、ID-1で使用したとき一部のデータが正しく送受信できない場合があります。
- インターネット回線網を経由したゾーン間通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。パケットロスが発生したときは、本体のTX/RX表示LEDが橙色を表示します。

■ DD(デジタルデータ)モードの運用

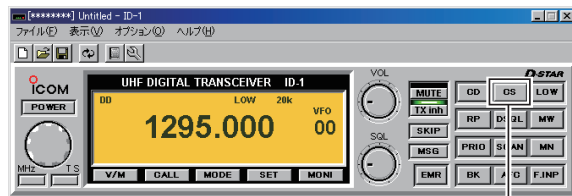
DDモードを運用するには、双方にネットワーク(LAN：Local Area Network)が構築されたWindowsパソコンが必要です。
DDモードの通信は、基本的に1対1で行います。
※DDモードによる、レピータ運用は(☞P64)を参照してください。

● 双方のパソコンに固定IPを設定します。
 •スタート→設定(S)→コントロールパネル(C)からネットワークを開きます。
 •利用するネットワークのTCP/IPのプロパティを開きます。
 •[IPアドレス]タブを選択し、固定IPを設定します。
 ※固定IPは通信する双方で重複しないように設定します。
 ※IPアドレスの設定を変更する前に、現在の設定を控えておきます。

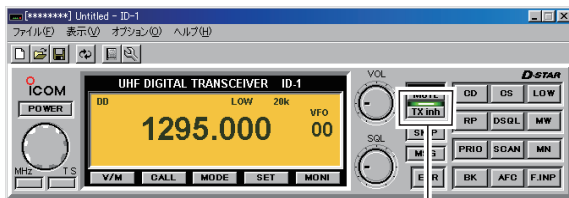
● 識別情報を設定します。
 • スタート→設定(S)→コントロールパネル(C)からネットワークを開きます。
 • [識別情報]タブを選択し、コンピュータ名、ワークグループ、コンピュータの説明を設定します。
 ワークグループは、通信する双方のパソコンで同じグループ名を設定します。
 ※ご使用になっているOSによって、不要となる場合があります。また、ご使用になっているOSによって、操作方法が異なります。

● 共有フォルダを設定します。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① VFOモードで運用周波数を設定します。(☞P41、42)
② **[MODE]**をクリックし、DDモードに設定します。
③ 送信出力を設定します。
 •**[LOW]**をクリックするごとに、送信出力が切り替わります。
 LOWパワー選択時は、ディスプレイに**“LOW”**が表示されます。
④ **[CS]**をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。

⑤ 相手局欄に相手局のコールサインを入力します。(☞P46)
 •一度使用したコールサインを呼び出すには、相手局表示欄の**[▼]**をクリックし、表示されるリストから選択します。
 • 不特定局を呼び出すときは、相手局欄の右上にある**[CQ]**をクリックし、**[OK]**をクリックします。
 相手局欄に**“CQCQCQ”**が表示されます。
 • パソコンのネットワーク設定が合致している不特定局に限り、通信できます。
⑥ 自局欄に自局のコールサインを入力します。(☞P46)
 • すでに登録しているコールサインを呼び出すには、自局表示欄の**[▲]**/**[▼]**をクリックします。

●コールサイン設定画面

⑦[TX inh]をクリックし、[TX inh]の上にあるLEDが消灯するのを確認します。
・[TX inh]をクリックするごとに、点灯(送信停止)/消灯(送信停止を解除)が繰り返します。

⑧ネットワークコンピュータを開いて、相手局の共有フォルダが表示されていることを確認します。
※ご使用になっているOSや設定によっては、ネットワーク全体、またはワークグループを開いてください。

⑨相手局の共有フォルダを開きます。

⑩希望のデータを共有フォルダにドラック&ドロップするかコピー&ペーストします。

【ご注意】

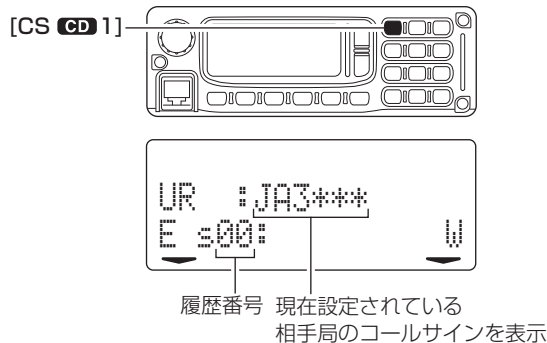
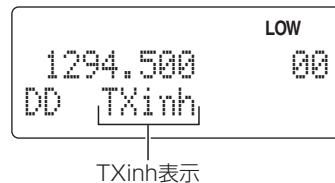
DDモード運用時で[TX inh](ID-1コントロールソフトウェア)/[TXinh SET](RC-24)を“OFF”にした場合、第三者から自局のフォルダに接続される状態になりますのでご注意ください。
このため、相手方または第三者にファイルの内容を見られたり、ファイルを破棄または改ざんされるなどの恐れがあります。
これらを防ぐためには、該当するフォルダを[共有しない]に設定しておく必要があります。
また、必ず運用が終了したときは、[TX inh]/[TXinh SET]を“ON”(ID-1コントロールソフトウェアの場合:LED点灯/RC-24の場合:TXinh表示点灯)にしてください。
相手方や第三者にファイルを閲覧、破棄または改ざんされるなどの結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
また、インターネット回線網を経由したゾーン間通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。パケットロスが発生したときは、本体のTX/RX表示LEDが橙色を表示します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① VFOモードで運用周波数を設定します。(☞P41、43)
② [MODE]を押し、DDモードに設定します。
③ 送信出力を設定します。
- キーパッドの[LOW 3]を押すごとに、送信出力が切り替わります。
  LOWパワー選択時は、ディスプレイに"LOW"が表示されます。

④ [CS CD 1]を短く押し、コールサイン選択画面を表示します。
- 短く押すごとに、周波数表示→UR(相手局)→RPT1(レピータ1)→RPT2(レピータ2)→MY(自局)→周波数表示と切り替わります。

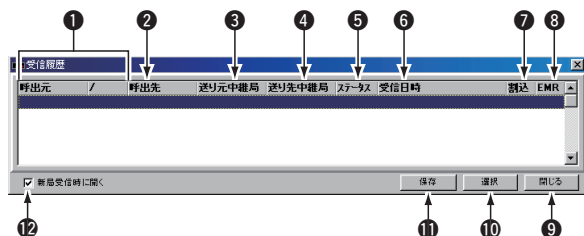
⑤ 相手局の表示欄に相手局のコールサインを入力します。(☞P47)
- 一度使用したコールサインを呼び出すには、[DIAL]で選択し、[SQL]を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押します。
- 不特定局を呼び出すときは、[BK CQ .]を長く(約0.5秒)押します。
  相手局欄に"CQCQCQ"が表示されます。

⑥ [CS CD 1]を短く押し、MY(自局)のコールサイン設定項目を選択します。
⑦ 自局の表示欄に自局のコールサインを入力します。(☞P48~49)
- すでに登録しているコールサインを呼び出すには、[DIAL]で選択します。

⑧ [TXinh SET]を短く押し、"TX inh"表示を消灯します。
- [TXinh SET]を短く押すごとに、点灯(送信停止)/消灯(送信停止を解除)を繰り返します。

⑨ネットワークコンピュータを開いて、相手局の共有フォルダが表示されていることを確認します。
※ご使用になっているOSや設定によっては、ネットワーク全体、またはワークグループを開いてください。
⑩相手局の共有フォルダを開きます。
⑪希望のデータを共有フォルダにドラック&ドロップするかコピー&ペーストします。

■ 受信履歴画面を呼び出してコールサインを確認する

デジタルモードで受信した呼出元、呼出先、送り元中継局、送り先中継局、ステータス、受信日時、割込、EMRなどを受信履歴画面で確認する事ができます。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

[CD]をクリックし、受信履歴画面を表示します。
•クリックするごとに、受信履歴画面が“ON/OFF”します。

❶ **呼出元**
送信局のコールサインおよびコールサインの右にあるテキストボックスに設定された内容(☞P46)を表示します。

❷ **呼出先**
呼出元が設定している相手先のコールサインを表示します。

❸ **送り元中継局**
送り元中継局のコールサインを表示します。

❹ **送り先中継局**
送り先中継局のコールサインを表示します。

❺ **ステータス**
レピータから受信した情報を表示します。

- ステータス表示:無し
  ダイレクト通信またはダウンリンクを示す。
- ステータス表示:UR?
  応答なしを示す。
  呼び出し先には応答がなかったコールサインを表示。
- ステータス表示:RPT?
  中継不可を示し、呼び出し先には中継できなかったレピータコールサインを表示。
- ステータス表示:RPT UP
  レピータのアップリンクを示す。

❻ **受信日時**
受信した日付と時間を表示します。

❼ **割込**
割込通信を受信したときは“＊”を表示します。

❽ **EMR**
EMR信号を受信したときは“＊”を表示します。

❾ **閉じる**
受信履歴画面を終了します。

⑩ 選択

受信履歴画面で選択(反転表示)しているコールサインをダブルクリックすると(呼出元→相手局、送り元中継局→RPT1、送り先中継局→RPT2)をコールサイン選択画面に転送します。

※ 自局のコールサインを除いて転送します。

※ メモリーチャンネル、CALL-CH選択時も転送されますがメモリーチャンネルの変更、VFOモードへの切り替え操作を行うと転送前のコールサインに戻ります。

⑪ 保存

表示している内容と、運用周波数、運用モードをCSV形式のファイルでパソコンに保存します。

※保存したデータは、ID-1コントロールソフトウェアで読み込めません。市販の表計算ソフトなどで読み込んで、ログの管理などにお役立てください。

⑫ 新局受信時に開く

チェックボックスに(✔)マークを入れると、新しい局を受信したとき、自動で受信履歴画面を開きます。

■ デジタルRPTセットについて

デジタルRPTセット(☞P97、102)で自動的にレピータコルサインを設定に選択しているときは、設定したレピータコールサインがアクセスしたレピータと一致していない場合、レピータのダウンリンク信号に含まれるレピータコールサインを自動的にレピータコールサイン選択画面の“**RPT1**”に設定します。このとき、コールサイン選択画面を自動的に開き、“**コールサインが変更されました！**”を表示します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [CS CD 1]を長く(約0.5秒)押すと、受信履歴画面(Receive Callsign)が表示されます。

② 受信履歴画面表示中に[CS CD 1]を短く押すごとに、“Caller:”(送信局のコールサイン)→“Caller /:”(送信局のエリア表示など)→“Called:”(相手局のコールサイン)→“RxRPT1:”(送り元中継局のコールサイン)“RxRPT2:”(送り先中継局のコールサイン)と表示内容が切り替わります。

③ [SQL]を長く(約0.5秒)押すと、“Caller:”→“UR:”、“RxRPT1:”→“RPT1:”、“RxRPT2:”→“RPT2:”にそれぞれ転送します。

※ 自局のコールサインを除いて転送します。

※ メモリーチャンネル、CALL-CH選択時も転送されますがメモリーチャンネルの変更、VFOモードへの切り替え操作を行うと転送前のコールサインに戻ります。

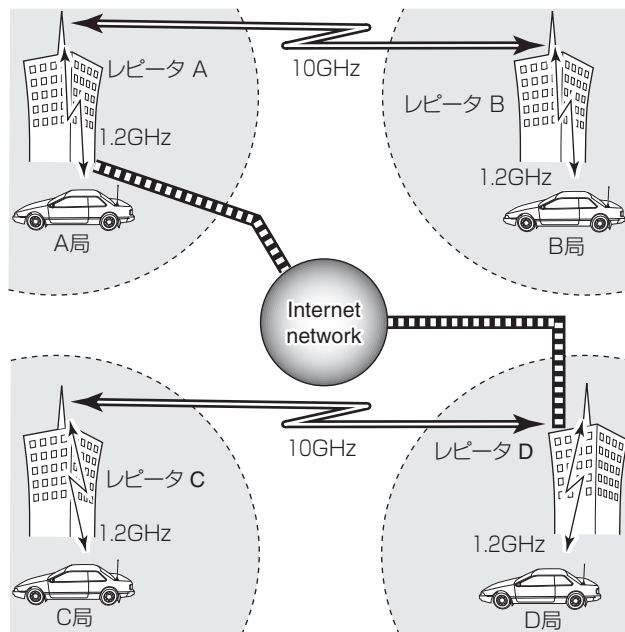
④ [CS CD 1]を長く(約0.5秒)押すと、元の表示に戻ります。

7 レピータ / デュプレックスの操作

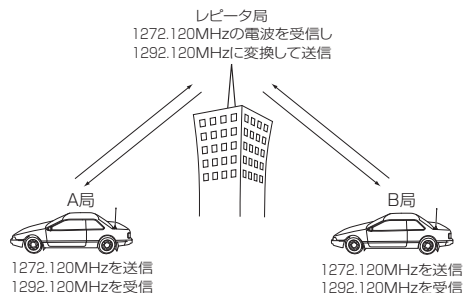
■ D-STARシステムについて

- D-STARシステムは128kbpsのハイスピードデータ通信と4.8kbpsのデジタル音声通信が運用できます。
- D-STARシステムのレピータを起動するには、自局/相手局/RPT1(送り元中継局)/RPT2(送り先中継局)のコールサインの設定が必要です。
- **デジタルデータ通信**は、送信と受信を交互に行うシンプレックス方式で中継します。
- **デジタル音声通信**は、従来のFMと同様なデュプレックス方式で中継します。
- アップリンクとダウンリンクを1.2GHz帯、レピータ同士を10GHz帯の周波数でリンクしています。
- デジタルレピータへの連続送信を10分に制限しています。

  連続送信が制限時間の約30秒前になると、ビープ音(ピー)が鳴り、送信を停止する前にビープ音(ピーピーピー)を鳴らして警告します。
- RPT1(送り元中継局)またはRPT2(送り先中継局)の後にG(Gateway)を設定すると、インターネットを利用した通信が可能になります。

【ご注意】
DV(デジタル音声)モードでレピータを運用するときは、レピータからの電波が停止してから、送信するようにしてください。レピータが受信状態に戻る前に送信すると、正常に通信できなくなることがあります。

《 重 要 》
インターネット回線網を利用した通信(ゲートウェイ通信)を運用するには、コールサインを社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)に登録していただく必要があります。
コールサインの登録は、社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)ホームページで受け付けしています。
JARLホームページ http://www.jarl.or.jp

■ FMレピータの運用

オートレピータ機能により、周波数を1290.000MHz ～1293.000MHzに合わせるだけで、レピータ運用モードになります。
レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局のことをいいます。
オートレピータ機能は、セットモード(☞P96、103)で無効にできます。

- 1200MHz帯では、各地区にレピータが設置されているので、JARL NEWSや各専門誌などでお調べください。
- オフセット周波数とは、送信と受信の周波数の差をいいます。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

● レピータ周波数を設定する

① [MODE]をクリックし、FMモードに設定します。
② [DIAL]またはテンキーで、運用周波数を設定します。
・1290.000MHz ～1293.000MHzに合わせます。

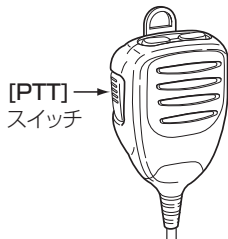
● テンキーから直接設定する

[F.INP]をクリックし、テンキーを表示させせます。
マウスで設定したい周波数を直接入力できます。
《例》1292.120MHzをテンキーで設定する場合は、
[F.INP] [1] [2] [9] [2] [.] [1] [2] [0]の順にクリックします。
・途中で入力を取り消す場合は、[CE]をクリックすると入力を解除し、前の表示に戻ります。
・レピータ周波数を設定すると、“RP−” “TONE”が表示され、トーン周波数(88.5Hz)と、オフセット周波数(−20MHz)が自動的に設定されます。

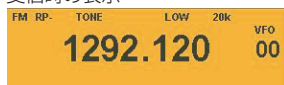
◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作(つづき)

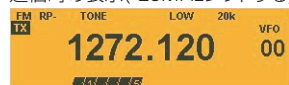
● **FMレピータにアクセスする**

マイクの**[PTT]**スイッチを約2秒間押し､離します。

• 発射した電波がレピータに届いていれば､受信状態に戻したときに、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。
• タイミングにより、ID信号が聞こえない場合もあります。

● **交信する**

マイクの**[PTT]**スイッチを押すと送信状態､離すと受信状態に戻ります。

• 送信状態にすると送信周波数を**“−20MHz”**シフトします。
• 送信/受信LEDが赤色に点灯します。

受信時の表示

送信時の表示(-20MHzシフトする)

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

● **レピータ周波数を設定する**

① **[MODE]**を押し、FMモードに設定します。
② **[DIAL]**またはキーパッドで､運用周波数を設定します。

• 1290.000MHz ～1293.000MHzに合わせます。
《例》1292.120MHzをキーパッドで設定する場合

の順に押します。

• 途中で入力を取り消す場合は、**[F.INP L]**を押すと､入力を解除し､前の表示に戻ります。
• レピータ周波数を設定すると､オートレピータ機能により、**“RP −” “TONE”**表示が点灯し､トーン周波数(88.5Hz)と､オフセット周波数(−20MHz)が自動的に設定されます。

● FMレピータにアクセスする

マイクの[PTT]スイッチを約2秒間押し､離します。

・発射した電波がレピータに届いていれば､受信状態に戻したときに、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。
・タイミングにより、ID信号が聞こえない場合もあります。

● 交信する

マイクの[PTT]スイッチを押すと送信状態､離すと受信状態に戻ります。

・送信状態にすると送信周波数を**“ー20MHz”**シフトします。
・送信/受信LEDが赤色に点灯します。

受信時の表示

LOW
1292.120　00
FM　RP-　TONE

送信時の表示(-20MHzシフトする)

LOW
1272.120　00
FM　RP-　TONE

● 送信周波数のチェック

レピータの運用中に､レピータで中継しなくても交信可能かをチェックできます。

・[MONI]をクリックし、**“MONI/BUSY”**表示が点灯している間に(RC-24のときは[SQL]を押し続けている間“ ”表示点灯)交信相手の信号が受信できれば､レピータで中継しなくても交信できることになります。
・受信できるときは､レピータ周波数以外の周波数に移って交信します。
・オフセット周波数分､受信周波数がシフトします。
・アマチュアバンドを逸脱するようなオフセット周波数になっているときは､周波数はシフトしません。

● 送信時のオフバンド表示について

オフセット周波数を変更(☞P67、68)したときは､オートレピータ機能のオフセット周波数も変更されますので､ご注意ください。

・送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると､送信出力は停止して**“P–”**表示を点滅し､オフバンドしていることを知らせます。
・オフバンド表示になったときは､もう一度オフセット周波数を設定しなおしてください。

【ご注意】
レピータアクセス用トーン周波数とオフセット周波数を変更したときは､オートレピータ機能の各周波数も変化します。

7

■ デジタルレピータの運用

DV(デジタル音声)/DD(デジタルデータ)モードで、レピータを運用するには、相手局、送り元中継局、送り先中継局と自局のコールサインを入力する必要があります。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

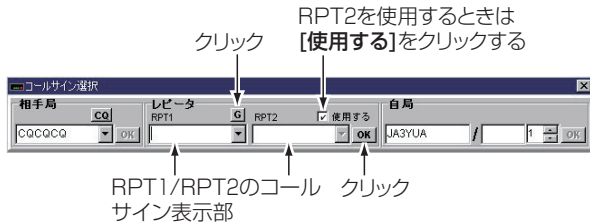
※ コールサインをパソコンのキーボードから入力します。

① [MODE]をクリックし、DVまたはDDモードを選択します。
② [DIAL]またはテンキーで、レピータ周波数を設定します。
③ [RP]をクリックし、デュプレックスモードを選択します。
  ・DVモードのときは、**“RP−”**または**“RP+”**を選択します。
  ・DDモードのときは、**“RPS”**を選択します。
④ [CS]をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。
⑤ 相手局表示欄に相手局のコールサインを入力し、[OK]をクリックします。
  ・一度使用したコールサインを呼び出すには、相手局表示欄の[▼]をクリックし、表示されるリストから選択して、[OK]をクリックします。
  ・不特定局を呼び出すときは、相手局欄の右上にある[CQ]をクリックし、[OK]をクリックします。
   相手局の欄に**“CQCQCQ”**が表示されます。
  ・インターネット回線網を経由して、別のゾーンで不特定局を呼び出す(ゾーン外CQ)ときは、[CQ]をクリックして相手局の欄に**“/”**を表示させたあとに続けて、レピータのコールサインを入力してください。

[CQ]をクリックするごとに、“**CQCQCQ**”と“**/**”を切り替える

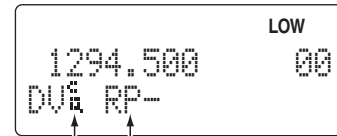
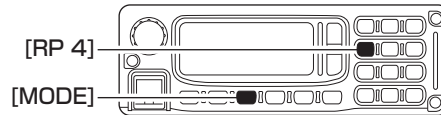
相手局/レピータのコールサインまたはCQ

⑥ レピータ(RPT1)、レピータ(RPT2)局の欄に、自局よりアクセス(アップリンク)するレピータと相手局へアクセス(ダウンリンク)するレピータのコールサインをそれぞれ入力します。
  ・レピータ(RPT2)を使用するときは、レピータ(RPT2)局の欄の右上にある**「使用する」**をクリックし、(✔)マークを付けます。
  ・一度使用したコールサインを呼び出すには、レピータ局表示欄(RPT1/RPT2)の[▼]をクリックし、表示されるリストから選択します。
  ・自局よりアクセスするレピータと相手局へアクセスするレピータが同じである場合は、それぞれに同じコールサインを入力してください。
   または、RPT2の**「使用する」**の(✔)マークをはずし、RPT1にコールサインを入力します。
⑦ レピータ(RPT1)、レピータ(RPT2)局のコールサインを入力し、[OK]をクリックします。
⑧ ネットワークコンピュータなどに接続し、インターネットなどを使用するときは、RPT2(送り先中継局)の後にG(Gateway)を設定します。
  ・RPT1のみを使用するときは、RPT1のコールサインの末尾に**“G”**を設定します。
  ・RPT1/RPT2を使用するときは、RPT2のコールサインの末尾に**“G”**を設定します。

⑨RPT1欄の右上にある[G](Gateway)をクリックし、ゲートウェイを設定。[OK]をクリックします。
・レピータ(RPT1)のみを使用するときは、RPT1のコールサインの末尾に、レピータ(RPT1)/(RPT2)を使用するときは、RPT2のコールサインの末尾に"G"が添付されます。

⑩自局欄に自局のコールサインを入力し、[OK]を押します。
⑪コールサイン選択画面を閉じます。
⑫DV(デジタル音声)モードのときは、マイクの[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。
DD(デジタルデータ)モードのときは、希望のステーションの共有フォルダにデータファイルをドラック＆ドロップします。(☞P54)
または、共有フォルダをクリックし、パソコンのキーボードから直接データを入力します。

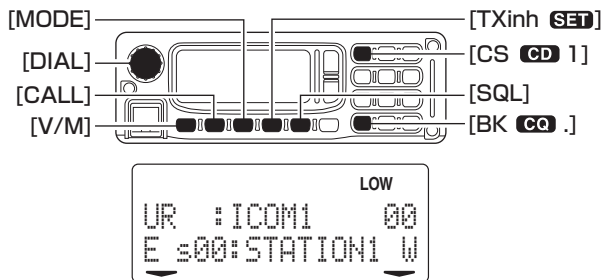
● **DVモード時のオフセット周波数について**
DVモード時のオフセット周波数は、FMレピータと同様に"－20MHz"を使用しています。
なお、オフセット周波数の設定が必要なときは、次項の「■デュプレックスモードの運用」から「オフセット周波数の設定」項目(☞P67～69)を参照してください。

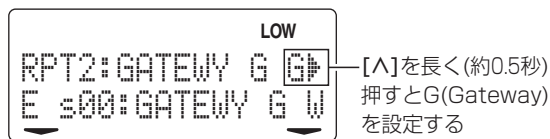
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

①[DIAL]またはキーパッドで、運用周波数を設定します。
②[MODE]を押し、DV(デジタル音声)またはDD(デジタルデータ)モードを選択します。
③[RP 4]を押し、デュプレックスモードを選択します。
・DVモードのときは、"RP–"または"RP+"を選択します。
・DDモードのときは、"RPS"を選択します。

④[CS CD 1]を短く押し、コールサイン選択画面を表示します。
⑤RPT1(レピータ)のコールサイン設定項目を選択します。
・短く押すごとに、周波数表示→UR(相手局)→RPT1(レピータ1)→RPT2(レピータ2)→MY(自局)→周波数表示と切り替わります。
※UR(相手局)/MY(自局)のコールサインの設定は(☞P47～49)を参照してください。
※ゾーン外CQで呼び出すときは、UR(相手局)を設定するときに、[BK CQ .]を短く押し、表示される"/"に続けて目的のゾーンにあるレピータのコールサインを入力してください。

7

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作(つづき)

⑥ [V/M](E)を押すと、1ケタ目を点滅します。
⑦ [MODE](▶)を押すと枠カーソルが右に移動し、[CALL](◀)を押すと枠カーソルが左に移動します。
⑧ [SQL]を押し、入力する文字(下記参照)を選択します。
・AB：英文字；A ～Z(大文字のみ)
・12：数字　；0～9
・_/：記号　；_ (スペース)、/
⑨ [DIAL]を回し、文字を選択します。
⑩ [TXinh SET]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
⑪ 前記⑦ ～⑩を繰り返し、RPT1(送り元中継局)のコールサインを入力します。

⑫ [V/M](S)を短く押します。
⑬ 前記⑦ ～⑫を繰り返し、RPT2(送り先中継局)のコールサインを設定します。
•一度使用したレピータのコールサインが履歴に残っているときは、[DIAL]で選択し、[SQL](W)を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押します。

⑭ インターネット回線網を経由して、別のゾーンと通信するときは、[∧]を長く(約0.5秒)押して、RPT2(送り先中継局)の末尾にG(Gateway)を設定します。
•RPT1のみを使用するときは、RPT1のコールサインの末尾に**"G"**を設定します。
•RPT1/RPT2を使用するときは、RPT2のコールサインの末尾に**"G"**を設定します。

⑮ コールサイン設定後、[CS CD 1]を短く押し、周波数表示に戻します。
・短く押すごとに、周波数表示→UR(相手局)→RPT1(レピータ1)→RPT2(レピータ2)→MY(自局)→周波数表示と切り替わります。
⑯ DV(デジタル音声)モードのときは、マイクの[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。
DD(デジタルデータ)モードのときは、希望のステーションの共有フォルダにデータファイルをドラック＆ドロップします。(☞P54)
または、共有フォルダをクリックし、パソコンのキーボードから直接データを入力します。

■デュプレックスの運用

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)と違い、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することをいいます。

- 「RP＋(プラス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数※だけ高くなります。
- 「RP－(マイナス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数※だけ低くなります。

※オフセット周波数とは、送信と受信の周波数の差をいいます。

◇ID-1コントロールソフトウェアによる操作

● オフセット周波数の設定

オフセット周波数は、SETモードで設定できます。

① [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
- ・表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)...　F7」をクリックします。
- ・パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
- ・ツールバーの をクリックします。

② カーソルをオフセット周波数のセル上に移動させ、クリックします。

③ パソコンのキーボードから、オフセット運用周波数を入力し、[ENT]を押します。
- ・0.000～60.000MHzの範囲で設定できます。

④ セットモードを終了するときは、右上隅の (クローズ)ボタンをクリックします。
- ・①の操作を繰り返すごとに、セットモード画面が“ON/OFF”します。

【ご注意】
- ● オフセット周波数を変更したときは、オートレピータ機能(☞P61)のオフセット周波数も変化するのでご注意ください。
- ● オートレピータ機能が優先されるので、レピータ周波数範囲以外で[DIAL]を回すと、デュプレックスは解除されます。

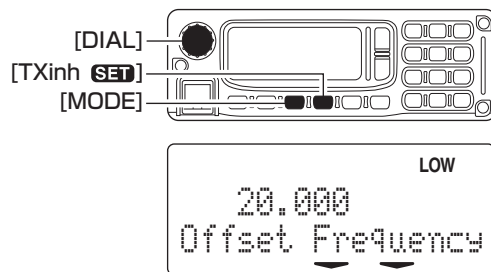
● デュプレックスモードの運用

① [V/M]をクリックし、VFOモードにします。
② [DIAL]またはテンキーで、運用周波数を設定します。
③ [MODE]をクリックし、FMモードを選択します。
④ [RP 4]をクリックし、デュプレックスモードを選択します。
  ・[RP 4]をクリックするごとに、**“シンプレックス”**(消灯)→**“RP−”**(マイナスシフト)→**“RP+”**(プラスシフト)→**“RPS”**(データレピータ)→**“シンプレックス”**(消灯)とモードが切り替わります。
  ・送信する前に[MONI]を押すと、送信周波数をモニター(受信)します。
   モニター機能動作時は**“MONI”**と**“BUSY”**表示が点灯します。
⑤ マイクの[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

● オフセット周波数の設定

オフセット周波数は、SETモードで設定できます。

① [TXinh SET]を長く(0.5秒)押し、セットモードにします。
② [TXinh SET]または[MODE]を押し、「Offset Frequency」項目を選択します。

③ [DIAL]を回し、オフセット周波数を設定します。
  ・設定しているチューニングステップで動作します。
  ・[MHz TS 2]を短く押すと、1MHzステップで設定ができます。
   長く押すと、チューニングステップの選択モードになります。
④ [PWR]、[F.INP L]、[∧]/[∨]を短く押すか、[TXinh SET]を長く(約0.5秒)押すと、セットモードが解除します。

●デュプレックスモードの運用

① [V/M]を押し、VFOモードにします。
② [DIAL]またはキーボードで、運用周波数を設定します。
③ [MODE]を押し、FMモードを選択します。
④ [RP 4]を押し、デュプレックスモード("RP–"または"RP+")を選択します。
- [RP 4]を押すごとに、**"シンプレックス"**(消灯)→"RP–"(マイナスシフト)→"RP+"(プラスシフト)→"RPS"(データレピータ)→**"シンプレックス"**(消灯)とモードが切り替わります。
- 送信する前に[SQL]を押し続けると、送信周波数をモニター(受信)します。
- モニター機能動作時は"M"表示が点灯します。

⑤ マイクの[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。

7

■ メモリーチャンネル(M-CH)と コールチャンネル(CALL-CH)について

ID-1は、100チャンネルのM-CHと2チャンネル(**“**PA/MPA**”**、**“**PB/MPB**”**)のプログラムスキャンチャンネル、および3チャンネル(C1/C2/C3)のCALL-CHを持っています。
M-CHには、運用モード、デュプレックスの**“ON/OFF”**とそのシフト方向、オフセット周波数、トーンスケルチの**“ON/OFF”**、レピータアクセス用のトーンエンコーダー周波数、トーンスケルチ用のトーン周波数、コールサイン、メモリーネーム、DSQLの**“ON/OFF”**、SKIPの**“ON/OFF”**などを記憶します。

● **メモリーチャンネル(M-CH)の初期設定値(出荷時の状態)**

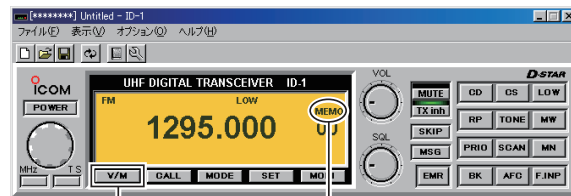
● M-CH	
M00	:1295.000MHz
M01～M99	:ブランクチャンネル＊
● プログラムスキャン用チャンネル	
PA	:1260.000MHz
PB	:1300.000MHz
● CALL-CH	
C1～C3	:1295.000MHz

＊**ブランクチャンネル**:何も記憶されていない状態をいいます。

■M-CHの呼び出しかた

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

● **[DIAL]で呼び出す**

① [V/M]をクリックし、メモリーモードにします。
・**“MEMO”**表示が点灯します。

② [DIAL]をクリックし、M-CHを選択します。
・右クリックでM-CHがアップします。
・左クリックでM-CHがダウンします。
・クリックを続けると、連続してM-CHが切り替わります。
・ブランクチャンネルを呼び出すことはできません。

● **テンキーから直接呼び出す**

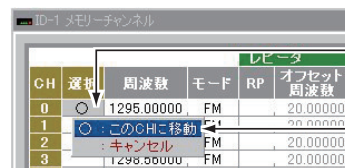
① **[V/M]**をクリックし、メモリーモードにします。
　“MEMO”表示が点灯します。
② **[F.INP]**をクリックし、テンキーを表示します。
　マウスで設定したいM-CH番号(00〜99)を直接入力します。
　・すべてのメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

《例》M-CH“56”を設定する場合は、
　[5] [6]の順にクリックします。
　・途中で入力を取り消す場合は、**[CE]**をクリックします。
　・ パソコンのキーボードからも、M-CHを設定できます。
　・キーボードからM-CH番号(00〜99)を入力します。

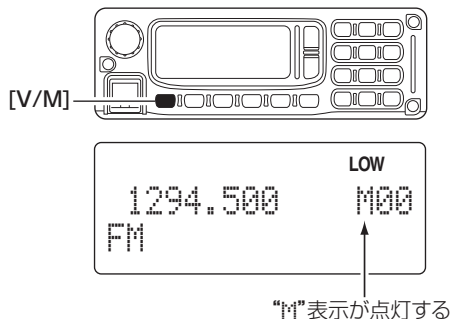
◇ **メモリーチャンネル編集画面で呼び出す**

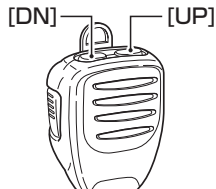
① 表示(V)メニューから「メモリーチャンネル編集(M)...F6」をクリックし、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
　・パソコンのファンクションキー**[F6]**を押します。
　・ツールバーの をクリックします。
② カーソルを選択するM-CHのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
　・「このCHに移動」メニューが表示されます。
　・カーソルを「○:このCHに移動」の上に動かし、マウスをクリックすると、コントロールソフト上のM-CHが選択したM-CHになります。

③ メモリーチャンネル編集画面を終了するときは、右上隅の (クローズ)ボタンをクリックします。
　・①の操作を繰り返すごとに、メモリーチャンネル編集画面が**“ON/OFF”**します。

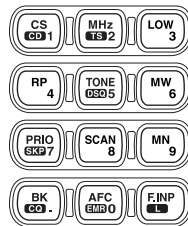
8

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

● [DIAL]で呼び出す

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
"M"表示が点灯します。
② [DIAL]またはキーパッドで、希望のM-CHを選択します。
・書き込まれているM-CHだけを呼び出します。

● マイクロホンで呼び出す

マイクロホンの[UP]/[DN]スイッチを押すごとに、M-CHが切り替わります。
なお、押し続けると連続してM-CHが切り替わります。

● キーパッドから直接呼び出す

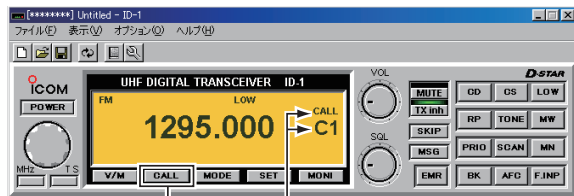
① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
"M"表示が点灯します。
② [F.INP L]を押し、M-CH入力待ち状態にします。
・キーパッドから設定したいM-CH(00〜99)を直接入力します。

《例》M-CH"02"を設定する場合は

[AFC EMR 0] [MHz TS 2]の順に押します。
・途中で入力を取り消す場合は、[F.INP L]を押すと、入力が解除され、前の表示に戻ります。
・すべてのメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

■ CALL-CHの呼び出しかた

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

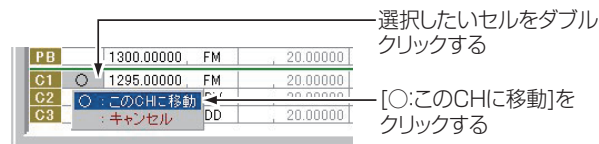
● [DIAL]で呼び出す

① [CALL]をクリックし、CALL-CHモードにします。
“CALL/C”表示が点灯します。
・このとき、[CALL]をクリックするごとに、CALL-CH(C1→C2→C3→C1)が切り替わります。

② [DIAL]をクリックするごとに、CALL-CH(C1→C2→C3→C1)が切り替わります。
・右クリックでCALL-CHをアップします。
・左クリックでCALL-CHをダウンします。
・クリックを続けると、連続してCALL-CHが切り替わります。
・パソコンのキーボードから、CALL-CHを設定できます。
キーボードからCALL-CHの数値(1/2/3)を入力します。

◇ メモリーチャンネル編集画面で呼び出す

① 表示(V)メニューから「メモリーチャンネル編集(M)... F6」をクリックし、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
・パソコンのファンクションキー[F6]を押します。
・ツールバーの をクリックします。

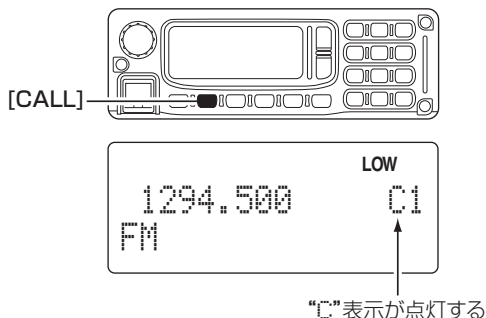
② テキストボックス右にある[▲]/[▼]をクリック(スクロール)し、CALL-CHが編集されている[CH]を選択します。

③ マウスのカーソルを選択するCALL-CHのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
・「チャンネルに移動」メニューが表示されます。
・カーソルを「○:このCHに移動」の上に動かし、マウスをクリックすると、コントロールソフト上のCALL-CHが選択したCALL-CHになります。

④ メモリーチャンネル編集画面を終了するときは、右上隅の (クローズ)ボタンをクリックします。
・①の操作を繰り返すごとに、メモリーチャンネル編集画面が“ON/OFF”します。

8

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

● [DIAL]で呼び出す

① [CALL]を押し、CALL-CHモードにします。
“C”表示が点灯します。
・このとき、[CALL]を押すごとに、CALL-CH(C1→C2→C3→C1)が切り替わります。
② [DIAL]を回し、CALL-CH(C1→C2→C3→C1)を選択します。

● マイクロホンで呼び出す

CALL-CHモード選択時、マイクロホンの[UP]/[DN]スイッチを押すごとに、CALL-CHが切り替わります。
なお、押し続けると連続してCALL-CHが切り替わります。

● キーパッドから直接呼び出す

① [CALL]を押し、CALL-CHモードにします。
“C”表示が点灯します。
② [F.INP L]を押し、CALL-CH入力待ち状態にします。
・キーパッドから設定したいCALL-CH(1/2/3)を直接入力します。

《例》CALL-CH“C2”を設定する場合は

[MHz TS 2]の順に押します。

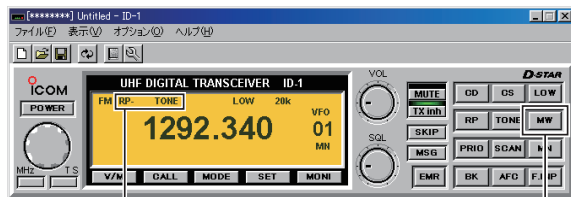
■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

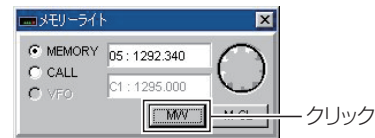
M-CH、CALL-CH、PROGRAM-CHへの書き込み、または書き替えをします。
工場出荷時は、M-CHの**“01～99”**までがブランクチャンネルになっています。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

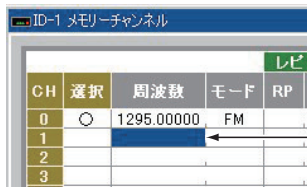
● M-CHの書き込みかた

《例》M-CH**“05”**に**“1292.340MHz /FM”**をメモリーする

① [V/M]をクリックし、VFOモードにします。
② [MODE]をクリックし、FMモードを選択します。
　・[MODE]をクリックするごとに、**“FM”→“DV”→“DD”→“FM”**と運用モード(電波型式)が切り替わります。
③ [DIAL]またはテンキーで、周波数(1292.340MHz)を設定します。

④ [MW]をクリックし、メモリーライト画面を表示します。
　・[MW]をクリックするごとに、メモリーライト画面が**“ON/OFF”**します。
⑤ メモリーライト画面で書き込み先(MEMORY/CALL)を選択します。
　・M-CHに書き込むときは「**MEMORY**」をクリックします。
　・CALL-CHに書き込むときは「**CALL**」をクリックします。

⑥ [DIAL]をクリックし、M-CH**“05”**を選択します。
⑦ メモリーライト画面の[MW]をクリックすると書き込みます。

⑧ メモリーライト画面を終了するときは、右上隅の[×](クローズ)ボタンをクリックします。

8

■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた(つづき)

◇ メモリーチャンネル編集画面で書き込む

①表示(V)メニューから「メモリーチャンネル編集(M)...F6」をクリックし、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
- パソコンのファンクションキー[F6]を押します。
- ツールバーの□をクリックします。

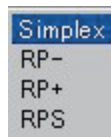
②カーソルを設定する周波数のセル上に移動させ、クリックします。
- パソコンのキーボードから運用周波数を入力し、[ENT]を押します。

- 同様の操作でCALL-CHまたはプログラムスキャン用チャンネル(PA/PB)の周波数を書き替えることができます。

③カーソルをモードのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
- モード選択メニューが表示されます。
- 左クリックで運用モードを選択します。

④その他の機能の設定

● レピータ(RP)の設定

Simplex
RP-
RP+
RPS

カーソルをRP(レピータ)のセル上に移動させ、ダブルクリックします。
デュプレックスモード選択メニューが表示されます。
左クリックでデュプレックスモードを選択し

● レピータ(オフセット周波数)の設定

カーソルをオフセット周波数のセル上に移動させ、クリックします。
パソコンのキーボードから、オフセット運用周波数を入力し、[ENT]を押します。
- 0.000〜60.000MHzの範囲で設定できます。

● **TONE/TSQL(TONE選択)の設定**

OFF
TONE　：レピータ用トーンエンコーダー
TSQL　：トーンスケルチ

カーソルをTONE選択のセル上に移動させ、ダブルクリックします。
左クリックでトーン機能を選択します。

● **TONE/TSQL(レピータトーン/TSQLトーン)の設定**

67.0	94.8	131.8	171.3	203.5
69.3	97.4	136.5	173.8	206.5
71.9	100.0	141.3	177.3	210.7
74.4	103.5	146.2	179.9	218.1
77.0	107.2	151.4	183.5	225.7
79.7	110.9	156.7	186.2	229.1
82.5	114.8	159.8	189.9	233.6
85.4	118.8	162.2	192.8	241.8
88.5	123.0	165.5	196.6	250.3
91.5	127.3	167.9	199.5	254.1

カーソルをレピータトーンまたはTSQLトーンのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
左クリックでトーン周波数を選択します。

● **デジタル(DSQL)の設定**

OFF
DSQL　：デジタルコールサインスケルチ
CSQL　：デジタルコードスケルチ

カーソルをDSQLのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
左クリックでデジタルスケルチ機能を選択します。

● **デジタル(コード)の設定**

カーソルをコードのセル上に移動させ、クリックします。
パソコンのキーボードから、2ケタ(00〜99)のコードを入力します。

● **コールサイン(相手局/RPT1/RPT2)の設定**

カーソルを相手局/RPT1/RPT2のセル上に移動させ、クリックします。
パソコンのキーボードから、相手局/RPT1/RPT2のコールサインをそれぞれ入力します。

● **SKIP(スキップ)の設定**

OFF
SKIP　：メモリースキャン時に
　　　　このCHを跳ばします

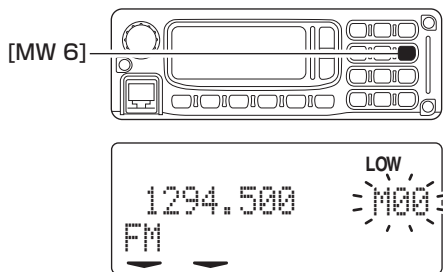
カーソルをSKIP(スキップ)のセル上に移動させ、ダブルクリックします。
左クリックでSKIPを指定します。

● **メモリーネームの設定**

カーソルをメモリーネームのセル上に移動させ、クリックします。
パソコンのキーボードから、10文字以内でメモリーネームを入力します。

⑤メモリーチャンネル編集画面を終了するときは、右上隅の ☒(クローズ)ボタンをクリックします。
・①の操作を繰り返すごとに、メモリーチャンネル編集画面が**“ON/OFF”**します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、VFOモードにします。
② [DIAL]またはキーパッドで、希望の周波数を設定します。
③ [MODE]を押し、運用モードを選択します。
④ [MW 6]を短く押し、セレクトメモリー状態にします。
　•“M”表示とチャンネル番号が点滅します。

⑤ [DIAL]を回し、書き込むM-CHを選択します。
　セレクトメモリー状態では、すべてのM-CHを呼び出します。
　•M-CH　:M00 ～M99
　•CALL-CH　:MC1 ～MC3
　•PROGRAM-CH　:MPA/MPB
⑥ [MW 6]を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押すと、指定したM-CHに書き込み、VFOモードに戻ります。
　• 書き込み完了後も押し続ける(約1秒間、ピッピピ、ピッが鳴るまで)とM-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり(オートインクリメント機能)、VFOモードに戻ります。

■ M-CH/CALL-CHの内容をVFOモードで使うには

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

使用しているM-CH、またはCALL-CHの内容をVFOモードに複写して交信する場合などに便利な機能です。

① メモリーモードまたはCALL-CHモードを選択します。
　•[V/M]または[CALL]をクリックし、メモリーモードまたはCALL-CHモードを選択します。
② [DIAL]またはテンキーで、希望のチャンネルを呼び出します。
③ [MW]をクリックし、メモリーライト画面を表示します。

④ メモリーライト画面で複写先(CALL/VFO)を選択します。
　•M-CHまたはCALLCHの内容をVFOに複写するときは「VFO」をクリックします。
　•M-CHの内容をCALL-CHに複写するときは「CALL」をクリックします。

〔ご参考〕
メモリーライト画面で「MEMORY」または「CALL」を選択し、[DIAL]でチャンネルを選択できます。
・右クリックでM-CHまたはCALL-CHがアップします。
・左クリックでM-CHまたはCALL-CHがダウンします。
⑤ メモリーライト画面の[MW]をクリックすると複写します。

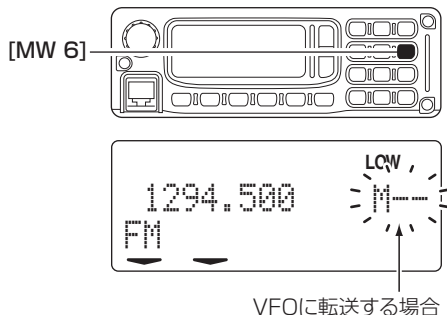
◇ メモリーチャンネル編集画面でコピー/貼り付けをする

① 表示(V)メニューから「メモリーチャンネル編集(M)...F6」をクリックし、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
・パソコンのファンクションキー[F6]を押します。
・ツールバーの をクリックします。
② カーソルをコピーする周波数のセル上に移動させ、右クリックします。
・メモリーチャンネル編集メニューが表示されます。
③ メモリーチャンネル編集メニューから、「コピー(C)」を左クリックします

④ カーソルを複写先の周波数セルの上に動かし、右クリックし、「貼り付け(P)」を左クリックします。

8

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

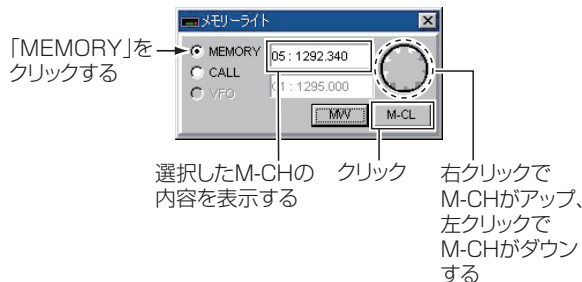
① [V/M]を押し、メモリーモードを選択します。
② [DIAL]またはキーパッドで、M-CHを選択します。
③ [MW 6]を短く押します。(M-CH表示点滅)
④ [DIAL]を回し、転送先を選択します。

・M-- :VFOに転送します。
・M00 ~M99 :M-CHに転送します。
・MC1 ~MC3 :CALL-CHに転送します。
・MPA ~MPB :プログラムスキャン用チャンネルに転送します。

⑤ [MW 6]を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押すと、M-CHの内容が転送されます。

■ メモリークリア(消去)のしかた

いったん消去したM-CHの内容は、修復できませんので、ご注意ください。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [MW]をクリックし、メモリーライト画面を表示します。
② メモリーライト画面で「MEMORY」をクリックします。
③ [DIAL]またはテンキーで、消去したいM-CHを選択します。
④ メモリーライト画面の[M-CL]をクリックすると、メモリーの内容が消去されます。

⑤ メモリーチャンネル編集画面を終了するときは、右上隅の ☒(クローズ)ボタンをクリックします。
・再度、ID-1の[MW]をクリックすると、メモリーライト画面が終了します。

◇ メモリーチャンネル編集画面で消去する

① [メモリーCH編集]ボタンをクリックし、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
  ・表示(V)メニューから「メモリーチャンネル編集(M)… F6」をクリックします。
  ・パソコンのファンクションキー[F6]を押します。
  ・ツールバーの をクリックします。
② カーソルを消去する周波数のセル上に移動させ、右クリックします。
  ・メモリーチャンネル編集メニューが表示されます。
③ メモリーチャンネル編集メニューから、「クリア」を左クリックします

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、メモリーモードを選択します。
② [MW 6]を短く押します。(M-CH表示点滅)
③ [DIAL]を回し、消去したいM-CHを選択します。
④ [MW 6]を短く押し、1秒以内にもう一度[MW 6]を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容が消去されます。

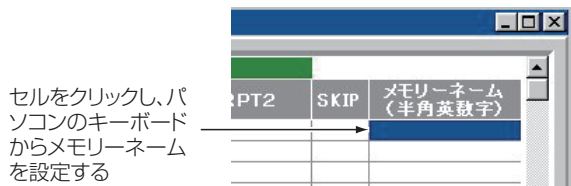
【ご注意】
この操作のとき、短く押したあと、間隔をあけずにすばやく、次の長く押す操作をしてください。
間隔をあけると、無効になります。

■メモリーネームの付けかた

記憶したM-CHに10文字までの、メモリーネームを付けることができます。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

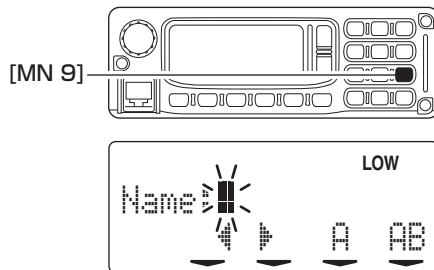
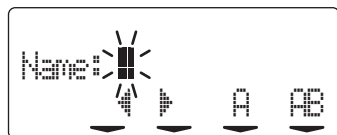
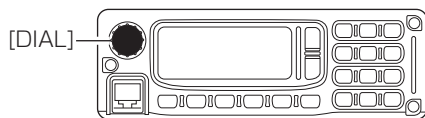
① 表示(V)メニューから「メモリーチャンネル編集(M)…F6」をクリックし、メモリーチャンネル編集画面を表示します。
  • パソコンのファンクションキー**[F6]**を押します。
  • ツールバーの をクリックします。

② カーソルをネームを付けるチャンネルのメモリーネームセル上に移動させ、クリックします。
  • パソコンのキーボードから、10文字以内でメモリーネームを設定します。

セルをクリックし、パソコンのキーボードからメモリーネームを設定する

③ メモリーチャンネル編集画面を終了するときは、右上隅の (クローズ)ボタンをクリックします。
  • ①の操作を繰り返すごとに、メモリーチャンネル編集画面が**“ON/OFF”**します。

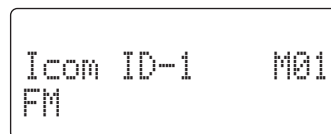
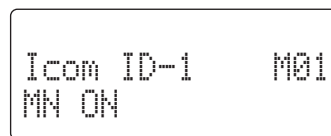
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① **[V/M]**を押し、メモリーモードにします。
[DIAL]またはキーパッドで、希望のM-CHを選択します。

② **[MN 9]**を長く(ビープ音がピッピと鳴るまで)押すと、Memory Name設定画面が表示されます。
  • メモリーネーム入力状態となり、1ケタ目の枠カーソルが点滅します。

③ **[SQL]**を押し、文字種(英文字/数字/記号)を選択します。
  • AB　:A ～Z(英大文字)
  • ab　:a ～z(英小文字)
  • 12　:0～9(数字)
  • _/　:_ (スペース)、/(記号)
  • !"　: ！ ”＃ ＄ ％ ＆ ’（ ）＊ ＋，－．：；＜＝＞ ？＠［＼］＾ ＿ ｀｛ ｜ ｝～(記号)

④ [DIAL]を回し、文字を選択します。
⑤ [TXinh SET]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
⑥ [MODE](▶)を押すと枠カーソルが右に移動し、[CALL](◀)を押すと枠カーソルが左に移動します。
・上記③と⑥を繰り返し操作し、メモリーネームを入力します。

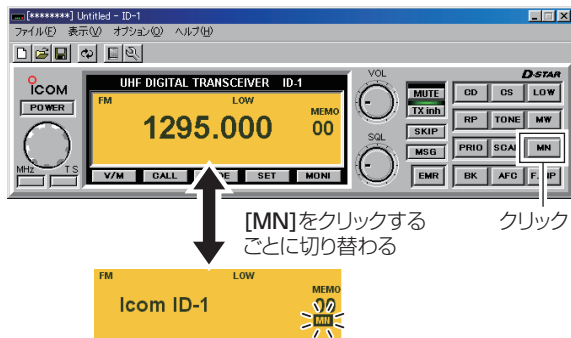
⑦ [MN 9]を長く(ビープ音がピッピと鳴るまで)押すと、メモリーネームが書き込まれます。
・[MN 9]を短く押すごとに、MN ON(メモリーネーム表示)→MN OFF(メモリーネームの表示をしない)が切り替わります。

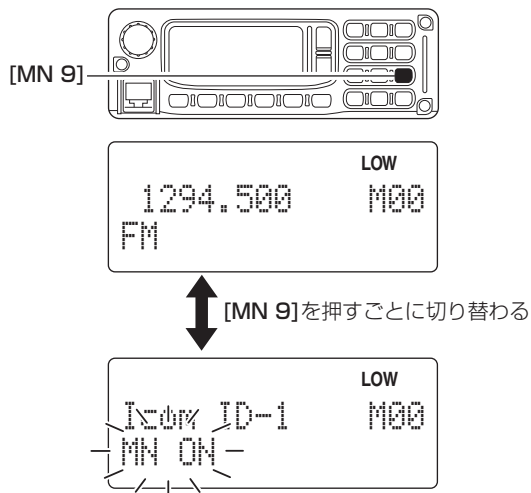
Icom ID-1 M01
FM

8

■メモリーネームを表示するには

メモリーネームは、メモリーモードで表示します。

◇ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
　[DIAL]またはテンキーで、希望のM-CHを選択します。
② [MN]をクリックすると、メモリーネームが表示されます。
　“MN”表示が点灯します。
③ [MN]をクリックすると、周波数表示に戻ります。

◇RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
　[DIAL]またはキーパッドで、希望のM-CHを選択します。
② [MN 9]を短く押すと、メモリーネームが表示されます。
　• “MN ON”表示が点灯しますが、約2秒後にモード表示に戻ります。
③ [MN 9]を短く押すと、周波数表示に戻ります。
　• “MN OFF”表示が点灯しますが、約2秒後にモード表示に戻ります。

■スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動的に切り替え、信号の出ているところを探し出す機能です。

● **プログラムスキャン(VFOモードで行う)**
機能:プログラムスキャン用チャンネル**"PA"**と**"PB"**に書き込まれた周波数範囲をスキャンします。
動作:スキャン中に信号を受信すると、一時停止します。
信号が途切れると約2秒後に再スタートします。
なお、再スタートの条件は、**「◇ SCANタイマーの設定」**(右記)により変わります。

● **メモリー(スキップ)スキャン(メモリーモードで行う)**
機能:周波数を書き込んでいる、すべてのM-CHをスキャンします。
なお、スキップを指定しているM-CHは、飛び越して(スキップ)スキャンします。
動作:上記参照

● **モードセレクトスキャン(メモリーモードで行う)**
機能:モード(FM/DV/DD)を指定することにより、指定したモードのM-CHだけをスキャンします。
動作:上記参照

● **プライオリティースキャン**
機能:VFOモードの周波数を受信しながら、一定の間隔で他の周波数(M-CHまたはCALL-CH)を受信します。
動作:VFOモードの周波数を5秒間受信し、他の周波数を瞬間受信します。
※ 再スタートの条件は上記(プログラムスキャン)と同じです。

■ スキャンを操作する前に

◇ スケルチの調整

通常は雑音が消え**"BUSY"**表示が消灯する位置にセットします。(FMモードのみ)
スキャン動作中でも、スケルチの調整ができます。

◇ スキャン中の[DIAL]操作について

● スキャン中に**[DIAL]**を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンが切り替わります。
● 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、**[DIAL]**を回すと、すぐに再スタートします。

◇ スキャン中のステップについて

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、あらかじめ各バンドごとに設定しているチューニングステップ(☞P44)で動作します。

◇ スキップ機能について

メモリースキャンでスキップ(必要のないM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。
スキップの設定については(☞P92)を参照してください。

◇ 受信モード(電波型式)について

受信モードは、VFOモードで設定している電波型式で動作します。

■ スキャン再スタートのタイマー設定について

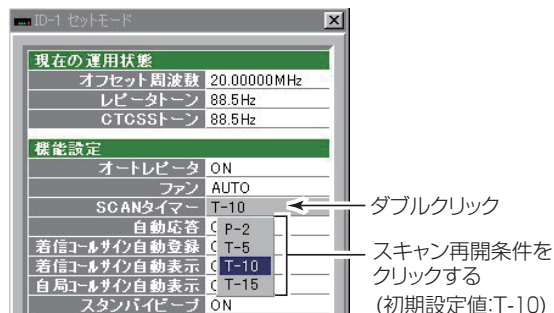
◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

スキャン中、受信信号で一時停止したときから、再スタートするまでのタイマー時間はセットモードで設定します。

● SCANタイマーの設定

スキャン停止後、スキャンを再スタートするまでのタイマーを設定します。

① [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
- 表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)… F7」をクリックします。
- パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
- ツールバーの をクリックします。

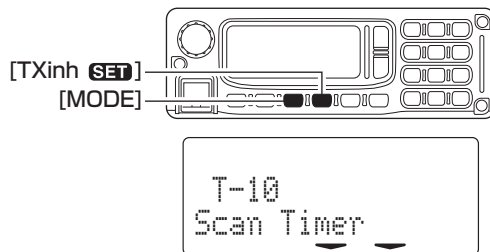
② [SCANタイマー]のセルにマウスのカーソルを合わせ、ダブルクリックします。
SCANタイマーメニューが表示されます。
- P-2 ：信号を受信している間だけは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。
- T-5 ：スキャン停止後約5秒で再スタートします。
- T-10 ：スキャン停止後約10秒で再スタートします。
- T-15 ：スキャン停止後約15秒で再スタートします。

③ [SCANタイマー]設定項目のセットモードを終了するときは、右上隅の(クローズ)ボタンをクリックします。
- ①の操作を繰り返すごとに、セットモード画面が"ON/OFF"します。

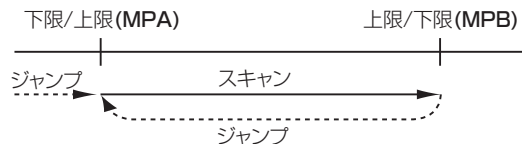
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

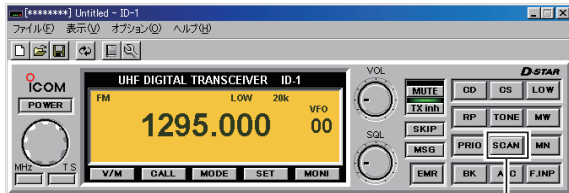
① [TXinh SET]を長く(約0.5秒)押し、セットモードにします。
- 長く(約0.5秒)押すごとに、セットモード画面が"ON/OFF"します。

② [TXinh SET]または[MODE]を押し、「Scan Timer」設定項目を選択します。
- [TXinh SET]を押すと、設定項目をアップし、[MODE]を押すとダウンします。

③ [DIAL]を回し、スキャンを再スタートするまでの条件(上記参照)を選択します。

④ [PWR]、[F.INP L]、[∧]/[∨]を短く押すか、[TXinh SET]を長く(約0.5秒)押すと、セットモードが解除します。

■ プログラムスキャンのしかた (VFOモード)

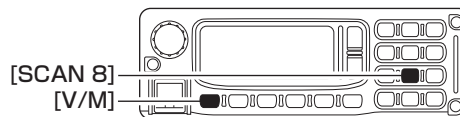
プログラムスキャン用チャンネル“PA”と“PB”に書き込まれた範囲をスキャンします。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [V/M]をクリックし、VFOモードにします。
② [SCAN]をクリックし、スキャンメニューを表示します。

③ スキャンメニューの「PROGRAM SCAN」をクリックするとプログラムスキャンがスタートします。
　•スキャン中はデシマルポイントが点滅します。

OFF ← プログラムスキャンを解除する
PROGRAM SCAN ← プログラムスキャンがスタートする
MEMORY SCAN
MODE SEL SCAN

④ “OFF”をクリックすると、スキャンが解除します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、VFOモードにします。
② [SCAN 8]を押すと、プログラムスキャンをスタートします。

　•スキャン中はデシマルポイントが点滅します。
③ 再度、[SCAN 8]を短く押すと、スキャンが解除します。

■ プログラムスキャン範囲(周波数)の書き込みかた

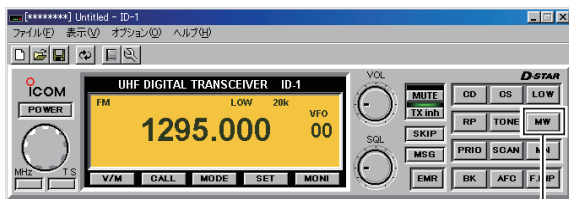
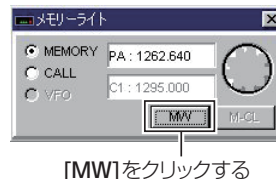
◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

［例］“MPA”に1262.640MHz、
“MPB”に1285.000MHzを書き込む場合

① [V/M]をクリックし、VFOモードにします。
[DIAL]またはテンキーで、下限周波数を設定します。

● **テンキーから直接設定する**

[F.INP]をクリックし、テンキーを表示させせます。
マウスで設定したい周波数を直接入力できます。
1262.640MHzの下限周波数を設定する場合
[1] [2] [6] [2] [.] [6] [4] [0]の順にクリックします。
・途中で入力を取り消す場合は、[CE]をクリックすると、入力を解除し、前の表示に戻ります。

② [MW]をクリックし、メモリーライト画面を表示します。

③「MEMORY」をクリックします。
④ メモリーライト画面の[DIAL]をクリックし、“PA”を選択します。
⑤ [MW]をクリックすると、書き込みます。
⑥ 上記を参照し、上限周波数(1285.000MHz)を設定します。
⑦ [MW]をクリックすると、書き込みます。

⑧ メモリーライト画面を終了するときは、右上隅の ✕ (クローズ)ボタンをクリックします。

◇ メモリーチャンネル編集画面による書き込みかた

メモリーチャンネル編集画面でプログラムスキャン用チャンネル(PA/PB)を選択し、パソコンのキーボードから直接設定できます。

① 表示(V)メニューから「メモリーチャンネルの編集(M)…F6」をクリックします。
・パソコンのファンクションキー**[F6]**を押します。
・ツールバーの をクリックします。

② メモリーチャンネル編集画面が表示されます。

ID-1 メモリーチャンネル

CH	選択	周波数	モード	RP	オフセット周波数
99					
PA	○	1262.64000	FM		20.00000
PB		1285.00000	FM		20.00000
C1	○	1295.00000	FM		20.00000
C2		1295.00000	DV		20.00000
C3		1295.00000	DD		20.00000

③ **周波数の設定**
・マウスのカーソルを周波数を設定したいプログラムスキャン用チャンネル(PA)のセル上に移動させ、クリックします。
・セルの表示が反転表示になります。
・パソコンのキーボードから直接周波数を入力します。

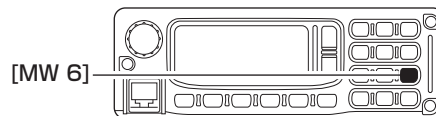
《例》1264.640MHzを入力する場合
[1] [2] [6] [4] [.] [6] [4] [ENT]と入力します。
・同様の方法でプログラムスキャン用チャンネル(PB)も設定してください。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

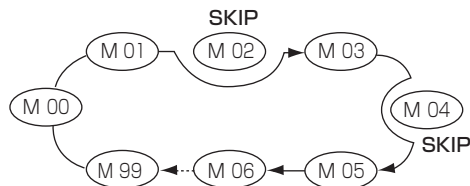
① **[V/M]**を押し、VFOモードにします。
[DIAL]またはキーパッドで、下限周波数を設定します。

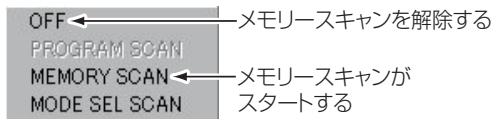
● **キーパッドの場合**
1262.100MHzの下限周波数を設定する場合

の順に押します。
途中で入力を取り消す場合は、**[F.INP L]**を押すと、入力が解除され、前の表示に戻ります。

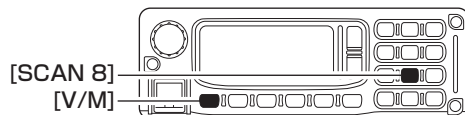
② **[MW 6]**を短く押し、セレクトメモリー状態にします。
・**"M"**表示とチャンネル番号が点滅します。

③ **[DIAL]**を回し、**"MPA"**を選択します。
④ **[MW 6]**を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押すと、書き込みます。
⑤ 上記を参照し、上限周波数(1285.000MHz)に設定します。
⑥ **[MW 6]**を長く(ビープ音がピッピピと鳴るまで)押すと、書き込みます。

■ メモリー(スキップ)スキャンのしかた(メモリーモード)

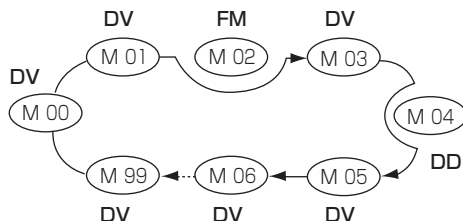
周波数を記憶しているM-CHをスキャンします。
スキップの指定を行うと、メモリースキップスキャンとなり、スキップが指定されたM-CHは飛び越えて(スキップ)スキャンします。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

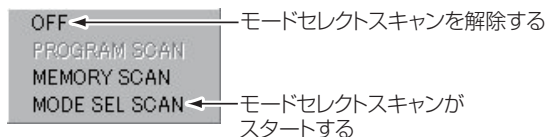
① [V/M]をクリックし、メモリーモードにします。
② [MODE]をクリックし、モードを指定します。
※ モードはスキャン中でも変更できます。
③ [SCAN]をクリックすると、スキャンメニューが表示されます。
④ スキャンメニューの「MEMORY SCAN」をクリックするとメモリースキャンがスタートします。

・スキャン中は“MEMO”表示とデシマルポイントが点滅します。
⑤ “OFF”をクリックすると、スキャンが解除します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
② [SCAN 8]を押すと、メモリースキャンがスタートします。
・スキャン中は“M”が点滅します。

③ 再度、[SCAN 8]を短く押すとスキャンが解除します。

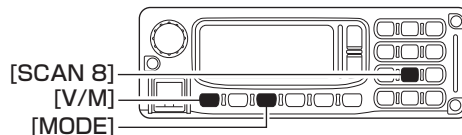
■ モードセレクトスキャンのしかた(メモリーモード)

指定したモードが記憶されているM-CHをスキャンします。
スキップの指定を行うと、メモリースキップスキャンとなり、スキップが指定されたM-CHは飛び越えて(スキップ)スキャンします。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [V/M]をクリックし、メモリーモードにします。
② [MODE]をクリックし、モードを指定します。
　•モードはスキャン中でも変更できます。
③ [SCAN]をクリックすると、スキャンメニューが表示されます。
④ スキャンメニューの「MODE SEL SCAN」をクリックするとモードセレクトスキャンがスタートします。

　•スキャン中は“MSEL”表示とデシマルポイントが点滅します。
⑤ “OFF”をクリックすると、スキャンが解除します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
② [MODE]を押し、モードを指定します。
　•モードはスキャン中でも変更できます。
③ [SCAN 8]を長く押すと、モードセレクトスキャンがスタートします。
　•スキャン中は“M”が点滅します。
④ 再度、[SCAN 8]を短く押すと、スキャンが解除します。

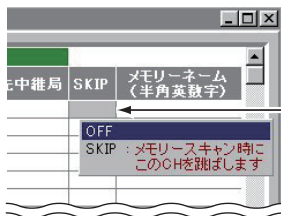
9

■ スキップを指定する

メモリーチャンネル編集画面でスキャンで使用するスキップを指定できます。
パソコンのキーボードから直接設定できます。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
② [DIAL]またはテンキーで、M-CHを指定します。
③ [SKIP]クリックするごとに、"SKIP"(スキップ)指定を"ON/OFF"します。
　•SKIP(スキップ)が指定されると"SKIP"表示を点灯します。

◇ メモリーチャンネル編集画面で指定する

① 表示(V)メニューから「メモリーチャンネルの編集(M)…F6」をクリックします。
　•パソコンのファンクションキー[F6]を押します。
　•ツールバーのをクリックします。
② メモリーチャンネル編集画面が表示されます。

スキップを指定するM-CHのセルをダブルクリックする
スキップメニューから"SKIP"をクリックする

③ スキップの指定
マウスのカーソルをスキップを指定したいチャンネルのセル上に移動させ、ダブルクリックします。
スキップメニューが表示されます。
④ "SKIP"(スキップ)をクリックします。
"OFF"をクリックすると、スキップ指定が解除されます。
　•プログラムスキャン用チャンネルとコールチャンネルに"SKIP"(スキップ)を指定することはできません。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [V/M]を押し、メモリーモードにします。
② [DIAL]またはキーパッドで、M-CHを指定します。
③ [PRIO SKP 7]を長く(約0.5秒)押すごとに、スキップ指定が"ON/OFF"します。
　•SKIP(スキップ)が指定されると"S"を表示します。

■ プライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

- 受信しようとする特定の周波数またはM-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。
- プライオリティCHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)受信し、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。
- 一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(SETモードの設定条件)

種　　類	動　　作
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のプライオリティCH(M-CH)の信号の有無を受信(監視)します。
VFO周波数とCALL-CH	VFO周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のプライオリティCH(CALL-CH)を受信(監視)します。

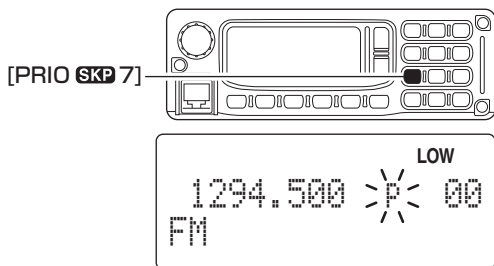
◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

VFOモードの周波数を5秒間受信し、プライオリティCH(M-CHまたはCALL-CH)を瞬間受信します。

① VFOモードで運用周波数を設定します。
② **[V/M]**をクリックし、メモリーモードにします。
　・または**[CALL]**をクリックし、CALL-CHモードにします。
③ **[DIAL]**をクリックし、M-CHまたはCALL-CHを選択します。
④ **[PRIO]**をクリックすると、**"PRIO"**表示が点灯してプライオリティスキャンがスタートします。
　・スキャン中は**"PRIO"**表示が点灯します。
⑤ 再度、**[PRIO]**をクリックすると、プライオリティスキャンが解除します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

VFOモードの周波数を5秒間受信し、プライオリティCH(M-CHまたはCALL-CH)を瞬間受信します。

① VFOモードで運用周波数を設定します。
② [V/M]を押し、メモリーモードにします。
　または[CALL]を押し、CALL-CHモードにします。
③ [DIAL]を回し、M-CHまたはCALL-CHを選択します。
④ [PRIO SKP 7]を短く押すと、“P”表示が点灯してプライオリティスキャンがスタートします。
　・スキャン中は“P”表示が点滅します。
⑤ 再度、[PRIO SKP 7]を短く押すと、プライオリティスキャンが解除します。

■ セットモードの編集

いったん設定すると、あまり変更しない機能をまとめたモードです。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
- 表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)… F7」をクリックします。
- パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
- ツールバーの をクリックします。

② セットモードを終了するときは、右上隅の (クローズ)ボタンをクリックします。
- または、①の操作を繰り返すごとに、セットモード画面が“ON/OFF”します。

● **設定の変更方法**
変更をしたいセルの上にマウスのカーソルを移動し、ダブルクリックします。
オフセット周波数は、キーボードより周波数を直接入力してください。

◇ 現在の運用状態

現在運用中のVFOまたはM-CHの設定内容を表示します。

● **オフセット周波数:**
デュプレックス運用で使用するオフセット周波数を設定します。
パソコンのキーボードより周波数を直接入力します。
※ 0.00000～**[20.00000MHz]**～60.00000MHzの範囲で設定します。
(初期設定値:20.00000MHz)

● **レピータトーン:**
レピータ運用で使用するレピータ用トーン周波数を設定します。

● **CTCSSトーン:**
トーンスケルチ機能で使用するトーン周波数を設定します。

67.0	94.8	131.8	171.3	203.5
69.3	97.4	136.5	173.8	206.5
71.9	100.0	141.3	177.3	210.7
74.4	103.5	146.2	179.9	218.1
77.0	107.2	151.4	183.5	225.7
79.7	110.9	156.7	186.2	229.1
82.5	114.8	159.8	189.9	233.6
85.4	118.8	162.2	192.8	241.8
88.5	123.0	165.5	196.6	250.3
91.5	127.3	167.9	199.5	254.1

希望のトーン周波数をクリックします。
(初期設定値:88.5Hz)

● **デジタルコード:**
デジタルコードスケルチで使用するコード番号(2ケタ)を設定します。

◇ 機能設定

● **オートレピータ:**
自動的にレピータ運用モードにする、オートレピータ機能の**“ON/OFF”**を設定します。

OFF
ON

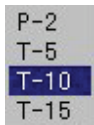
初期設定値:ON

● **ファン:**
放熱用のファンの動作を設定します。
AUTO : 内部の温度が一定以上の温度になるとファンが動作し、温度が下がると自動停止する。(初期設定値)
ON : 連続動作となる。

AUTO
ON

初期設定値:AUTO

● **スキャンタイマー:**
スキャン停止後、スキャンが再スタートするまでのタイマーを設定します。
P2 : 信号を受信している間は一時停止し、信号が無くなってから約2秒後に再スタートする。
T5 : スキャン停止後約5秒で再スタートする。
T10 : スキャン停止後約10秒で再スタートする。(初期設定値)
T15 : スキャン停止後約15秒で再スタートする。

P-2
T-5
T-10
T-15

初期設定値:T-10

● **自動応答:**
デジタルモードで呼び出しを受けたとき、自動的に呼び出した相手局に応答する機能を設定します。
OFF :自動応答をしない。(初期設定値)
ON :呼び出しを受け、応答しなければ、自動応答する。
・自動応答機能は、相手局から呼ばれたとき、送信操作を行うと解除(OFF)します。

OFF
ON

初期設定値:OFF

● **着信コールサイン自動登録:**
デジタルモード運用時、呼び出しを受けた局(着信)のコールサインをコールサイン選択画面に自動登録を設定します。
OFF :コールサイン選択画面に自動登録しない。(初期設定値)
ON :コールサイン選択画面に自動登録する

OFF
ON

初期設定値:OFF

● **着信コールサイン自動表示:**
デジタルモード運用時、設定している周波数で運用している他局のコールサインをディスプレイに表示するか、しないかを設定します。
ON :コールサインをディスプレイに表示する。(初期設定値)
OFF :コールサインを表示しない。

初期設定値:ON

● **自局コールサイン自動表示:**
デジタルモード運用時、自局のコールサインをディスプレイに表示するか、しないかを設定します。
ON :送信時に自局のコールサインをディスプレイに表示する。(初期設定値)
OFF :送信時に自局のコールサインを表示しない。
・電源投入時、または送信時に自局のコールサインを表示します。

OFF
ON
初期設定値:ON

● **スタンバイビープ:**
送信(通話)の終わりに鳴らすビープ音を設定します。
DV(デジタル音声)モードのみ動作します。
ON :送信の終わりにビープ音を鳴らす。(初期設定値)
OFF :送信の終わりにビープ音は鳴らさない。
・送信(通話)の終わりにビープ音が鳴るため、相手局に送信が終了したことを通知できます。

OFF
ON
初期設定値:ON

● **デジタルモニター:**
デジタルモード運用時、モニターをアナログ(FMモード)にするかデジタルにするかを設定します。
DIGITAL :デジタルモード運用時、デジタルモードでモニターする。(初期設定値)
ANALOG :デジタルモード運用時、アナログモードでモニターする。

DIGITAL
ANALOG
初期設定値:DIGITAL

● **DVデータ送信:**
DVモード時、USBによる簡易データ通信の送信方法を設定します。
PTT :マイクロホンの**[PTT]**スイッチを押すと、USBから入力したデータが送信する。(初期設定値)
AUTO :USBからデータを入力すれば自動で送信する。

PTT
AUTO
初期設定値:PTT

● **デジタルRPTセット:**
レピータコールサインの設定がアクセスしたレピータと一致しない場合、レピータのダウンリンク信号に含まれるレピータコールサインを自動的にレピータコールサイン選択画面の**“RPT1”**に設定するか、しないかを設定します。
ON :自動的にレピータコールサインを設定する。(初期設定値)
OFF :自動的にレピータコールサインを設定しない。

OFF
ON
初期設定値:ON

● **着信メッセージ自動表示:**
DVモード時、ディスプレイに受信したメッセージを自動でスクロールして表示するか、しないかを設定します。
ON :受信したメッセージを自動でスクロールして表示する。(初期設定値)
OFF :メッセージを表示しない。

OFF
ON
初期設定値:ON

◇ RC-24の設定

● **ディマー:**
ディスプレイと操作キーのバックライト(明るさ)を設定します。

● BRIGHT :バックライトを明るくする。(初期設定値)
● DARK :バックライトを暗くする。
● OFF :バックライトを消灯する。

BRIGHT
DARK
OFF

初期設定値:BRIGHT

● **ビープ:**
キー操作をしたときに鳴るビープ音の**"ON/OFF"**を設定します。

● ON :ビープ音を鳴らす。(初期設定値)
● OFF :ビープ音を鳴らさない。

初期設定値:ON

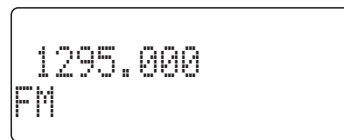
● **ロック:**
不用意に**[DIAL]**や各操作ボタンにふれても周波数や設定が変わらないLOCK機能の**"ON/OFF"**を設定します。

● ON :ロック機能が動作する。
● OFF :ロック機能が動作しない。(初期設定値)

初期設定値:OFF

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

FMモードまたはデジタルモードにより、セットモードで設定できる項目が異なります。

① **[TXinh SET]**を長く(約0.5秒)押し、セットモードにします。
② **[TXinh SET]**または**[MODE]**を押し、設定項目を選択します。
③ **[DIAL]**を回し、設定内容を選択します。
 •続けてセットモードを設定するときは、②と③を繰り返して操作してください。
④ **[PWR]**、**[F.INP L]**、**[∧]**/**[∨]**を短く押すか、**[TXinh SET]**を長く(約0.5秒)押すと、セットモードが解除します。

◇ TSQL周波数の設定 (FMモード)

トーンスケルチ機能で使用するトーン周波数を設定します。FMモードのみ動作します。

- 67.0～**[88.5]** ～254.1Hzの中から選択します。
  ※ 初期設定値:88.5Hz

◇ デジタルコードの設定 (デジタルモード)

デジタルコードスケルチで使用するコード番号(2ケタ)を設定します。

DV(デジタル音声)/DV(デジタルデータ)モードで動作します。

- 00～99の範囲で設定します。
  ※ 初期設定値:00

LOW
00
Digital Code

◇ レピータトーン周波数の設定 (FMモード)

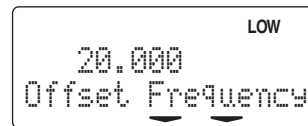
レピータ運用で使用するレピータ用トーン周波数を設定します。

FMモードのみ動作します。

- 67.0～**[88.5]** ～254.1Hzの中から選択します。
  ※ 初期設定値:88.5Hz

◇ オフセット周波数の設定(FMモード/デジタルモード)

デュプレックス運用で使用するオフセット周波数を設定します。

- 0.000～**[20.000MHz]** ～60.000MHzの範囲で設定します。
  (初期設定値:20.000MHz)

※ オフセット周波数は、現在設定しているチューニングステップで可変できます。(☞P44)
なお、1MHzステップも使用できます。(☞P43)

◇ SCANレジュームの設定 (FMモード/デジタルモード)

スキャン停止後、スキャンが再スタートするまでのタイマーを設定します。

- P-02 ：信号を受信している間は一時停止し、信号が無くなってから約2秒後に再スタートする。
- T-5 ：一時停止したときから約5秒後に再スタートする。
- T-10 ：一時停止したときから約10秒後に再スタートする。(初期設定値)
- T-15 ：一時停止したときから約15秒後に再スタートする。

◇ 自動応答の設定 (デジタルモード)

デジタルモードで自局の呼び出しを受けたとき、自動的に呼び出した相手局に応答する機能を設定します。

- OFF ：自動応答をしない。(初期設定値)
- ON ：呼び出しを受け、応答しなければ、自動応答する。

※ 自動応答機能は、相手局から呼ばれたとき、送信操作を行うと解除(OFF)されます。

◇ スタンバイビープの設定 (デジタルモード)

送信(通話)の終わりに鳴らすビープ音を設定します。
DV(デジタル音声)モードのみ動作します。

- ON ：送信の終わりにビープ音を鳴らす。(初期設定値)
- OFF ：送信の終わりにビープ音は鳴らさない。

※ 送信(通話)の終わりにビープ音が鳴るため、相手局に送信が停止したことが通知できます。

◇ 着信コールサイン自動登録の設定 (デジタルモード)

デジタルモード運用時、呼び出しを受けた局(着信)のコールサインをコールサイン選択画面に自動登録を設定します。

- OFF ：コールサイン選択画面に自動登録しない。(初期設定値)
- ON ：コールサイン選択画面に自動登録する

◇ 着信コールサイン自動表示の設定（デジタルモード）

デジタルモード運用時、呼び出しを受けた局(着信)のコールサインをディスプレイに表示するか、しないかを設定します。

- ● ON ：着信時にコールサインをディスプレイに表示する。(初期設定値)
- ● OFF ：着信時にコールサインを表示しない。

◇ デジタルモニターの設定（デジタルモード）

デジタルモード運用時、モニターをアナログ(FMモード)でするかデジタルでするかを設定します。

- ● DIGITAL ：デジタルモード運用時、モニターをデジタルでする。(初期設定値)
- ● ANALOG ：デジタルモード運用時、モニターをアナログでする。

◇ 自動自局コールサイン表示の設定（デジタルモード）

デジタルモード運用時、自局のコールサインをディスプレイに表示するか、しないかを設定します。

- ● ON ：送信時に自局のコールサインをディスプレイに表示する。(初期設定値)
- ● OFF ：送信時に自局のコールサインを表示しない。

※ 電源投入時、または送信時に自局のコールサインを表示します。

◇ DVデータ送信の設定（デジタルモード）

DV(デジタル音声)モード時、USBによる簡易データ通信の送信方法を設定します。

- ● PTT ：マイクロホンの[PTT]スイッチを押すと、USBから入力したデータが送信する。(初期設定値)
- ● AUTO ：USBからデータを入力すれば自動で送信する。

11

◇ デジタルRPTセットの設定 (デジタルモード)

レピータコールサインの設定がアクセスしたレピータと一致しない場合、レピータのダウンリンク信号に含まれるレピータコールサインを自動的にレピータコールサイン選択画面の“RPT1”に設定するか、しないかを設定します。

- ON :自動的にレピータコールサインを設定する。(初期設定値)
- OFF :自動的にレピータコールサインを設定しない。

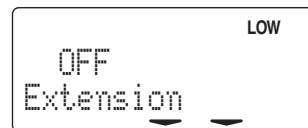
◇ 拡張セットモードの設定(FMモード/デジタルモード)

拡張セットモードを使用するかしないかを設定します。

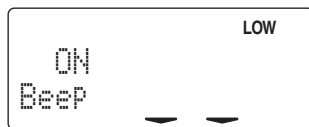
- OFF :拡張セットモードを使用しない。(初期設定値)
- ON :拡張セットモードを使用する。

◇ 着信メッセージ自動表示の設定 (デジタルモード)

DV(デジタル音声)モード運用時に、受信したメッセージを自動でスクロールして表示するか、しないかを設定します。

- ON :受信したメッセージを自動でスクロールして表示する。(初期設定値)
- OFF :受信したメッセージを表示しない。

■ 拡張セットモード

◇ ビープ音の設定 (FMモード/デジタルモード)
キー操作をしたときに鳴るビープ音の“ON/OFF”を設定します。
- ON :ビープ音を鳴らす。(初期設定値)
- OFF :ビープ音を鳴らさない。

◇ 空冷ファンの設定 (FMモード/デジタルモード)
放熱用のファンの動作を設定します。
- AUTO :内部の温度が一定以上の温度になるとファンが動作し、温度が下がると自動停止する。(初期設定値)
- ON :連続動作になる。

◇ バックライト照明の設定 (FMモード/デジタルモード)
ディスプレイと操作キーのバックライト照明を設定します。
- BRIGHT :バックライトを明るくする。(初期設定値)
- DARK :バックライトを暗くする。
- OFF :バックライトを消灯する。

◇ オートレピータの設定 (FMモード/デジタルモード)
レピータ運用をするための、シフト方向、トーン周波数、オフセット周波数などを自動で設定するオートレピータ機能を設定します。
- ON :オートレピータ機能を有効にする。(初期設定値)
- OFF :オートレピータ機能を無効にする。

■トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ/ポケットビープ機能の運用

◇ トーン機能とは

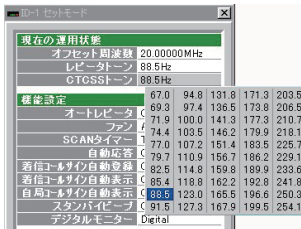
送信周波数にCTCSSトーン周波数を重畳して送出します。
受信時には重畳されたCTCSSトーン周波数が一致したときのみ、受信回路を動作させ、特定局の個別呼び出しを行う便利な機能です。

◇ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ/デジタルコールサインスケルチ機能とは

特定の相手局と交信するときに便利な機能です。
自局が設定したCTCSSトーン周波数(FMモード)、デジタルコード(DVモード)、または自局のコールサインを受信したときだけスケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。

- 自局のコールサイン以外でもスケルチは開きますが、音声は聞こえません。(DVモード)

◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ機能での待ち受け受信中、呼び出しを受けるとビープ音で知らせてくれる便利な機能です。

- ID-1コントロールソフトウェアの場合は、呼び出しを受けると、ビープ音“**ピロピロピロ**”が30秒間鳴り続けますので、聞き逃すことがありません。
- RC-24の場合は、呼び出しを受けると、ビープ音“**ピロピロピロ**”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイに“🔔”を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことがありません。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [DIAL]またはテンキーで、運用周波数を設定します。

② [MODE]をクリックし、FMモードまたはDV(デジタル音声)モードに設定します。

● FMモードの場合

③ [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
- ・表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)...　F7」をクリックします。
- ・パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
- ・またはツールバーの をクリックします。

④ CTCSSトーンのセルにカーソルを移動し、ダブルクリックします。
- ・トーン周波数一覧表が表示されます。
  希望のトーン周波数をクリックします。

● DV(デジタル音声)モードの場合

③ コールサイン選択画面、またはメモリーチャンネル編集画面を表示します。
➥[CS]をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。

相手局と自局のコールサインを入力し、
[OK]をクリックする

④ [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
- ・表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)...　F7」をクリックします。
- ・パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
- ・またはツールバーの をクリックします。

⑤ デジタルコードのセルにカーソルを移動させ、クリックします。
パソコンのキーボードから2ケタのコード(00〜99)を入力します。

⑤ [TONE]または[DSQL]をクリックします。

・**FMモード時のトーンスケルチ/ポケットビープの設定**
[TONE]をクリックするごとに、**“通常モード”**(消灯)→**“TONE”**(トーンエンコーダー)→**“PBEEP”**(ポケットビープ)→**“TSQL”**(トーンスケルチ)→**“通常モード”**と切り替わります。

・**DVモード時のコードスケルチ/ポケットビープの設定**
[DSQL]をクリックするごとに、**“通常モード”**(消灯)→**“DBEEP”**(デジタルコールサインスケルチのポケットビープ)→**“DSQL”**(デジタルコールサインスケルチ)→**“CBEEP”**(デジタルコードスケルチのポケットビープ)→**“CSQL”**(デジタルコードスケルチ)→**“通常モード”**と切り替わります。

⑥ マイクの[PTT]スイッチを押して相手局を呼び出し、通常の運用と同様に交信します。

【注意】

● **“DSQL”**(デジタルコールサインスケルチ)は交信相手のコールサインを判断して動作しているため、3局以上の複数局で運用するときは、**“CSQL”**(デジタルコードスケルチ)で運用してください。

● DVモード運用時の簡易データ通信では、**“DSQL”**(デジタルコールサインスケルチ)、**“CSQL”**(デジタルコードスケルチ)は動作しません。
音声通話のみ動作します。

● **ポケットビープで待ち受け受信しているとき(FMモード)**

呼び出しを受け、30秒以内にマイクの[PTT]スイッチを押して通話すると、ポケットビープ機能は解除され、トーンスケルチ機能のみの動作に変わります。
また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、**“PBEEP”**と“PBEEP”表示が交互に点滅を続け、呼び出されたことを知らせます。
ポケットビープ機能を解除するときは、[TONE]をクリックします。

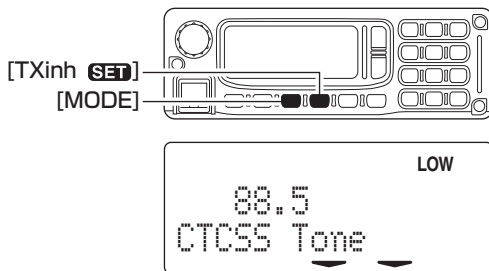
● **ポケットビープで待ち受け受信しているとき(DVモード)**

呼び出しを受け、30秒以内にマイクの[PTT]スイッチを押して通話すると、ポケットビープ機能は解除され、デジタルスケルチ機能のみの動作に変わります。
また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、**“PBEEP”**と“PBEEP”表示が交互に点滅を続け、呼び出されたことを知らせます。
ポケットビープ機能を解除するときは、[DSQL]をクリックします。

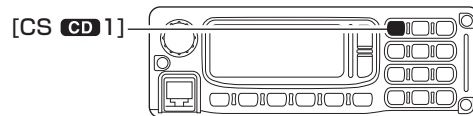
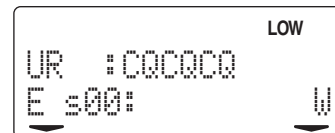
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [DIAL]またはキーパッドで、運用周波数を設定します。
② [MODE]を押し、FMモードまたはDV(デジタル音声)モードに設定します。

● **FMモードの場合**

③ [TXinh SET]を長く(約0.5秒)押し、セットモードにします。
④ [TXinh SET]または[MODE]を短く押し、「CTCSS tone」項目を選択します。
・[DIAL]を回し、トーン周波数を設定します。

● **DV(デジタル音声)モードの場合(コールサインの設定)**

③ [CS CD 1]を短く押し、UR(相手局)設定画面を表示します。
・[V/M]を短く押すと、UR(相手局)のコールサイン入力状態になります。
　コールサイン入力は(☞P47～49)を参照してください。
・すでに相手局のコールサインが書き込まれているときは、[DIAL]で選択します。

④ [CS CD 1]を短く押し、MY(自局)設定画面を表示します。
・[V/M]を短く押すと、MY(自局)のコールサイン入力状態になります。
　コールサイン入力は(☞P47～49)を参照してください。
・すでに自局のコールサインが書き込まれているときは、[DIAL]で選択します。

●相手局設定画面(初期設定画面)

●自局設定画面(初期設定画面)

● DV(デジタル音声)モードの場合(コードの設定)

③ [TXinh SET]を長く(約0.5秒)押し、セットモードにします。
 ・[TXinh SET]または[MODE]を押し、「Digital Code」項目を選択します。

④ [DIAL]を回し、デジタルコード(00〜99)を設定します。
 ・[PWR]、[F.INP L]、[∧]/[∨]を短く押すか、[TXinh SET]を長く(約0.5秒)押すと、セットモードが解除します。

⑤ [TONE DSQ 5]を押します。
 ・FMモード時のトーンスケルチ/ポケットビープの設定
 [TONE DSQ 5]を短く押すごとに、**通常モード**(消灯)→“TONE”(トーンエンコーダー)→🔔 TSQL(ポケットビープ)→TSQL(トーンスケルチ)→通常モードと切り替わります。
 ・DVモード時のトーンスケルチ/ポケットビープの設定
 [TONE DSQ 5]を短く押すごとに、通常モード(消灯)→🔔 DSQL(デジタルコールサインスケルチのポケットビープ)→DSQL(デジタルコールサインスケルチ)→🔔 CSQL(コードスケルチのポケットビープ)→CSQL(デジタルコードスケルチ)→通常モードと切り替わります。

⑥ マイクの[PTT]スイッチを押して相手局を呼び出し、通常の運用と同様に交信します。

● ポケットビープで待ち受け受信しているとき(FMモード)

呼び出しを受け、30秒以内にマイクの[PTT]スイッチを押して通話すると、ポケットビープ機能は解除され、トーンスケルチ機能のみの動作に変わります。
また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが“🔔”表示は点滅を続け、呼び出されたことを知らせます。
ポケットビープ機能を解除するときは、[TONE DSQ 5]を押します。

通常モード

LOW
1294.500 00
FM

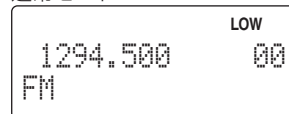
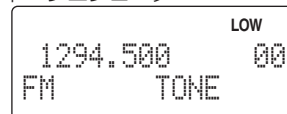
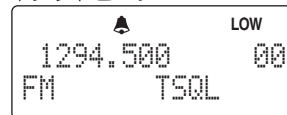
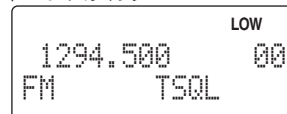
トーンエンコーダー

LOW
1294.500 00
FM TONE

ポケットビープ

🔔 LOW
1294.500 00
FM TSQL

トーンスケルチ

LOW
1294.500 00
FM TSQL

● **ポケットビープで待ち受け受信しているとき(DVモード)**

呼び出しを受けたら、30秒以内にマイクの[PTT]スイッチを押して通話すると、ポケットビープ機能は解除され、デジタルスケルチ機能のみの動作に変わります。
また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが“🔔”表示は点滅を続け、呼び出されたことを知らせます。
ポケットビープ機能を解除するときは、[TONE DSQ 5]を押します。

DVモード

```
                 LOW
 1294.500      00
DV
```

デジタルコールサイン
スケルチのポケットビープ

```
      🔔         LOW
 1294.500      00
DV       DSQL
```

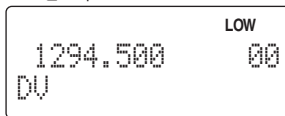
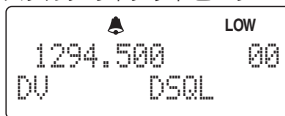
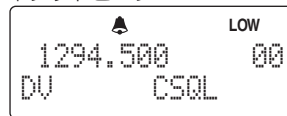
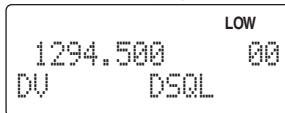
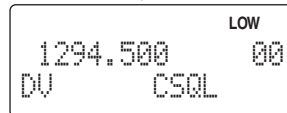
デジタルコードスケルチの
ポケットビープ

```
      🔔         LOW
 1294.500      00
DV       CSQL
```

デジタルコールサインスケルチ

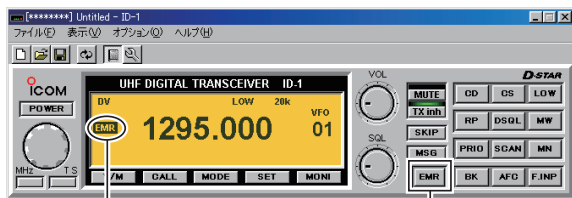
```
                 LOW
 1294.500      00
DV       DSQL
```

デジタルコードスケルチ

```
                 LOW
 1294.500      00
DV       CSQL
```

■ EMRモードの運用

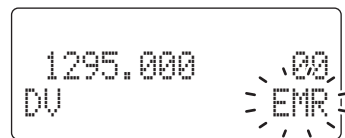
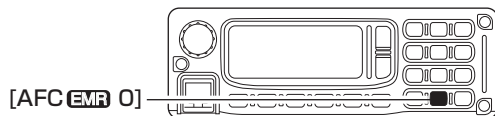
EMRモードは、DV(デジタル音声)モードで至急に連絡を取るときなどに使用します。
EMR信号を受信すると、音量が最小レベルになっていても、一定レベルで通話が聞こえるようにしています。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [DIAL]またはテンキーで、任意の周波数を設定します。
② [MODE]をクリックし、DV(デジタル音声)モードに設定します。
③ [EMR]をクリックし、EMRモード(開始)画面を表示します。
④ [OK]をクリックし、ディスプレイに“EMR”表示を点灯させます。

⑤ 通常の運用と同様に交信してください。

⑥ EMRモードを解除するときは、[EMR]をクリックします。
　•EMRモード(解除)画面が表示されます。
⑦ [OK]をクリックします。
　• EMR信号を受信したときは、受信履歴のEMRの欄に“＊”が表示されます。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [DIAL]またはキーパッドで、任意の周波数を設定します。
② [MODE]キーを押し、DV(デジタル音声)モードに設定します。
③ [AFC EMR 0]キーを長く(ビープ音が4回鳴るまで)押し、EMRモードに設定します。
　•“EMR”表示が点滅します。
④ DV(デジタル音声)モードのときは、通常の運用と同様に交信をしてください。

⑤ EMRモードを解除するときは、長く(ビープ音が2回鳴るまで)押します。

■ BK(割り込み)通信の運用

BK(割り込み)通信は、DV(デジタル音声)/DD(デジタルデータ)モードで動作します。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [DIAL]またはテンキーで、周波数を設定します。
② [MODE]をクリックし、DV(デジタル音声)モードまたはDD(デジタルデータ)モードに設定します。
③ [CS]をクリックし、コールサイン選択画面を表示します。

設定項目

- **相手局**　：相手局のコールサインを設定します。
- **RPT1**　：送り元中継局のコールサインを設定します。
- **RPT2**　：送り先中継局のコールサインを設定します。
- **自局**　：自局のコールサインを設定します。

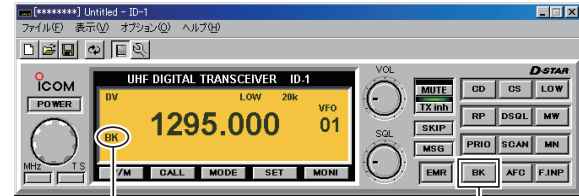
※ 相手局/自局のコールサインの設定は(☞P46)を参照してください。

※ 送り元中継局/送り先中継局のコールサインの設定は(☞P65)を参照してください。

交信している局のコールサインを入力し、[OK]をクリックする

中継局のコールサインを入力する

自局のコールサインを入力し、[OK]をクリックする

④ [BK]をクリックし、ディスプレイに“BK”表示を点灯させます。

BK表示　　クリック

⑤ 双方の通信が受信状態のときに、ブレークインコールを行ないます。

・ BK(割り込み)通信が設定された信号を受信したときは、受信履歴の割込の欄に“＊”が表示されます。

● BK(割り込み)通信の使いかた

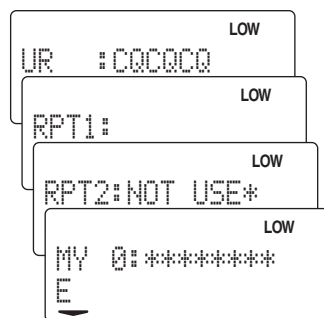
コールサインスケルチを使用しているときは、自局宛ではない信号を受信してもスケルチは開きません。
しかし、BK(割り込み)通信を使用した“BK ON”の信号を受信した場合は、他局宛の信号であってもスケルチは開きます。

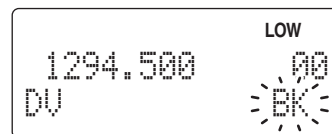
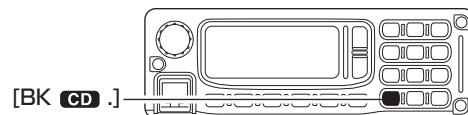
◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [DIAL]またはキーパッドで、周波数を設定します。
② [MODE]を押し、DV(デジタル音声)モードまたはDD(デジタルデータ)モードに設定します。
③ [CS CD 1]を短く押し、コールサイン選択画面を表示します。
④ [CS CD 1]を短く押すごとに、コールサイン設定項目が切り替わります。

設定項目

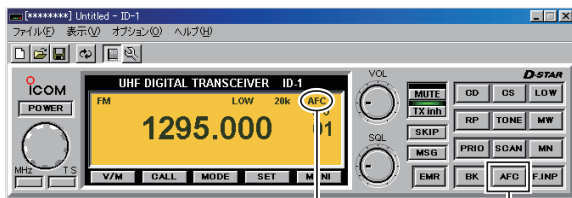
- ・UR ：相手局のコールサインを設定します。
- ・RPT1：送り元中継局のコールサインを設定します。
- ・RPT2：送り先中継局のコールサインを設定します。
- ・MY ：自局のコールサインを設定します。

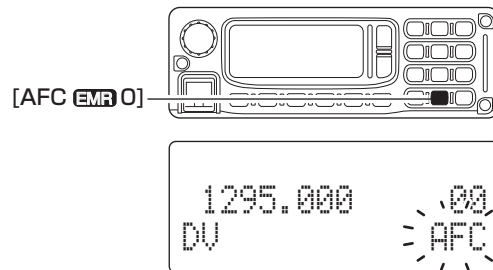
● **コールサイン初期設定画面**

※ 相手局/自局のコールサインの設定は(☞P47〜49)を参照してください。
※ 送り元中継局/送り先中継局のコールサインの設定は(☞P65、66)を参照してください。

⑤ [BK CQ .]をクリックし、ディスプレイに"BK"表示を点灯させます。
⑥ 双方の通信が受信状態のときに、ブレークインコールを行ないます。

■ AFC(自動周波数制御)機能の使いかた

1200MHz帯では、送信している局の周波数が変動することがあります。
このような時に使用します。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [MODE]をクリックし、FMモードまたはDV(デジタル音声)モードに設定します。
② [AFC]をクリックするごとに、AFC機能が**“ON/OFF”**します。
③ AFC機能選択時は、ディスプレイに**“AFC”**表示が点灯し、送信している局の周波数変動に対して、自動的に追従して、安定した受信を行うことができます。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [MODE]を押し、FMモードまたはDV(デジタル音声)モードに設定します。
② [AFC EMR 0]を短く押すごとに、AFC機能が**“ON/OFF”**します。
③ AFC機能選択時は、ディスプレイに“AFC”表示が点灯し、送信している局の周波数変動に対して、自動的に追従して安定した受信を行うことができます。

【ご注意】
AFC機能動作時、現在受信している周波数の近くに強力な信号がある場合、強力な信号に追従することがありますのでご注意ください。

12

■ モニター機能の使いかた

- ノイズスケルチ、トーンスケルチ、デジタルコードスケルチ、デジタルコールサインスケルチの各諸機能動作時、スケルチを開くことができ、受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に効果があります。
- デジタル(DV/DD)モード選択時は、**"DIGITAL"**(デジタル)モニターと**"ANALOG"**(アナログ)モニター(FMモードと同様の動作)が選択できます。
  デジタルモニターとアナログモニターの切り替えは、セットモード(☞P97、101)で選択します。
- レピータまたはデュプレックス運用時は、送信周波数をモニターします。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

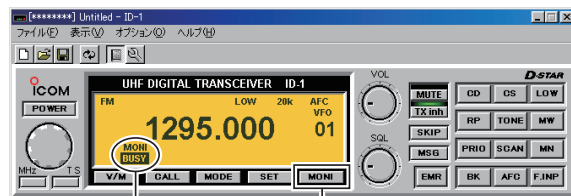
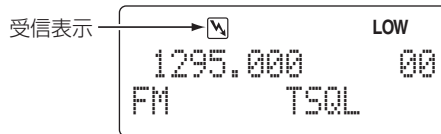
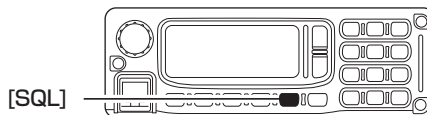
① [MONI]をクリックすると、スケルチを開いて受信します。
"BUSY"と"MONI"表示が点灯し、モニター機能が動作します。
・レピータまたはデュプレックス運用時は、送信周波数をモニターします。

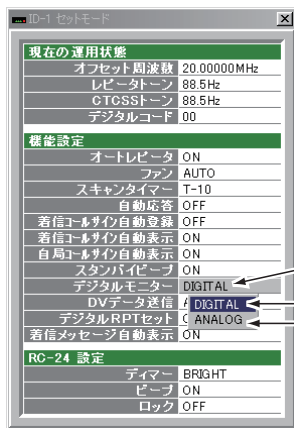
②再度、[MONI]をクリックするとモニター機能が解除します。

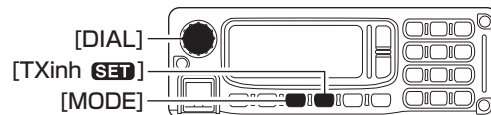
《ご参考》
デジタルモードで交信中に、Sメーターが振れているのに相手局の音声が聞こえないときは、FM局と混信していることがあります。このようなときは、セットモードの**「デジタルモニター」**の設定を"ANALOG"にセットしておくと、信号がすばやく確認できます。(☞P115)

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [SQL]を長く押している間は、スケルチが開いて受信します。
"[受信表示]"表示が点灯し、モニター機能が動作します。
・レピータまたはデュプレックス運用時は、送信周波数をモニターします。

② [SQL]から指を離すと、モニター機能が解除します。

● ID-1コントロールソフトウェアによるデジタルモニター機能の設定

① [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
・表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)... F7」をクリックします。
・パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
・ツールバーのをクリックします。
② デジタルモニターのセルをダブルクリックします。
表示メニューから"DIGITAL"または"ANALOG"をクリックします。
③ セットモードを終了するときは、右上隅の(クローズ)ボタンをクリックします。
・または、①の操作を繰り返すごとに、セットモード画面が"ON/OFF"します。

● RC-24(リモートコントローラー)によるデジタルモニター機能の設定

① [MODE]を押し、DV/DDモードを選択します。
② [TXinh SET]を長く(約0.5秒)押し、セットモードにします。
③ [TXinh SET]または[MODE]を押し、Digital Monitor項目を選択します。
④ [DIAL]を回し、"DIGITAL"または"ANALOG"を選択します。
⑤ [PWR]、[F.INP L]、[∧]/[∨]を短く押すか、[TXinh SET]を長く(約0.5秒)押すと、セットモードが解除します。

【ご注意】
デジタルモードのモニター機能について
● モニター機能が"DIGITAL"のときは、送信周波数が表示されますが、モニター音は出ません。
● モニター機能が"ANALOG"のときは、送信周波数が表示され、モニター音が出ます。

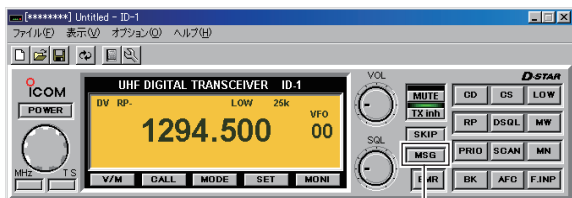
■ メッセージ機能の使いかた

DV(デジタル音声)モードで音声通信しながら、同時にテキストメッセージでの通信ができます。

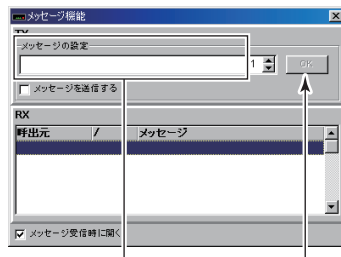
- 最大20文字のメッセージメッセージを送受信できます。
- 使用できる文字は、半角英数字と記号です。

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① **「■DV(デジタル音声)モードの運用」**(☞P50、51)、または**「■デジタルレピータの運用」**(☞P64、65)を参照して、運用周波数、自局と相手局のコールサインなどを設定します。

② **[MSG]**をクリックします。

クリック

③ メッセージ機能画面を表示します。

④ キーボードから、メッセージの設定欄に20文字までのメッセージを入力して、**[OK]**をクリックします。
- 使用できる文字は、半角英数字と記号です。
- 最大6件のメッセージを、あらかじめ登録できます。
登録したメッセージを選択するときは、[▲]/[▼]をクリックしてください。

20文字までのメッセージを入力して、**[OK]**をクリック

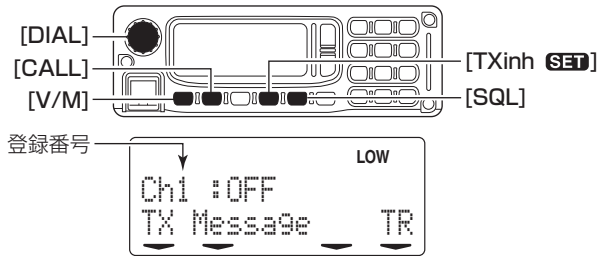
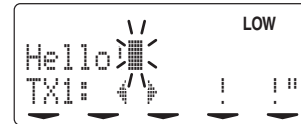
⑤ **「メッセージを送信する」**をクリックして、チェック(“✔”)を入れます。

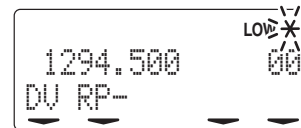
⑥ マイクの**[PTT]**スイッチを押すと、設定したメッセージを送信します。
- 会話しながらメッセージを送信できます。
- 30秒に1回、自動的にメッセージを送信します。

⑦ マイクの**[PTT]**スイッチを離して、受信状態にします。
相手局からメッセージを受信すると、RX欄に相手局のコールサインとメッセージを表示します。
- 最大20件のメッセージを記録できます。
- 同じコールサインの局から受信した、同じ内容のメッセージは重複して表示(記録)しません。

《ご参考》
「メッセージ受信時に開く」にチェック(“✔”)を入れておく(初期設定値)と、メッセージを受信したとき、自動でメッセージ機能画面を表示します。

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① **「■DV(デジタル音声)モードの運用」**(☞P51)、または**「■デジタルレピータの運用」**(☞P65、66)を参照して、運用周波数、自局と相手局のコールサインなどを設定します。
② [TXinh SET]を押して、メッセージ画面を表示します。
・"RX Message"画面を表示したときは、[SQL]を押して"TX Message"画面を選択してください。

③ [DIAL]を回し、登録番号を選択します。
④ [V/M]を押すと、1ケタ目が点滅します。
⑤ [MODE](▶)を押すと枠カーソルが右に移動し、[CALL](◀)を押すと枠カーソルが左に移動します。
⑥ [SQL]を押し、入力する文字(下記参照)を選択します。
・AB：英文字；A ～Z(大文字)
・ab：英文字；a ～z(小文字)
・12：数字　；0～9
・_/：記号　；_ (スペース)、/
・!"：英文字；! " # $ % & ' ( ) ✱ + , – . : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ~
⑦ [DIAL]を回し、文字を選択します。
⑧ [TXinh SET]を押すと、選択した文字が確定し、次のケタに点滅が移動します。
⑨ 前記⑤ ～⑧を繰り返し、メッセージを入力します。

⑩ [V/M]を押すと、メッセージを書き込み、メッセージ画面に戻ります。
⑪ [CALL]を押して、メッセージ送信機能を"ON"にします。

⑫ [TXinh SET]を押して、周波数表示画面に戻します。
⑬ マイクの[PTT]スイッチを押すと、設定したメッセージを送信します。
・会話しながらメッセージを送信できます。
・30秒に1回、自動的にメッセージを送信します。
⑭ マイクの[PTT]スイッチを離して、受信状態にします。
相手局からメッセージを受信すると、メッセージ受信インジケーター("✱")が点滅します。

(☞次ページへつづく)

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作(つづき)

⑮ [TXinh SET]を押して、メッセージ画面を表示します。
- "TX Message"画面を表示したときは、[SQL]を押して"RX Message"画面を選択してください。
- メッセージ受信インジケーター("✱")が消灯します。

⑯ [CALL]または[MODE]を押して、メッセージをスクロールします。
- [CALL]を押すと、左に1文字、[MODE]を押すと、右に1文字スクロールします。

⑰ [V/M]を押すと、相手局のコールサインを表示します。

⑱ [TXinh SET]を押して、周波数画面表示に戻ります。

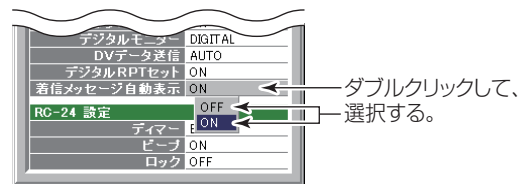
《ご注意》
RC-24(リモートコントローラー)では、メッセージを1件だけ記憶できます。新しいメッセージを受信すると、1件目のメッセージを表示できません。
また、一度、本体の電源を"OFF"にすると、受信したメッセージは消去されます。
先に受信した、または電源を"OFF"にする前に受信したメッセージを確認するときは、ID-1コントロールソフトウェアのメッセージ機能画面でご確認ください。

《ご参考》
メッセージを受信したとき、セットモードの着信メッセージ自動表示の設定(Auto RxMSG Disp)によって、受信したメッセージを自動でスクロールして表示できます。

◇ 着信メッセージ自動表示の設定

● ID-1コントロールソフトウェアによる操作

① [SET]をクリックし、セットモード画面を表示します。
- 表示(V)メニューから「セットモードの編集(C)... F7」をクリックします。
- パソコンのファンクションキー[F7]を押します。
- ツールバーの をクリックします。

② 着信メッセージ自動表示のセルをダブルクリックして、"ON/OFF"を選択します。
- ON ：受信したメッセージを自動でスクロールして表示する。(初期設定値)
- OFF ：メッセージを表示しない。

③ 右上隅の (クローズ)ボタンをクリックして、セットモード画面を閉じます。
- または、①と同じ操作をします。

●RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [TXinh SET]を長く(約0.5秒)押し、セットモードにします。

② [TXinh SET]または[MODE]を押し、Auto RxMSG Disp項目を選択します。

③ [DIAL]を回し、設定内容を選択します。

・ON :受信したメッセージを自動でスクロールして表示する。(初期設定値)

・OFF :メッセージを表示しない。

④ [PWR]、[F.INP L]、[∧]/[∨]を短く押すか、[TXinh SET]を長く(約0.5秒)押して、セットモードを解除します。

13 保守について

■リセット操作について

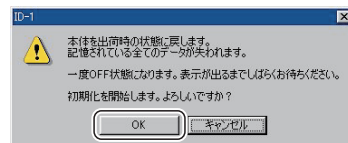
静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作してディスプレイの表示がおかしくなったときは、リセット操作をしてください。

● **リセット機能**

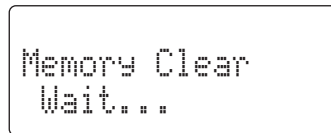
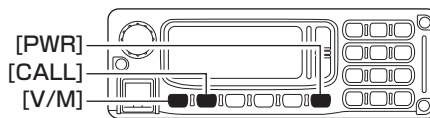
すべての操作モードが初期設定値(工場出荷時の状態)に戻りますので、運用に必要な情報をセットしなおしてご使用ください。
運用モード、VFO周波数、受信モード、チューニングステップ(TS)、M-CH、セットモードなど。

> **《ご参考》**
> リセット操作を行う前に、ファイル(F)メニューから「名前を付けて保存(A)　」をクリックし、現在のメモリーチャンネル編集画面の内容を保存しておくと便利です。
> ファイル名(Untitled.icf)で保存されます。
> (ID-1コントロールソフト使用時)

◇ ID-1コントロールソフトウェアによる操作

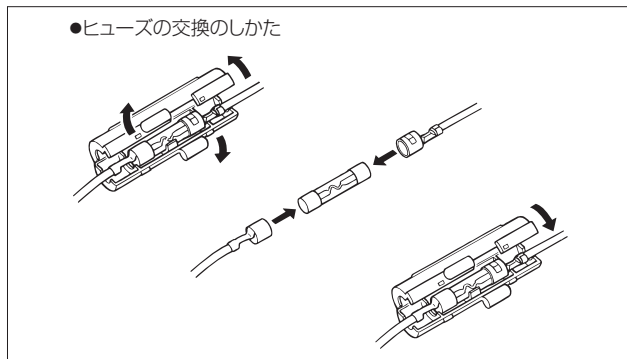
① ファイル(F)メニューから「無線機の初期化(N)　Ctrl＋N」をクリックし、初期化画面を表示します。
・パソコンのキーボードから、[Ctrl]押しながら[N]を押します。
・ツールバーの をクリックします。
② [OK]をクリックします。
いったん電源が**"OFF"**になり、数秒後に**"ON"**になります。

クリック

◇ RC-24(リモートコントローラー)による操作

① [POWER]を押し、いったん電源を切ります。
② [V/M]と[CALL]を同時に押しながら[PWR]を押し、電源を入れます。
③ ディスプレイに"Memory Clear Wait...."が表示されます。

■ヒューズの交換について

ヒューズが切れ本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

① DC電源ケーブルのヒューズホルダーは下記の図を参照し、ホルダーを開けます。
② 切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズを元通りに納めます。

●ヒューズの交換のしかた

⚠警告:
指定以外のヒューズは絶対に使用しないでください。
ヒューズのない電源ケーブルは使用しないでください。
発火、火災などの原因となります。

■故障のときは

● **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**

「■故障かな？と思ったら(☞P122)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◇弊社製品のお問い合わせ先について

● お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社　サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)
◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)
受付(平日 9:00～17:00)
電子メール:support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ:http://www.icom.co.jp/

● **弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。**

■故障かな？と思ったら

下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、その状態を具体的にお問い合わせください。

状　　態	原　　因	処　　置	参照
●電源が入らない	◎DC電源ケーブルの接続不良 ◎電源の逆接続 ◎ヒューズの断線	⦿接続をやりなおす ⦿正常に接続し、ヒューズを取り替える ⦿原因を取り除き、ヒューズを取り替える	P5 P5、117 P117
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎スケルチレベルが最大になっている ◎外部スピーカーの接続不良	⦿[VOL]を調整する ⦿[SQL]を調整する ⦿外部スピーカープラグが正常に接続されているか、またはケーブルが断線していないかを点検する	P40 P40、41 P4
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート	⦿同軸ケーブルを点検し、補修する	P6
●電波が出ないか、電波が弱い	◎送信出力が“LOW”になっている ◎同軸ケーブルの断線またはショート	⦿[LOW]、[LOW 3]を短く押し、“HIGH”パワーにする ⦿同軸ケーブルを点検し、補修する	P50 P6
●送信しても応答がない	◎デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違っている	⦿[RP]、[RP 4]を短く押し、デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする	P67~69
●周波数の設定ができない	◎ロック機能が動作している ◎メモリーモードまたはCALL-CHモードになっている	⦿ロック機能を解除する ⦿[V/M]を押し、VFOモードにする	P44 P41
●10MHzまたは1MHzステップの可変操作にならない	◎メモリーモードまたはCALL-CHモードになっている	⦿[V/M]を押し、VFOモードに戻す	P41
●変調がかからない	◎マイクコネクターの接続不良	⦿マイクコネクターの接続ピンを点検する	P7、24

状　　態	原　　因	処　　置	参照
● DDモード運用時、正常に通信できない	◎イーサネットケーブルの接続不良	⦿イーサネットケーブルの接続を確認する またはイーサネットケーブルを交換してみる	P7、8
● 周波数表示が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している	⦿リセット操作を行う	P120
● プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎PROGRAM-CH(PA/PB、MPA/MPB)に同じ周波数が書き込まれている	⦿**[V/M]**を押し、VFOモードにする ⦿PROGRAM-CH(PA/PB、MPA/MPB)に違う周波数を書き込む	P41 P88、89
● メモリースキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	⦿**[V/M]**を押し、メモリーモードにする ⦿2CH以上をM-CHに書き込む	P41 P75、76

14 定　格

■ 一般仕様

- 周波数範囲　:1260.000～1300.000MHz
- 電波型式　:F1D、F7W、F3E
- アンテナインピーダンス　:50Ω不平衡
- 電源電圧　:13.8V ±15%
- 消費電流　:受信最大出力時　1.5A 以下
送信(High)　7.0A 以下
送信(Low)　3.0A 以下
- 使用温度範囲　:－10℃～＋60℃
- 周波数安定度　:±2.5ppm(－10℃～＋60℃)
- 周波数分解能　:5/6.25/10/12.5/20/25/50/100kHz
- 外形寸法　:141(W)×40(H)×165.8(D)mm（突起物を除く）
- 重量　:約1.2kg(付属品を除く)

■ 送信部

- 送信出力　(FM)　:High/10W、Low/1W
(デジタル)　:High/10W、Low/1W
- 変調方式　(FM)　:リアクタンス変調
(デジタル)　:直交変調
- 最大周波数変移　:FM　±5kHz
- スプリアス発射強度　:100µW以下（帯域外領域）
50µW以下（スプリアス領域）
- マイクロホンインピーダンス:600Ω

■ 受信部

- 受信方式
(FM)　:トリプルスーパーヘテロダイン
(デジタル音声)　:トリプルスーパーヘテロダイン
(デジタルデータ)　:ダブルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数
(FM/デジタル音声):1st　243.950MHz
:2nd　31.05MHz
:3rd　450kHz
(デジタルデータ)　:1st　243.950MHz
:2nd　10.70MHz
- 受信感度　:FM(12dB SINAD)
－15dBμ(0.18μV)以下
:デジタル音声(BER 1x10⁻²)
－9dBμ(0.35μV)以下
:デジタルデータ(BER 1x10⁻²)
＋4dBμ(1.58μV)以下
- スケルチ感度　:－15dBμ(0.18μV)以下
(FM/Threshold)
- 選択度
(FM)　:12kHz以上/6dB
30kHz以下/60dB
(デジタル音声)　:6kHz以上/6dB
18kHz以下/50dB
(デジタルデータ)　:140kHz以上/6dB
520kHz以下/40dB
- スプリアス妨害比　:50dB以上
- 低周波出力　:2W Typ. (13.8V時)
- 低周波インピーダンス　:8Ω

■ RC-24(リモートコントローラー)

- 消費電流　：70mA Typ.
- 使用温度範囲　：－10℃～＋60℃
- 外形寸法　：150(W)×50(H)×49.5(D)mm（突起物を除く）
- 重量　：約220g (ブラケットを除く)

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため、予告なく変更することがあります。

15 別売品一覧表

- HM-154　ハンドマイクロホン（補修用）
- OPC-440　マイク延長ケーブル(5m)
- OPC-647　マイク延長ケーブル(2.5m)
- SP-7　外部スピーカー
- SP-10　外部スピーカー
- SP-22　外部スピーカー（補修用）
- MB-17A　モービルブラケット
- RC-24　リモートコントローラー

■免許申請の書きかた

本機は、技術基準適合証明を受けた「技適証明送受信機」です。

免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、次のように記入してください。

なお、免許の申請は総務省のホームページ「電波利用 電子申請・届出システム」(http://www.denpa.soumu.go.jp/public/index.html)でも受け付けています。

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力
	□ 1.9M	W	☑ 1200M	□ 3SA ☑ 4SA □ 3SF □ 4SF □	10W
	□ 3.5M	W	□ 2400M	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 3.8M	W	□ 5600M	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 7M	W	□ 10.1G	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W

本機に、技適証明マークと技適証明番号が印刷されたシールを貼っています。その番号を記入してください。必ず、申請に使用するトランシーバー本体をご確認ください。

※ 整理番号

16 工事	装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称個数	終段管 電圧	定格出力 (W)
	第1送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更	技適番号を記入する	1200MHz帯 F1D,F7W,F3E	F3E リアクタンス変調 F1D,F7W 直交変調		V	10W
	送信空中線の型式			周波数測定装置の有無	□ 有(誤差0.025%以内) ☑ 無			
	添付図面	☑ 送信機系統図	その他の工事設計	☑ 法第3章に規定する条件に合致する。				

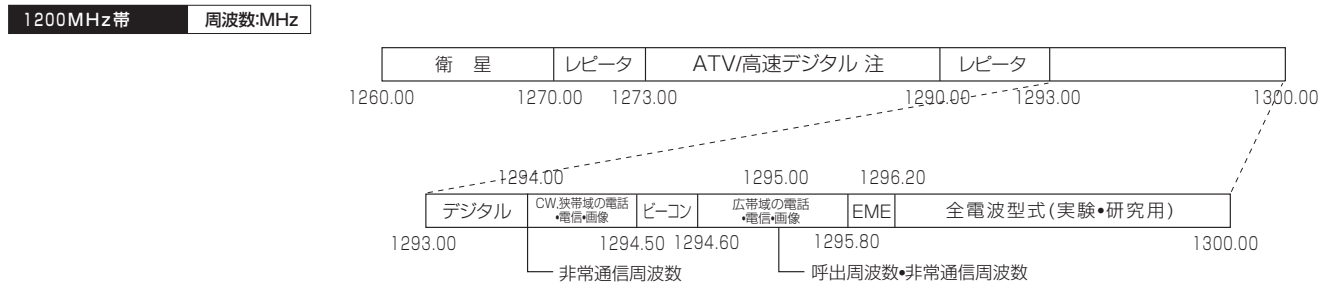
使用するアンテナの型式を記入してください。

「技術基準適合証明番号」を記入しているときは、記入する必要はありません。
付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブースターなど)を付ける場合は、非技適証明送受信機となりますので、TSS株式会社の保証を受ける必要があります。
したがって、網掛け部分に発射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信系統図を添付して申請してください。

※工事設計書には、一括記載コードではなく、個別の電波型式を記入してください。

■バンド使用区別について

電波を発射するときは、下記の使用区別にしたがって運用してください。
なお、使用区別は改訂される場合があります。最新の情報はJARLニュースやJARLホームページなどでご確認ください。

1200MHz帯 周波数:MHz

【注】「高速デジタル」は、占有周波数帯幅が9MHz以上のものに限る。

狭帯域:占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域:6kHzを超える

【移動運用についてのご注意】

1200MHz帯の移動運用は電波法で1Wに制限されていますのでご注意ください。